

2024 年度 シラバス (講義要綱)

2023 年度以降入学生
環境情報学部



四日市大学

卒業必要単位数（環境情報学部）

【2023年度以降入学生】

区 分				卒業必要単位数				
全学共通科目	共通基礎科目			必修	14単位	留学生は日本語で4単位	必修 20単位を含めて 58単位以上	合計 130単位以上
	共通教養科目	語学選択科目		選択	4単位以上	留学生は日本語で4単位以上		
		一般教養科目	社会科学系列	選択	4単位以上			
			人文科学系列	選択	4単位以上			
			自然科学系列	選択	4単位以上			
	共通応用科目	キャリア必修科目		必修	6単位			
		キャリアスキル科目	キャリア選択科目	選択	いずれかのユニットを選択し、選択したユニットからの10単位以上を含めて、14単位以上			
			各ユニット	選択				
		特別科目		選択				
学部専門科目	学部基礎科目			必修	8単位		必修 20単位を含めて 72単位以上	
	演習科目			必修	12単位			
	専攻間共通科目			選択	6単位以上			
	環境科学専攻			専攻必修	いずれかの専攻を選択し、選択した専攻必修6単位を含めて、30単位以上修得すること。さらに、専攻外(他専攻・他学部)で4単位以上修得すること。			
	メディア情報専攻			選択				
	他学部開設科目			選択				

カリキュラム表の見方

区分	基礎や専門、専攻・分野・コースなどの区分を記載します。
授業科目名	科目の名称・サブタイトルを記載します。
単位数	科目ごとの単位数を記載します。丸付数字は必修科目を表します。
配当年次	科目が開講されている学年・学期を記載します。 ○ ……半期週1回開講 ◎ ……半期週2回開講 集 ……集中講義 ▲ ……その他の開講 ……不開講科目
講師区分	本学の教員かそうでないかを記載します。 兼 ……他学部所属教員 非 ……他大学、他組織所属教員 空白……本学部所属の教員
担当教員	科目を担当する教員名を記載します。
ページ	シラバス掲載ページを記載します。
備考	特記事項を記載します。

区分	2023年度以降入学生 授業科目名	単位 数	配当年次								講 師 区 分	担当教員	ペ ー ジ	備考		
			1年次		2年次		3年次		4年次							
			前	後	前	後	前	後	前	後						
全学共通科目	共通教養科目	「人間たれ」Ⅰ	②	○								鬼頭 浩文 他	1			
		「人間たれ」Ⅱ	②		○							兼 小林 慶太郎 他	2			
		四日市学	②			○						兼 岡 良浩 他	3			
		基礎コンピュータⅠ	②	○								片山 清和	4			
												牧田 直子				
		基礎コンピュータⅡ	②		○							片山 清和	5			
												牧田 直子				
		基礎英語Ⅰ	②	○								青木 陽子	6			
												樋口 晶子				
		基礎英語Ⅱ	②		○							青木 陽子	7			
												樋口 晶子				
		基礎日本語Ⅰ	②	◎								兼 加納 光	8	留学生科目		
												伊藤 晴苗				
												非 安田 由紀子				
		基礎日本語Ⅱ	②		◎							兼 加納 光	9	留学生科目		
												非 伊藤 晴苗				
												非 安田 由紀子				
		語学選択科目	英語コミュニケーションⅠ	2			○						青木 陽子	10		
													樋口 晶子	11		
												兼 ゴードン リース	12			
	英語コミュニケーションⅡ		2				○					青木 陽子	13			
												樋口 晶子	14			
												兼 ゴードン リース	15			
	中国語Ⅰ		2			○						兼 加納 光	16			
	中国語Ⅱ		2				○					兼 加納 光	17			
	ポルトガル語Ⅰ		2			○						兼 フェリペ フェハリー	18			
	ポルトガル語Ⅱ		2				○					兼 フェリペ フェハリー	19			
	海外語学研修a(英語)		2													
	海外語学研修b(中国語)		2													
	日本語中級Ⅰ		2			○						非 伊藤 晴苗	20	留学生科目		
												非 安田 由紀子				
	日本語中級Ⅱ		2				○					非 伊藤 晴苗	21	留学生科目		
												非 安田 由紀子				
	社会科学系		政治学概論	2	○								兼 吉川 和挟	22		
			経済学概論	2		○							鬼頭 浩文	23		
			社会学概論	2	○								兼 三田 泰雅	24		
			社会福祉概論	2		○							兼 松本 彩月	25		
			日本国憲法概論	2	○								兼 中西 紀夫	26		
			民法概論	2		○							非 土志田 佳枝	27		
			哲学概論	2	○								兼 フェリペ フェハリー	28		
			文学概論	2	○								兼 永井 博	29		
			歴史学概論	2	○								兼 浅井 雅	30		
			教育学概論	2		○							非 長谷川 誠	31		
			地理学概論	2												
			心理学概論	2		○										
			自然科学系	化学概論	2	○								田中 伊知郎	32	オンデマンド
														牧田 直子	33	
				地学概論	2	○								非 森 康則	34	オンデマンド
				生物学概論	2		○							田中 伊知郎	35	
				数学概論	2	○								金岩 稔	36	
				情報科学概論	2	○								池田 幹男	37	
				データサイエンス概論	2		○							片山 清和	38	
													前川 督雄			
	キャリア応用科目		キャリア基礎a	②	○	○							兼 高田 晴美	39	オンデマンド	
			キャリア基礎b	②				○					兼 三田 泰雅 他	40		
		キャリア基礎c	②													
		ビジネスマナー	2				○					非 長野 ゆき子	41			
		ビジネスコミュニケーション	2													
		インターンシップa	2				▲					鬼頭 浩文	42			
												兼 岡 良浩				
		インターンシップb	2													
		キャリアのための日本語力Ⅰ	2											留学生科目		
		キャリアのための日本語力Ⅱ	2											留学生科目		
		ビジネス英語a	2	○								樋口 晶子	43			
		ビジネス英語b	2		○							樋口 晶子	44			
		ビジネス英語c	2			○						青木 陽子	45			
		ビジネス英語d	2				○					青木 陽子	46			
		ビジネス英語e	2													
		ビジネス英語アドバンスⅠ	2													
		ビジネス英語アドバンスⅡ	2													
	英語リーディングⅠ	2														
	英語リーディングⅡ	2														

区分		2023年度以降入学生 授業科目名	単位 数	配当年次								講 師 区 分	担当教員	ペ ー ジ	備考		
				1年次		2年次		3年次		4年次							
				前	後	前	後	前	後	前	後						
全学共通科目	共通応用科目	IT基礎力養成ユニット	ITリテラシー	2	○									柳澤 翔士	47		
			Webプログラミング1	2		○								池田 幹男	48		
													片山 清和				
													柳澤 翔士				
			Webプログラミング2	2			○							柳澤 翔士	49		
			文書表現ツール1	2		○								池田 幹男	50		
			文書表現ツール2	2				○						柳澤 翔士	51		
			データ操作ツール1	2			○							池田 幹男	52		
		データ操作ツール2	2														
		プレゼンテーションツール	2														
		公務員養成ユニット	公務のための判断推理	2	○									兼	高田 晴美	53	オンデマンド
			公務のための数的推理	2		○								兼	高田 晴美	54	
			公務のための政治学	2		○								兼	小林 慶太郎	55	
			公務のための経済学	2			○								鬼頭 浩文	56	オンデマンド
			公務のための法学	2			○						兼	中西 紀夫	57		
			公務のための人文科学	2				○					兼	浅井 雅	58		
			公務のための自然科学	2													
			公務のための現代文・資料解釈	2													
			公務のための英文理解	2													
			公務のための論文・面接	2													
		社会調査士養成ユニット	社会調査入門	2	○									兼	三田 泰雅	59	
			社会調査の技法	2		○								兼	三田 泰雅	60	
			統計学入門	2		○									田中 伊知郎	61	
			社会統計学	2			○								田中 伊知郎	62	
			フィールドワーク論	2			○						兼	倉田 英司	63		
	データ解析の技法		2				○						古山 歩	64			
	社会調査実習1		2														
	社会調査実習2		2														
	スポーツライセンユニット		スポーツ指導論	2	○									兼	若山 裕晃	65	オンデマンド
			スポーツトレーニング論	2	○									兼	若山 裕晃	66	
		アスリート育成論	2		○							兼	若山 裕晃	67			
		スポーツ心理学	2		○							兼	若山 裕晃	68			
		スポーツ生理学	2			○						兼	小泉 大亮	69			
		スポーツ応用科学	2			○						兼	小泉 大亮	70			
		スポーツメディカル論	2				○					兼	小泉 大亮	71			
		スポーツ栄養学	2				○					非	櫻井 智美	72			
		地域スポーツ論	2														
		スポーツ政策論	2														
	特別科目	全学共通特別講義a	2		▲								兼	倉田 英司	73		
		全学共通特別講義b	2	▲													
		全学共通特別講義c	2	▲													
		全学共通特別講義d	2	▲													
		全学共通特別講義e	2	▲													
		ボランティア活動a	2	▲									兼	松本 彩月	74		
		ボランティア活動b	2	▲									兼	松本 彩月	75		
		国際協力研修	2		▲								兼	岩崎 祐子	76		
		海外環境研修	2		▲									青木 陽子	77		
		他大学開放科目a	2	▲													
		他大学開放科目b	2			▲											
		他大学開放科目c	2			▲											
他大学開放科目d		2			▲												
他大学開放科目e		2			▲												

区分	2023年度以降入学生 授業科目名	単位 数	配当年次								講 師 区 分	担当教員	ペ ー ジ	備 考			
			1年次		2年次		3年次		4年次								
			前	後	前	後	前	後	前	後							
学部専門科目	学部 基 礎 科 目	環境情報学概論Ⅰ	②	○									前川 督雄	78			
		環境情報学概論Ⅱ	②		○								田中 伊知郎	79			
													前川 督雄	80			
		入門演習a	②	○								池田 幹男	81				
												大八木 麻希					
												樋口 晶子					
												前川 督雄					
													柳澤 翔士				
		入門演習b	②		○								池田 幹男	82			
													大八木 麻希				
	樋口 晶子																
	前川 督雄																
												柳澤 翔士					
	演 習 科 目	基礎演習a	②			○							片山 清和	83			
													黒田 淳哉				
													足立 明信				
													柳澤 翔士				
													柳瀬 元志				
													野呂 達哉				
													廣住 豊一	85			
		牧田 直子															
		基礎演習b	②			○							片山 清和			86	
													黒田 淳哉				
													足立 明信				
													柳澤 翔士				
													柳瀬 元志	87			
		大八木 麻希															
		野呂 達哉															
		廣住 豊一															
		専門演習a	②														
		専門演習b	②														
	卒業研究a	②															
	卒業研究b	②															
	専 攻 間 共 通 科 目	メディアリテラシー	2	○									前川 督雄	89			
		技術者研究者倫理	2														
		データサイエンスⅠ	2			○							古山 歩	90			
		データサイエンスⅡ	2				○						古山 歩	91			
		データサイエンスⅢ	2														
		環境データ処理	2														
		環境情報特別講義a	2														
		環境情報特別講義b	2														
		環境情報特別講義c	2														
		環 境 科 学 専 攻	必 修 専 攻	環境科学	2		○							廣住 豊一	92		
	生態学			2			○						大八木 麻希	93			
	環境保全学			2				○					野呂 達哉	94			
	自 然 環 境		地球環境学	2	○									廣住 豊一	95		
			環境化学	2		○								牧田 直子	96		
			森林環境学	2		○								田中 伊知郎	97		
			野生動物学	2				○						野呂 達哉	98		
			土壌環境学	2			○							廣住 豊一	99		
			陸水環境学	2				○						大八木 麻希	100		
			河川環境学	2													
			環境生物学	2		○								古山 歩	101		
環境微生物学			2			○							大八木 麻希	102			
海洋環境学			2			○							千葉 賢	103			
海洋生物学			2														

区分		2023年度以降入学生 授業科目名	単位 数	配当年次								講 師 区 分	担当教員	ペ ー ジ	備 考
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				前	後	前	後	前	後	前	後				
学部専門科目	環境科学専攻	人と環境	環境エネルギー論	2											
			資源循環論	2											
			都市環境学	2				○				非	森 康則	104	
			生活環境学	2		○							廣住 豊一	105	
			環境社会学	2		○						非	平 春来里	106	
			地域社会と環境	2			○						野呂 達哉	107	
			地域連携環境講義	2	○								千葉 賢	108	
			農業環境学	2				○					廣住 豊一	109	
			食糧生産学	2			○						廣住 豊一	110	
			流通論	2											
			農業経営論	2											
			都市計画論	2											
			都市環境と法	2											
			環境とまちづくり	2											
			ツーリズム論	2											
		実習	自然調査法	2		○							大八木 麻希	111	
			伊勢湾海洋実習	2	○								千葉 賢	112	
			環境基礎実験	2	○								古山 歩	113	
			環境実験・調査a	2		○							牧田 直子	114	
	環境実験・調査b		2			○						大八木 麻希	115		
	環境実験・調査c		2				○					廣住 豊一	116		
	情報科学		2		○							牧田 直子	117		
	専攻必修	音と光の科学	2			○						片山 清和	118		
		地域社会とメディア情報	2				○					前川 督雄	119		
		ソフトウェア概論	2	○								黒田 淳哉	120		
		ハードウェア概論	2		○							柳瀬 元志	121		
		情報理論Ⅰ	2			○						池田 幹男	122		
		情報理論Ⅱ	2				○					片山 清和	123		
		AI概論	2												
		ソフトウェア工学概論	2												
		次世代メディア情報	2												
		メディア情報専攻	メディア表現	メディア概観	2	○								黒田 淳哉	124
	メディア情報と文化			2		○							前川 督雄	125	
	映像概論			2	○								柳瀬 元志	126	
	音響照明概論			2		○							足立 明信	127	オンデマンド
	メディア表現の科学			2				○					黒田 淳哉	128	
	先進メディア論			2									前川 督雄	129	
	メディア情報産業論			2											
	実習・情報技術			プログラミング実習基礎	2		○							片山 清和	130
プログラミング実習応用1	2				○						足立 明信	131			
プログラミング実習応用2	2					○					池田 幹男	132			
データサイエンス実習	2														
データベース実習	2														
実習・メディア表現	グラフィックツール1		2	○	○							非	西尾 秀樹	133	
	グラフィックツール2		2		○							非	山本 努武	134	
	Webデザイン		2				○					非	西尾 秀樹	135	
	コンピュータグラフィックス		2										堀内 敬弘	136	
	ビデオツール		2			○						非	田中 麻衣	137	
	音響照明技術		2			○							足立 明信	138	
	電子音楽ツール		2				○						黒田 淳哉	139	
	先進メディア技術	2										柳澤 翔士	140		
	感性と創造	2		○								黒田 淳哉	141		
	作品制作	2			○							柳瀬 元志	142		
	開設科目	他学部開設科目a	2	▲											
他学部開設科目b		2	▲												
他学部開設科目c		2	▲												
他学部開設科目d		2	▲												
他学部開設科目e		2	▲												

シラバスの見方

例

①

②

③

授業科目名	社会学概論					科目コード	181203		授業コード	100221	
担当教員	三田	泰雅	④			科目ナンバリング	GLAS1004 ⑤				
配当年次	1 ⑥			開講学期	前学期 ⑦	単位数	2.0 ⑧		必修／選択	選	択 ⑨
授業の位置づけ ⑩			「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。								
授業のねらい ⑪			この授業では社会学の基礎的な考え方を学びます。社会は人間が集まって作られますが、一方で人間は社会によって作られる側面もあります。私たちはどのように社会をつくっているのか、そして、私たちはいかにして社会に縛られているのか。こうした疑問を考えてゆく授業です。								
到達目標 ⑫			社会学的なものの見方や考え方を身につける								
授業計画 ⑬			第1講	ガイダンス							
			第2講	規範と価値							
			第3講	私（わたし）とは誰か							
			第4講	近代をスポーツから考える							
			第5講	人は集団をつくる							
			第6講	家族とは何だろうか							
			第7講	社会の中のジェンダー							
			第8講	格差と社会階層							
			第9講	なぜ学校に行くのか							
			第10講	都市と村落							
			第11講	国家と国民社会							
			第12講	まとめ①							
			第13講	環境を考える							
			第14講	社会的排除							
			第15講	まとめ②							
				定期試験							
テキスト・教材（参考文献含む） ⑭			<参考文献> 倉沢進・秋元律郎・岩永雅也，2001，『新訂 社会学入門』放送大学出版協会。 石黒格編，2018，『変わりゆく日本人のネットワーク』勁草書房。								
事前・事後学習 ⑮			新聞やニュースに目を通す（毎日20分）								
成績評価方法 ⑯			<評価> 小レポート30%， 中間試験15%， 期末試験55%								
授業内の課題・提出方法			<課題> 毎回の授業で小レポートを提出してもらいます。 ⑰								
授業内の課題・提出方法 フィードバック方法			<フィードバック> 小レポートは翌週の授業で適宜コメントします。 ⑱								
アクティブ・ラーニング			ディスカッション、ミニッツペーパー ⑲								
実務経験のある教員			民間企業勤務、研究機関勤務経験あり。地方都市の社会生活を研究対象としています。 ⑳								
担当者から一言			学生諸君の積極的な参加を期待します。 ㉑								

- ① 授業科目名：本年度開講の授業科目名です。
- ② 担当教員：授業科目担当者です。
- ③ 科目コード：カリキュラム内の科目ナンバーです。
- ④ 授業コード：時間割順を示すナンバーです。
- ⑤ 科目ナンバリング：別掲の科目ナンバリングを参照のこと。
- ⑥ 配当年次：学年（年次）は、その科目を履修することができる最低学年を表記しています。
- ⑦ 開講学期：授業科目がいつ開講されるかを表記しています。
- ⑧ 単位数：単位数を表記しています。
- ⑨ 必修/選択：「必修」は、卒業のために必ず単位修得しなければならない科目です。「選択」は選択科目を表しています。各学部・各専攻で必要な科目かどうかは異なります。各自のカリキュラム表で確認してください。
- ⑩ 授業の位置づけ：卒業認定・学位授与の方針（D P）と当該授業科目の関連が記載されています。
- ⑪ 授業のねらい：どのような授業科目か、この授業の目的・意義を簡潔に示しています。
- ⑫ 到達目標：具体的に習得すべき知識や技能等について記載されています。授業の終了時点でどのような知識や技能（スキル）を身につけることが出来るか、教育目標としているかについて記載されています。
- ⑬ 授業計画：15回の授業について、各回の「テーマ」「内容」を明記しています。なお、授業の進行具合や受講学生の興味・関心に合わせて適宜変更する授業科目もあります。
- ⑭ テキスト・教材（参考文献含む）：テキストには、授業内で実際に使用する教科書を明記しています。授業開始前までに必ず準備してから授業に臨んでください。参考文献については、各授業担当にお尋ねください。
- ⑮ 事前・事後学習：事前・事後学習とは、毎回の授業に出席する際の予習及び復習と考えて取り組んでください。また、履修上他の科目を先行して履修することが望ましい科目がある場合は、こちらに『「○○○Ⅰ」を先行して履修していることが望ましい』など記載されています。
- ⑯ 成績 評価方法：定期試験 60 %、小テスト 40 %のように、評価（ポイント）基準を明記しています。
- ⑰ 授業内の課題・提出方法、⑱ フィードバック方法：授業内で課される課題の内容や提出方法、また、それらのフィードバック方法が記載されています。
- ⑲ アクティブラーニング：アクティブラーニングの要素（キーワード）が書かれています。
- ⑳ 実務経験のある教員：実務経験がある担当教員が、職種や実務経験を通じどのような授業を行うか等を記載しています。
- ㉑ 担当者から一言：履修上の注意の他、シラバスの他の項目で書ききれなかった内容を補足して記載しています。

授業科目名	「人間たれ」Ⅰ		科目コード	181001	授業コード	425101
担当教員	鬼頭 浩文		科目ナンバリング	GEFC1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力 地域の持続的発展のために貢献できる力					
授業のねらい	本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。					
到達目標	本学の建学の精神「人間たれ」を精神基盤に、「世界を見つめ地域を考える」グローバルな感覚で21世紀の地域社会をリードする人材としての基礎を学ぶ。					
授業計画	第1講 ガイダンス：建学の精神「人間たれ」 第2講 災害から学ぶ「人間たれ」①～東日本大震災～ 第3講 災害から学ぶ「人間たれ」②～熊本地震～ 第4講 災害から学ぶ「人間たれ」③～能登半島地震～ 第5講 被災地から学ぶ「人間たれ」①避難所の運営経験（齋藤） 第6講 被災地から学ぶ「人間たれ」②自宅が全壊（北村） 第7講 被災地から学ぶ「人間たれ」③小学生として避難生活（雁部） 第8・9講 フィールドワーク：四日市公害と環境未来館 第10講 教員が語る「人間たれ」①（足立） 第11講 教員が語る「人間たれ」②（大八木） 第12講 教員が語る「人間たれ」③（黒田） 第13講 教員が語る「人間たれ」④（樋口） 第14講 教員が語る「人間たれ」⑤（柳瀬） 第15講 教員が語る「人間たれ」⑥（青木） ※ 講師の都合などによっては、講義の順序は変更になる場合があります。					
テキスト・教材（参考文献）	できるだけレジュメや資料を配布する。					
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、テレビでニュースを視聴する習慣をつけてください（1日30分以上）。					
成績評価方法	毎回提出いただく小レポート（60%）、期末試験（レポート）の成績（40%）により評価する。					
授業内の課題・提出方法	講義終了10分後までにノート写真撮影しMoodleに提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対するコメントをMoodleで学生に返す					
アクティブラーニング	フィールドワークと小レポート作成					
実務経験のある教員	被災地から学ぶの3回は、実際の災害対応について講義をする。					
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。					

授業科目名	「人間たれ」Ⅱ		科目コード	181002	授業コード	425501
担当教員	小林 慶太郎		科目ナンバリング	GEFC1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力 地域の持続的発展のために貢献できる力					
授業のねらい	前学期の「人間たれⅠ」に引き続き、本学に入学した環境情報・総合政策両学部の全新生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。					
到達目標	本学の建学の精神を理解するとともに、それを活かして今後の社会での生き方について理解を深める。					
授業計画	第1講（9/27） ガイダンス 「人間たれ」Ⅱの進め方や意義・ねらいについて（小林） 第2講（10/4） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」①（岩崎） 第3講（10/11） ダイバーシティと「人間たれ」（小林） 第4講（10/18） 日本の財政状況と税金、家計、金融知識（財務省 津財務事務所） 第5講（10/25） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」②（小林） 第6講（11/1） 先輩のライフヒストリーと「人間たれ」①（本学2期生 原田さん（津市職員）） 第7講（11/8） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」③（三田） 第8講（11/15） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」④（浅井） 第9講（11/22） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」⑤（倉田） 第10講（11/29） 世界エイズデーを前に生と性について考えよう（小林） 第11講（12/6） 先輩のライフヒストリーと「人間たれ」②（ラム・カンチャさん） 第12講（12/13） 外国で働くということ（オイスカ） 第13講（12/20） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」⑥（永井） 第14講（1/10） 教員のライフヒストリーと「人間たれ」⑦（フェハリー） 第15講（1/17） 一年間の総まとめ 改めて「建学の精神」について（小林） ※ 講師の都合などによっては、講義の順序は変更になる場合があります。					
テキスト・教材（参考文献）	できるだけレジュメや資料を配布する。					
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題にも触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください（1日30分以上）。					
成績評価方法	毎回提出の小レポート（60％）と、期末試験（レポート）の成績（40％）により評価する。					
授業内の課題・提出方法	毎回の小レポートは、授業時間内に記入し提出してもらう予定である。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートに書かれていた質問・意見については、翌週以降の授業内で応答していくものとする。					
アクティブラーニング	毎回、授業時間中に自分で考えて小レポートを書く。					
実務経験のある教員	学外からのゲストスピーカーの方々には、それぞれの実務経験等に基づいて講義いただきます。					
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。					

授業科目名	四日市学	科目コード	181003	授業コード	425201
担当教員	岡 良浩	科目ナンバリング	GEFC1007		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	必 修
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる力				
授業のねらい	この講義は四日市大学の学びのフィールドである四日市市を対象として、地域を学ぶことを目的としています。具体的にはまず第1に、地域の社会・歴史・文化・自然・産業・環境などを理解し多面的に四日市について考える機会とします。第2に、学生自身が四日市市内でフィールドワークを実施し、四日市の伝統・文化・芸術について触れる機会とします。 これらを通じて、たんに地域を知るだけでなく、この地域の将来の発展方向を模索したり、課題を発見したり、市民・企業・行政を巻き込んでどのように解決するのかについて考えるきっかけとしていただく				
到達目標	講義は10回にわたる様々なテーマの座学と2つのフィールドワークによって構成されます。この講義の到達目標は、以下の4点です。 1. 「四日市」を多面的に理解すること 2. フィールドワークを行うことによって実際の地域に触れること 3. 地域の課題を発見して考察を行うこと 4. 全体として地域から積極的に学んでいくという興味や意欲を持てるようになること				
授業計画	第1講(4/05) ガイダンス+フィールドワークの説明(岡・鬼頭) 第2講(4/12) 「四日市公害に向き合う」(鬼頭[司会]; 四日市公害と環境未来館) 第3講(4/19) 「四日市の産業」(岡[司会]; 四日市市商工農水部) 第4講(4/26) 「四日市の文学者たち」(永井[司会・講義]) 第5講(5/10) 「四日市の歴史」(永井[司会]; 四日市市博物館学芸員) 第6講(5/17) 「四日市の多文化共生」(青木[司会]; 四日市市多文化共生推進室) 第7講(5/24) 「四日市の食」(小林[司会・講義]; とんてき協会関連) 第8講(5/31) 「四日市の都市計画」(倉田[司会]; 四日市市都市整備部) 第9講(6/07) 「四日市の文化財」(鬼頭[司会]; 四日市市文化課) 第10講(6/14) 「四日市市のシティプロモーション」(岡[司会]; 四日市市シティプロモーション部) * 講師都合によっては、内容が変更になることがあります。 (フィールドワーク) 第11～12講 フィールドワーク①「四日市市博物館で学ぶ」 講義期間中に、博物館でのフィールドワークを行い、ワークシートを完成させる。 第13～15講 フィールドワーク②「四日市で学ぶ」 講義期間中に、設定したコースの神社や寺などを街あるきし、指定したチェックポイントで自撮りした写真とレポートをMoodleに提出する。				
テキスト・教材(参考文献)	とくに設定しない。必要に応じて資料を配布する。				
事前・事後学習	次回講義の内容をシラバスの計画で確認し、WEBで関連する情報をみる準備学習を約1時間すること。また、講義で配布された資料などを使った振り返り学習も約1時間する。また、フィールドワークに2日間、その課題作成に6時間ほどを要する。				
成績評価方法	成績評価は、1～10週目に課す簡単なリアクションペーパー各200字程度(50%)、2回のフィールドワークに関するレポート(30%)、学期末試験(20%)で総合評価します。				
授業内の課題・提出方法	テーマごとに課題を設定し小レポートを提出(Moodleを使用予定)				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通して課題に対するフィードバックをします。				
アクティブラーニング	毎回講義後に質疑・応答の時間を設ける予定です。積極的に質問し理解を深めることを期待します。				
実務経験のある教員	講義テーマによって四日市市からゲストスピーカーを招へいします。				
担当者から一言	四日市を深く知ることのできる貴重な科目です。しっかりと「四日市」を学んでいただきたいです。				

授業科目名	基礎コンピュータ I		科目コード	181004	授業コード	424102
担当教員	片山 清和		科目ナンバリング	GEFC1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	現代は情報化社会であり、ネットの利用が前提となっています。このようなネット社会で情報発信を安全に行い、情報受信を行い、情報を適切に活用するために留意しなければならないことがあります。この講義では事例を通してどのような事に注意する必要があるかを学びます。またこの講義では情報発信の基盤として、Wordを用いて文章を作成したり、PowerPointを用いてプレゼンテーションの視覚資料を作成したりすることができるための実習も行います。					
到達目標	①ネット社会で情報を安全に利活用する上での決まりを理解する ②Wordを用いて文章を作成できる ③PowerPointを用いてプレゼンテーションの視覚資料を作成できる					
授業計画	第1講 ガイダンスとクラス分け、タッチタイピング入門、情報モラルチェックと情報セキュリティチェック 第2講 メールによるコミュニケーション 第3講 Word起動と終了、文字の入力 第4講 文書の入力と編集と保存 第5講 表の挿入と編集 第6講 アイコン、3Dモデルの挿入 第7講 画像・テキストボックスの挿入 第8講 ワードアートとスクリーンショット 第9講 情報モラルと情報セキュリティ 第10講 個人情報の適切な取り扱い、デジタル時代の著作権 第11講 ネット社会に潜む危険と対策 第12講 Webによるコミュニケーション、モバイル機器の活用と管理 第13講 PowerPoint起動と終了、プレゼンテーションの作成 第14講 PowerPointオブジェクトの挿入とスライショー 第15講 タイピングテスト					
テキスト・教材（参考文献）	<テキスト>「情報リテラシー」（Windows11、Office2021対応）FOM出版 2200円（税込） 「30時間でマスター Word&Excel2021」実教出版 1100円（税込）					
事前・事後学習	<事前学習>第2講、第9講～第12講の前では授業で予定している部分のテキストを読んで問題を解いたり、理由などを調べたりする。第3講～第8講、第13講～第14講の前ではテキストや配付資料を読んで実習内容を理解する。（30分） <事後学習>課題を完成させる。（150分）					
成績評価方法	提出物（70%）とタイピングテスト（30%）の合計で評価します。定期試験は行いません。					
授業内の課題・提出方法	<課題>作成したファイルをMoodleで提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> Moodleを通して個別にコメントします。					
アクティブラーニング	課題・宿題、ディスカッション、実習					
実務経験のある教員						
担当者から一言	コンピュータ教室での実習では積み重ねで進めるので、欠席すると次の実習が困難になります。WordやPowerPointで技能を身に付けるために、課題をやや多くしているので授業時間内では完成しません。授業外で時間を作って課題をしっかり行ってください。					

授業科目名	基礎コンピュータⅡ		科目コード	181005	授業コード	424502
担当教員	片山 清和		科目ナンバリング	GEFC1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	文書作成、表・グラフ作成、データ分析、プレゼンテーションを行うことは、在学中だけでなく社会に出てからもよくあります。この講義では、文書作成ツール、表計算ツール、プレゼンテーション作成ツールとしてWord、Excel、PowerPointの実習を行います。実習は、与えられたデータを編集・加工することで課題を完成させるもので、主体的に学び、わからないところを教員に聞いて解決する形で行います。					
到達目標	① Wordを用いてレポートや論文を作成できる ② Excelを用いて表やグラフを作成できる ③ Excelを用いてデータ分析のためにデータ抽出やクロス集計ができる ④ PowerPointを用いて効果的な視覚資料を作れ、プレゼンテーションの準備ができる					
授業計画	第1講 ガイダンス、Word (1) 第2講 Word (2) 第3講 Word (3) 第4講 Word (4) 第5講 Excel (1) 第6講 Excel (2) 第7講 Excel (3) 第8講 Excel (4) 第9講 Excel (5) 第10講 Excel (6) 第11講 PowerPoint (1) 第12講 PowerPoint (2) 第13講 PowerPoint (3) 第14講 総合演習問題 (1) 第15講 総合演習問題 (2)					
テキスト・教材（参考文献）	<テキスト>「情報リテラシー」（Windows11、Office2021対応）FOM出版 2200円（税込） 「30時間でマスター Word&Excel2021」実教出版 1100円（税込）					
事前・事後学習	<事前学習>テキストを読んで実習内容を理解する。（30分） <事後学習>課題を完成させる。（150分）					
成績評価方法	提出物（100％）。定期試験行いません					
授業内の課題・提出方法	<課題>作成したファイルをMoodleで提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック>Moodleを通して個別にコメントします。					
アクティブラーニング	課題・宿題、実習					
実務経験のある教員						
担当者から一言	コンピュータ教室での実習では積み重ねで進めるので、欠席すると次の実習が困難になります。WordやPowerPointで技能を身に付けるために、課題をやや多くしているので授業時間内では完成しません。授業外で時間を作って課題をしっかり行ってください。					

授業科目名	基礎英語 I		科目コード	181006	授業コード	425401
担当教員	樋口 晶子		科目ナンバリング	GEFC1005		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	英語を総合的に高めることを第1のねらいにしています。2つ目には、教養的な要素として、外国文化に接し、多様な文化に触れることで異文化に対する興味・関心を高め、理解を磨き、自国文化との比較を通し、それぞれの文化への理解の深まりを促進します。3つ目には、企業が求める人材、マンパワーとして必要になる語学運用能力の向上を推進することもねらいとしています。					
到達目標	英語力を総合的に高め、実社会や実生活で英語を運用できる（日常生活で使える）力を構築する土台の形成を到達目標にしています。また、同時に、国際人としての教養を高め、文化的マナーの向上にも英語学習を通して貢献することを目標にしています。					
授業計画	各学部で複数の講座が並行して開講され、担当教員が異なります。授業計画は各講座によります（下記は例）。 第1講義 ガイダンス 及び Unit 1 第2講義 Unit 2 以下 第15講義まで展開					
テキスト・教材（参考文献）	各担当教員がテキスト・教材を具体的に指示します。					
事前・事後学習	各担当教員の指示に従ってください。					
成績評価方法	各担当教員のガイダンス等に従ってください。					
授業内の課題・提出方法	各担当教員の指示に従ってください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	各担当教員の指示に従ってください。					
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、課題及び課題に対するフィードバックなど、各担当教員が具体的に指示します。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	高等学校までの英語学習からステップアップし、興味深い教材や授業展開に刺激を受け、新しい英語学習を始めましょう。					

授業科目名	基礎英語Ⅱ		科目コード	181007	授業コード	425801
担当教員	樋口 晶子		科目ナンバリング	GEFC1006		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	基礎英語Ⅰで修得した力を基礎として、さらに学修を深めます。英語力を総合的に高めることを第1のねらいにしています。2つ目には、教養的な要素として、外国文化に接し、多様な文化に触れることで異文化に対する興味・関心を高め、理解力を磨き、自国文化との比較を通し、それぞれの文化への理解の深まりを促進します。3つ目には、企業が求める人材、マンパワーとして必要になる語学運用能力の向上を推進することもねらいとしています。					
到達目標	英語力を総合的に高め、実社会や実生活で英語を運用できる（日常生活で使える）力を構築する土台の形成を到達目標にしています。また、同時に、国際人としての教養を高め、文化的マナーの向上にも英語学習を通して貢献することを目標にしています。					
授業計画	各学部で複数の講座が並行して開講され、担当教員が異なります。授業計画は各講座によります（下記は例）。 第1講義 ガイダンス 及び Unit 1 第2講義 Unit 2 以下 第15講義まで展開					
テキスト・教材（参考文献）	各担当教員がテキスト・教材を具体的に指示します。					
事前・事後学習	各担当教員の指示に従ってください。					
成績評価方法	各担当教員のガイダンス等に従ってください。					
授業内の課題・提出方法	担当者の指示に従ってください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	担当者の指示に従ってください。					
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、課題及び課題に対するフィードバックなど、各担当教員が具体的に指示します。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	英語の言語能力（聞く・読む・話す・書く）に加え、伝える力・相手を理解する力を養ってコミュニケーション能力を高め、あらゆることに興味を持って視野を広げる気持ちで、積極的に授業に参加してください。					

授業科目名	基礎日本語 I		科目コード	181008	授業コード	423101
担当教員	加納 光		科目ナンバリング	GEFC9001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	言語の四技能-読む、書く、聞く、話す-を学びながら、総合的な日本語能力を身につけます。この授業では特に大学の授業で必要となる専門用語や表現、レポートの書き方を学んでいきます。適切な専門用語や表現を用い、論理的でわかりやすいレポートの書き方を習得することを、この授業のねらいとします。また、加えて日本語能力試験対策の授業も行います。					
到達目標	この授業では大学の授業に必要な専門語彙や表現、レポートの書き方の習得を中心に、大学の授業を理解し、授業に積極的に参加するために必要となる日本語能力を身につけることを、到達目標とします。					
授業計画	第1講 ガイダンス レポート作成の基礎、読解、語彙① 第2講 レポート作成、読解、語彙② 第3講 レポート作成、読解、語彙③ 第4講 レポート作成、読解、語彙④ 第5講 能力試験対策模擬試験①、② 第6講 能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第7講 能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講 能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講 能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講 能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第11講 能力試験対策⑥（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第12講 能力試験対策⑦（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第13講 レポート作成、読解、語彙⑤ 第14講 レポート作成、読解、語彙⑥ 第15講 レポート作成、読解、語彙⑦ 定期試験 ※授業の進捗および内容は状況により、若干変更する場合があります。					
テキスト・教材（参考文献）	『読解厳選テーマ10 [中、中上級]』凡人社 清水 『日本語能力試験問題N1、2語彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池 『日本語能力試験問題N1文法 スピードマスター』〃 有田 『1回で合格 日本語能力試験 N2文法』ナツメ社 渡辺					
事前・事後学習	N 1 までの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。（30分） 毎日、継続的に新聞を読むこと。（30分） 事前に授業内容を調べ予習をしておくこと（90分） 授業後は、内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使えるようにしていくこと（90分）					
成績評価方法	授業での積極性やレポート、小テスト（採点、添削後授業時に返却します）50%、期末試験50%。					
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。					
アクティブラーニング	小レポート／小テスト					
実務経験のある教員						
担当者から一言	日本語学校やアルバイト先での日本語と大学で必要な日本語とは異なります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃から心がけてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。真面目な態度で受講するように心がけて下さい。					

授業科目名	基礎日本語Ⅱ		科目コード	181009	授業コード	423501
担当教員	加納 光		科目ナンバリング	GEFC9002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	言語の四技能-読む、書く、聞く、話す-を学びながら、総合的な日本語能力を身につけます。この授業では特に「聞く・話す」に焦点を当てて強化をはかります。聞いたことを理解するにとどまらず、相手の言いたいことをはかり、それを受けて返事をしたり行動したりする能力を身につけることがねらいです。また、加えて日本語能力試験対策の授業も行います。					
到達目標	この授業では、「聞く・話す」ことより相手の伝えたいことをくみ取り、どんな場合にでも対応できるコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。					
授業計画	第1講 ガイダンス 日本を知る 論議、発表① 語彙学習① 第2講 日本を知る 議論、発表② 語彙学習② 第3講 能力試験対策模擬試験①、② 第4講 能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第5講 能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第6講 能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第7講 能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講 能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講 能力試験対策⑥（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講 能力試験対策⑦（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第11講 日本を知る 議論、発表③ 語彙学習③ 第12講 日本を知る 議論、発表④ 語彙学習④ 第13講 日本を知る 議論、発表⑤ 語彙学習⑤ 第14講 日本を知る 議論、発表⑥ 語彙学習⑥ 第15講 日本を知る 議論、発表⑦ 語彙学習⑦ 定期試験 ※授業の進捗および内容は状況により、若干変更する場合があります。					
テキスト・教材（参考文献）	『読解厳選テーマ10 [中、中上級]』凡人社 清水 『日本語能力試験問題N1、2語彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池 『日本語能力試験問題N1文法 スピードマスター』〃 有田 『1回で合格 日本語能力試験 N2文法』ナツメ社 渡辺					
事前・事後学習	N1 向けの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。（30分） 毎日、継続的に新聞を読むこと。（30分） 事前に授業内容を調べ学習をしておくこと（90分） 授業後は内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使えるようにしていくこと（90分）					
成績評価方法	授業での積極性やレポート、小テスト（採点、添削後授業時に返却します）50%、期末試験50%。					
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。					
アクティブラーニング	小レポート／小テスト					
実務経験のある教員						
担当者から一言	日本語学校やアルバイト先での日本語と大学で必要な日本語とは異なります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃から心がけてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。真面目な態度で受講するように心がけて下さい。					

授業科目名	英語コミュニケーションⅠ		科目コード	181101	授業コード	421402
担当教員	青木 陽子		科目ナンバリング	GELS1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	本授業では、「話す」「聞く」「読む」「書く」という技能を中心に、英語コミュニケーション能力の習得を目指します。文法の基礎を固め、様々な会話を聞き、多様なトピックのエッセイを読むことで、英語力を身に付けます。授業で取り上げた英語表現を実践の場で生かしながら、自分の意見を発信できるように、コミュニケーション能力の向上を目指します。					
到達目標	1. 文法を理解し、初級レベルの英語表現を習得する。 2. 英語の読解力・聴解力を高める。 3. 自分の意見・考えを英語で発信する力を身につける。					
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 Unit 1 What is "Black Friday"? 第2講 Unit 1 What is "Black Friday"? 第3講 Unit 2 What is a "leap year"? 第4講 Unit 2 What is a "leap year"? 第5講 Unit 3 Why do big ceremonies have a "red carpet"? 第6講 Unit 3 Why do big ceremonies have a "red carpet"? 第7講 Unit 4 Where did "mouthwash" come from? 第8講 Unit 4 Where did "mouthwash" come from? 第9講 Unit 5 What is a "Viking"? 第10講 Unit 5 What is a "Viking"? 第11講 Unit 6 Why are oranges "orange"? 第12講 Unit 6 Why are oranges "orange"? 第13講 Unit 7 Where did "Vaseline" come from? 第14講 Unit 7 Where did "Vaseline" come from? 第15講 Unit 8 Why are flamingos "pink"? 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	Arnold Arao・三原京・巴波義典・木村博是著『Answers to Everyday Questions 2 <Pre-Intermediate> 身近な不思議を英語で学ぶ<準中級>』南雲堂（2022年）定価：2200円（税込）					
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習をする（90分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う（90分）					
成績評価方法	学習態度 20% 課題・小テスト 30% 定期試験 50% ※5回以上欠席した学生には、原則として単位を与えません。					
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題や提出物について、必要に応じて、各学生またはクラス全体の講評としてフィードバックします。					
アクティブラーニング	小テスト、課題・宿題					
実務経験のある教員						
担当者から一言	英語学習は、予習と復習が大事です。しっかり準備して授業に臨んで下さい。授業への積極的な参加を期待します。					

授業科目名	英語コミュニケーションⅠ		科目コード	181101	授業コード	421202
担当教員	樋口 晶子		科目ナンバリング	GELS1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	基礎レベルの英語によるコミュニケーション能力の習得をめざします。相手（「読み手」「聞き手」など）があることを意識した英語の使用を実践的に学びます。スピーキング・リスニング・リーディング・ライティングの4技能に加え、異文化への理解も深めます。たとえば、映画などの英語を聞き取って内容を理解し、英語及び英語文化の理解を深めます。ペアワーク・グループワークを多く行い、積極的にコミュニケーションを取る姿勢を身につけます。					
到達目標	1. 教材やプリント、補助教材などをマスターする。 2. 英語の4技能を、受講開始時よりも伸ばす。 3. 下手でもいいので、積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢を習得する。 4. TOEIC(L/R) 400～450点程度に相当する英語力獲得をめざす。					
授業計画	第1講 ガイダンス Unit 1 What is Important to You? (2-1) 第2講 Unit 1 What is Important to You? (2-2) 第3講 Unit 2 My Morning Routine (2-1) 第4講 Unit 2 My Morning Routine (2-2) 第5講 Unit 3 Your Recommended Restaurant (2-1) 第6講 Unit 3 Your Recommended Restaurant (2-2) 第7講 Unit 4 The Best Film Ever (2-1) 第8講 Unit 4 The Best Film Ever (2-2) 第9講 Unit 5 What is a True Friend? (2-1) 第10講 Unit 5 What is a True Friend? (2-2) 第11講 Unit 6 The Best Pizza in Town (2-1) 第12講 Unit 6 The Best Pizza in Town (2-2) 第13講 Unit 7 An Ideal Private Tour Plan (2-1) 第14講 Unit 7 An Ideal Private Tour Plan (2-2) 第15講 Unit 8 Useful Apps for Your Smartphone 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：『SPEAKING STEPS』（金星堂） 参考文献：英単語学習のための問題集 『英単語の語源図鑑』（かんき出版）、『英検でる順パス単』（旺文社）など自分の好きなものでよいです。 英和辞典・和英辞典など、辞書の使用を奨励します。					
事前・事後学習	テキストの内容は必ず予習・復習してください。毎日1時間程度の英語学習が必要です。 授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。					
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題 50% （毎回、小テストを行います） 定期試験 50% コミュニケーションを取る意欲の涵養を重視する観点から、単に出席しているだけで、授業に積極的に参加しない場合は、欠席扱いにすることがあります。英語レベルにかかわらず、授業に取り組む姿勢を高く評価します。					
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などについて、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。					
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、小テスト、課題・宿題					
実務経験のある教員						
担当者から一言	学生参加型の授業です。出席しても授業に参加しない学生は、評価しません。下手でもいいのでコミュニケーションする気持ちを自分から示してください。					

授業科目名	英語コミュニケーションⅠ		科目コード	181101	授業コード	421201
担当教員	ゴードン リース		科目ナンバリング	GELS1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	楽しく英語を勉強しながら学生の英語の聴解力と話す力を高める事がこの講座の狙い。アクティブで英語を学んでもらうために学習者中心の授業をする。スキットやロールプレイやリーダーズシアターを利用して、『使える英語』を目指す。使用するテキストは、コミュニケーション能力を高めたり、英語の語彙を増やしたりするための構造がある。 The main goal of this course is for participants to improve their English listening and speaking skills. This is a learner-centered course, and in order to learn actively, skits, role play and reader's theater will be used. The textbook provides a framework for developing communication skills and increasing vocabulary.					
到達目標	1. 英語の聴解力と話す力を高める。 2. 英語の語彙を増やす。 3. 人の前で英語で話す自信を身につける。					
授業計画	1. Guidance, Greetings and Introductions 2. Unit 1- Where are you from? 主語と動詞の一致 3. Unit 1- Where are you from? 主語と動詞の一致 4. Unit 2- How are you doing? 動詞と一般動詞 5. Unit 2- How are you doing? 動詞と一般動詞 6. Unit 3- How many classes do you have? 数えられる名詞 7. Unit 3- How many classes do you have? 数えられる名詞 8. Unit 4- How much food do you need for your party? 数えられない名詞 9. Unit 4- How much food do you need for your party? 数えられない名詞 10. Unit 5- How many people are there in your family? There is / There are / It is / They are 「ある」「いる」の表現と It is / They are との違い 11. Unit 5- How many people are there in your family? There is / There are / It is / They are 「ある」「いる」の表現と It is / They are との違い 12. Unit 6- When is your report due? Cardinal and ordinal numbers 数 13. Unit 6- When is your report due? Cardinal and ordinal numbers 数 14. Final presentation- preparation 15. プレゼンテーション- 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	Project English Vivian Morooka Nanundo 9784523179368					
事前・事後学習	In addition to homework, after each class spend about 60 minutes reviewing class handouts and textbook exercises covered in the previous lesson. Also, spend about 30 minutes reading ahead in the text and preparing for the following lesson.					
成績評価方法	学習態度 30% 課題・小テスト 30% スピーキングテスト・スキット 20% プレゼンテーション-定期試験 20%					
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。					
アクティブラーニング	リーダーズ・シアター、ロールプレイ、スキット					
実務経験のある教員						
担当者から一言	対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。 1. 5回以上欠席すると単位なし。 2. 履修者が18名を超えた場合は抽選あり。 3. テキストがないと欠席扱いになる。 4. 2回遅刻すると1回の欠席になる。					

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ		科目コード	181102	授業コード	421802
担当教員	青木 陽子		科目ナンバリング	GELS1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	本授業では、「話す」「聞く」「読む」「書く」という技能を中心に、英語コミュニケーション能力の習得を目指します。文法の基礎を固め、様々な会話を聞き、多様なトピックのエッセイを読むことで、英語力を身に付けます。授業で取り上げた英語表現を実践の場で生かしながら、自分の意見を発信できるように、コミュニケーション能力の向上を目指します。					
到達目標	1. 文法を理解し、初級レベルの英語表現を習得する。 2. 英語の読解力・聴解力を高める。 3. 自分の意見・考えを英語で発信する力を身につける。					
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 Unit 8 Why are flamingos "pink"? 第2講 Unit 9 What is a movie "trailer"? 第3講 Unit 9 What is a movie "trailer"? 第4講 Unit 10 Where did "bubble wrap" come from? 第5講 Unit 10 Where did "bubble wrap" come from? 第6講 Unit 11 Why is a billiard table "green"? 第7講 Unit 11 Why is a billiard table "green"? 第8講 Unit 12 Why is film called "footage"? 第9講 Unit 12 Why is film called "footage"? 第10講 Unit 13 Where did "Coca-Cola" come from? 第11講 Unit 13 Where did "Coca-Cola" come from? 第12講 Unit 14 Why are social media apps "blue"? 第13講 Unit 14 Why are social media apps "blue"? 第14講 Unit 15 Where did "makeup" come from? 第15講 Unit 15 Where did "makeup" come from? 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	Arnold Arao・三原京・巳波義典・木村博是著『Answers to Everyday Questions 2 <Pre-Intermediate> 身近な不思議を英語で学ぶ<準中級>』南雲堂（2022年）定価：2200円（税込）					
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習をする（90分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う（90分）					
成績評価方法	学習態度 20% 課題・小テスト 30% 定期試験 50% ※5回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。					
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題や提出物について、必要に応じて、各学生またはクラス全体の講評としてフィードバックします。					
アクティブラーニング	小テスト、課題・宿題					
実務経験のある教員						
担当者から一言	英語学習は、予習と復習が大事です。しっかり準備して授業に臨んで下さい。授業への積極的な参加を期待します。					

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ			科目コード	181102	授業コード	421602
担当教員	樋口 晶子			科目ナンバリング	GELS1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	「英語コミュニケーションⅠ」で修得した英語によるコミュニケーション能力をさらに磨きます。相手があることを意識した実践的な英語スキル（スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング）に加え、異文化理解を深めることを重視します。たとえば、映画などの英語を聞き取って内容を理解し、英語及び英語文化の理解を深めます。ペアワーク・グループワークを多く行い、学生同士が積極的にコミュニケーションを取る姿勢を身につけます。意欲のある学生には、英語資格試験（TOEIC、英検等）への挑戦を期待します。						
到達目標	1. 教材やプリント、補助教材などをマスターする。 2. 英語の4技能を、受講開始時よりも伸ばす。 3. 下手でもいいので、積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢を習得する。 4. TOEIC(L/R) 400～450点程度に相当する英語力獲得をめざす。 5. 本授業を受講後に、英語資格試験（TOEIC、英検等）の受験をめざす。						
授業計画	第1講 ガイダンス Unit 8 Useful Apps for Your Smartphone 第2講 Unit 9 A Proposal for New Flavors (2-1) 第3講 Unit 9 A Proposal for New Flavors (2-2) 第4講 Unit 10 A Great Figure in the Business World (2-1) 第5講 Unit 10 A Great Figure in the Business World (2-2) 第6講 Unit 11 Cheese for Uncle David -Comedy- (2-1) 第7講 Unit 11 Cheese for Uncle David -Comedy- (2-2) 第8講 Unit 12 The Babysitter #1 -Horror- (2-1) 第9講 Unit 12 The Babysitter #1 -Horror- (2-2) 第10講 Unit 13 The Babysitter #2 -Horror- (2-1) 第11講 Unit 13 The Babysitter #2 -Horror- (2-2) 第12講 Unit 14 Unsent Letter #1 -Romance- (2-1) 第13講 Unit 14 Unsent Letter #1 -Romance- (2-2) 第14講 Unit 15 Unsent Letter #2 -Romance- (2-1) 第15講 Unit 15 Unsent Letter #2 -Romance- (2-2) 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：『SPEAKING STEPS』（金星堂）【「英語コミュニケーションⅠ」と同じ】 参考文献：英単語学習のための問題集 『英単語の語源図鑑』（かんき出版）、『英検でる順パス単』（旺文社）など自分の好きなものでよいです。 英和辞典・和英辞典など、辞書の使用を奨励します。						
事前・事後学習	予習・復習として、毎日1時間程度の英語学習が必要です。授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。						
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題 50% （毎回、小テストを行います） 定期試験 50% コミュニケーションを取る意欲の涵養を重視する観点から、単に出席しているだけで、授業に積極的に参加しない場合は、欠席扱いにすることがあります。英語レベルにかかわらず、授業に取り組む姿勢を高く評価します。						
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などは、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。						
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、小テスト、課題・宿題						
実務経験のある教員							
担当者から一言	「英語コミュニケーションⅠ」と同様に、学生参加型の授業です。下手でもいいので、積極的にコミュニケーションする姿勢を身につけてください。出席しても授業に積極的に参加しない場合は、評価しません。英語資格試験受験を考えている方には、個別に相談に応じますので、担当教員にお尋ねください。						

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ	科目コード	181102	授業コード	421601
担当教員	ゴードン リース	科目ナンバリング	GELS1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力				
授業のねらい	楽しく英語を勉強しながら学生の英語の聴解力と話す力を高める事はこの講座の狙い。アクティブに英語を学んでもらうために学習者中心の授業をする。スキットやロールプレイやリーダーズシアターを利用して『使える英語』を目指す。使用するテキストは、コミュニケーション能力を高めたり、英語の語彙を増やしたりするための構造がある。 The main goal of this course is for participants to improve their English listening and speaking skills. This is a learner-centered course, and in order to learn actively, skits, role play and reader's theater will be used. The textbook provides a framework for developing communication skills and increasing vocabulary.				
到達目標	1. 英語の聴解力と話す力を高める。 2. 英語の語彙を増やす。 3. 人の前で英語で話す自信を身につける。				
授業計画	1. Guidance/Talking about the past/ "How was your vacation?" 2. Unit 7- How was your weekend? Past Tense 過去形 3. Unit 7- How was your weekend? Past Tense 過去形 4. Unit 8- What time is your first class? Time 時間の表現 5. Unit 8- What time is your first class? Time 時間の表現 6. Unit 9- Have you ever been to Kyoto? Present Perfect 現在完了形 7. Unit 9- Have you ever been to Kyoto? Present Perfect 現在完了形 8. Unit 10- Can I ask you a favor? Auxiliary Verbs 助動詞 9. Unit 10- Can I ask you a favor? Auxiliary Verbs 助動詞 10. Unit 11- I'm going to visit my grandparents. Future Tense 未来形 11. Unit 11- I'm going to visit my grandparents. Future Tense 未来形 12. Unit 12- I'm on the train Prepositions 前置詞 13. Unit 12- I'm on the train Prepositions 前置詞 14. Final presentation- preparation 15. プレゼンテーション- 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	Project English Vivian Morooka Nanundo 9784523179368				
事前・事後学習	In addition to homework, after each class spend about 60 minutes reviewing class handouts, textbook exercises and videos that were covered in the lesson. In addition, spend about 30 minutes reading ahead preparing for the following class.				
成績評価方法	学習態度 30% 課題・小テスト 30% スピーキング・テスト(2) 20% プレゼンテーション-定期試験 20% 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。				
授業内の課題・提出方法	クラスの担当教員の指示に従ってください。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。				
アクティブラーニング	リーダーズ・シアター、ロールプレイ、スキット				
実務経験のある教員					
担当者から一言	対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。 1. 5回以上欠席すると単位なし。 2. 履修者が18名を超えた場合は抽選あり。 3. テキストがないと欠席扱いになります。 4. 2回遅刻すると一回の欠席になる。				

授業科目名	中国語 I	科目コード	181103	授業コード	421203
担当教員	加納 光	科目ナンバリング	GELS1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力				
授業のねらい	この授業では、「音声」「語彙」「文法」「表現」の各分野における基礎学習を通し、中国語の基礎的な運用能力を養成します。学期の前半は、主に「音声面」に重点を置き、声調（高低アクセント）と400余りの音節を正しく発音できるようにします。それを踏まえ、学期の後半から中国語の初級レベルの「語彙」「文法」「表現」を学習します。言語事情のほか、中国の社会や文化に関する解説も行い、中国および中国語に対する理解を深めることが、この授業のねらいです。なお、中国語母語話者の受講はできません。				
到達目標	この授業では、言語活動の中心をなす「話す」「聴く」「読む」の三要素の反復練習に多くの時間を費やししながら、中国語の基礎をしっかりと身につけていきます。簡単な日常会話を話すことのできる初級レベルの語学力の習得を、この授業の到達目標とします。				
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要、中国語概要 1 第2講 中国語概要 2、中国概況 1 第3講 声調（4）と単母音（7）の発音、概況 2 第4講 複合母音（13）の発音、概況 3 第5講 鼻母音（16）の発音、概況 4 第6講 子音（21）の発音、概況 5 第7講 発音、表記上の規則、概況 6 第8講 発音のまとめ、小テスト、概況 7 第9講 どうぞよろしく（point 1～4）、概況 8 第10講 お名前は（point 1～4）、概況 9 第11講 ご出身は（point 1～4）、概況 10 第12講 飲み物は（point 1～4）、概況 11 第13講 おいくつ（point 1～4）、概況 12 第14講 和食はいかが（point 1～4）、概況 13 第15講 復習、概況 14 定期試験 注 授業内容、進度については、状況に応じて変更することもあります。毎回の発音・表現練習には積極的にチャレンジしてください。				
テキスト・教材（参考文献）	1）教材：相原茂他『日中いぶこみ交差点（エッセンシャル版）』（朝日出版社）2, 400円＋税 2）参考書：『WHY? に答えるはじめての中国語の文法書』（相原茂） 3）辞書：『簡約現代中国語辞典』（光生館）				
事前・事後学習	毎回与えられる復習（90分）、予習（90分）のための課題や宿題を欠かさずに行い、中国語の基礎を着実に固めていってください。				
成績評価方法	①定期試験60% ②小テスト20% ③課題、宿題（評価した後返却します）20%により総合的に評価します。				
授業内の課題・提出方法	授業内の課題など提出方法はMoodleか、あるいは次回の授業時に直接手渡し of のいずれかの方法により提出していただきます。どちらの方法にするかは、授業の際に、そのつど指示します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	平常授業中に行われる書き取りテストは採点後返却し、フィードバックします。課題などの提出物も状況に応じて返却しフィードバックする予定です。				
アクティブラーニング	小テスト／小レポート				
実務経験のある教員					
担当者から一言	本講義では、平常授業中、ほぼ毎回書き取りテストを行い、会話暗記などの課題を課しますので、よく考えた上で、受講登録してください。必ずテキストを用意してください。				

授業科目名	中国語Ⅱ	科目コード	181104	授業コード	421603
担当教員	加納 光	科目ナンバリング	GELS1006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力				
授業のねらい	この授業は中国語Ⅰを継続するものです。中国語Ⅰと同様、「書く」「聞く」「話す」の反復練習を通して、中国語の基礎学力の習得を目指します。また、引き続き、中国語初級文法の学習を進め、中国語の基礎固めをしていきます。 コミュニケーション能力の向上を目指し、初級語彙および初級文法を取り入れた会話練習に多く時間を割く予定です。中国語に対する理解をさらに深め、中国語の運用能力に磨きをかけることを、この授業のねらいとします。なお、中国語母語話者の受講はできません。				
到達目標	中国語の初級レベルの内容を理解し、それを書いたり、話したりすることができるようになることが、この授業の達成目標です。				
授業計画	「中国語Ⅰ」からの継続 第1講：ガイダンス、授業の概要、家庭訪問（1） 第2講：家庭訪問（2）、買い物（1） 第3講：買い物（2）、道案内（1） 第4講：道案内（2）、中秋節（1） 第5講：中秋節（2）、食事の前は（1） 第6講：食事の前は（2）、第1～5講の復習（1） 第7講：第1～5講の復習（2） 第8講：手作り料理（1） 第9講：手作り料理（2）、カニの季節（1） 第10講：カニの季節（2）、スキー場で（1） 第11講：スキー場で（2）、おみやげ（1） 第12講：おみやげ（2）、空港まで（1） 第13講：空港まで（2）、第6～12講の復習（1） 第14講：第6～12講の復習（2） 第15講：総復習とまとめ 定期試験 注 授業内容、進度はクラスの状況に応じて、変更する場合があります。 毎回実施する、発音、会話練習には積極的にチャレンジしてください。				
テキスト・教材（参考文献）	1）教 材：『日中いぶこみ交差点 エッセンス版』（朝日出版社）、相原茂 他 2）副教材：『中国語の文法書』（同学社） 3）辞 書：『中国語辞典』（光生館） 4）参考書：『中国語はじめての一步』（ちくま新書）				
事前・事後学習	授業の予習、復習、課題、宿題は必ず行ってください（予習90分＋復習90分）。 加えて日頃から、中国語を聴いたり、話したりするように心がけてください（毎日30分以上）。				
成績評価方法	学期末試験60%、小テスト20%、課題、宿題（採点後返却します）20%をもとにして、総合的に評価します。				
授業内の課題・提出方法	授業J内の課題や宿題は、Moodleないしは次回の授業の際に直接手渡し、いずれかの方法により提出していただきます。いずれの方法かは、授業時にその都度指示をします。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題、宿題などの提出物は採点後返却しフィードバックします。				
アクティブラーニング	小レポート／小テスト				
実務経験のある教員					
担当者から一言	予習、復習を欠かさないようにして積極的に講義に臨んでください。常に旺盛な勉学意欲を忘れずに、中国、中国語に対する興味、関心を持ち続けていってください。なお、授業中の私語、中座は原則禁止します。				

授業科目名	ポルトガル語 I		科目コード	181105	授業コード	421403
担当教員	フェリペ フェハリー		科目ナンバリング	GELS1007		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	日本は、1895年にブラジルと外交関係を樹立しましたが、ポルトガル人は1543年に初めて日本に上陸したので、日伯関係（日本-ブラジル間の交流関係）の歴史は450年以上に渡ると言えます。現在、ブラジルには世界最大の日系人居住地（約150万の日経ブラジル人がいます）です。同時に、日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育、医療や企業分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。					
到達目標	ポルトガル語の発音を習得し、すぐにでも実践の場で生かせるような平易な会話能力を身につけ、ポルトガル語話者とコミュニケーションが出来ること。 ポルトガル語話者への理解を深めるために、同言語圏の社会、歴史、習慣など背景知識について学び、異文化受容の態度を育むこと。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 アルファベットと発音 第3講 挨拶と自己紹介 第4講 名詞の性と数 第5講 冠詞と数字 第6講 ser動詞（1） 第7講 ser動詞（2） 第8講 所有表現（1） 第9講 所有表現（2） 第10講 所有表現（3） 第11講 gostar動詞 第12講 規則動詞（1） 第13講 規則動詞（2） 第14講 規則動詞（3） 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	『ブラジルポルトガル語を話そう！改訂版』 重松由美・瀧藤千恵美・Felipe Ferrari（朝日出版社） （2, 300円＋税）ISBN 978-4-255-55505-8					
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで、授業で出された課題や宿題を行う（毎週約60分）。					
成績評価方法	受講態度：30% 小テスト：20% 定期試験：50% 注意①：教科書を購入し、毎回授業に持参してください。教科書を購入していない場合は単位が出ません。毎回、教科書を持参しない場合、「欠席」扱いになります。 注意②：小テストと定期試験には「語彙集」（単語リスト）が記載されています。「語彙集」以外のことが書かれている場合、不正行為とみなし、その試験は0点になります。					
授業内の課題・提出方法	授業で宿題を提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業で宿題のチェックを行います。					
アクティブラーニング	教科書／参考書により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習が行われます。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	ポルトガル語を勉強しながら、他国の文化を楽しく学びましょう！					

授業科目名	ポルトガル語Ⅱ		科目コード	181106	授業コード	421803
担当教員	フェリペ フェハリー		科目ナンバリング	GELS1008		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	本授業は前学期の「ポルトガル語Ⅰ」の続きです。日本は、1895年にブラジルと外交関係を樹立しましたが、ポルトガル人は1543年に初めて日本に上陸したので、日伯関係（日本－ブラジル間の交流関係）の歴史は450年以上に渡ると言えます。現在、ブラジルには世界最大の日系人居住地（約150万の日経ブラジル人がいます）です。同時に、日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育、医療や企業分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。					
到達目標	ポルトガル語の発音を習得し、すぐにでも実践の場で生かせるような平易な会話能力を身につけ、ポルトガル語話者とコミュニケーションが出来ること。 ポルトガル語話者への理解を深めるために、同言語圏の社会、歴史、習慣など背景知識について学び、異文化受容の態度を育むこと。					
授業計画	第1講 前期の総合復習 第2講 前置詞 第3講 不規則動詞：ir 第4講 不規則動詞：terとfazer 第5講 不規則動詞：poder 第6講 不規則動詞：querer 第7講 estar動詞 第8講 ser動詞とestar動詞の違い 第9講 現在分詞と現在進行形 第10講 規則動詞の過去形（1） 第11講 規則動詞の過去形（2） 第12講 規則動詞の過去形（3） 第13講 様々な表現（1） 第14講 様々な表現（2） 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	『ブラジルポルトガル語を話そう！改訂版』 重松由美・瀧藤千恵美・Felipe Ferrari（朝日出版社） （2, 300円＋税）ISBN 978-4-255-55505-8					
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで、授業で出された課題や宿題を行う（毎週約60分）。					
成績評価方法	受講態度：30% 小テスト：20% 定期試験：50% 注意①：教科書を購入し、毎回授業に持参してください。教科書を購入していない場合は単位が出ません。毎回、教科書を持参しない場合、「欠席」扱いになります。 注意②：小テストと定期試験には「語彙集」（単語リスト）が記載されています。「語彙集」以外のことが書かれている場合、不正行為とみなし、その試験は0点になります。					
授業内の課題・提出方法	授業で宿題を提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業で宿題のチェックを行います。					
アクティブラーニング	教科書／参考書により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習が行われます。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	ポルトガル語を勉強しながら、他国の文化を楽しく学びましょう！					

授業科目名	日本語中級 I		科目コード	181109	授業コード	425302
担当教員	安田 由紀子		科目ナンバリング	GELS9003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	言語の四技能—読む、書く、聞く、話す—を学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、読解能力の強化をおこないます。与えられた読み物より内容を読み取り、文章の意図を考え、内容分析を進めていきます。					
到達目標	著書やメールや手紙など、活字での提示の場合の内容理解を深め、相手の言いたいことをはかり知る能力を身につけることを目標とする。					
授業計画	第1講 合同ガイダンス 第2講 文章読解① 語彙学習① 第3講 文章読解② 語彙学習② 第4講 文章読解③ 語彙学習③ 第5講 文章読解④ 語彙学習④ 第6講 文章読解⑤ 語彙学習⑤ 第7講 能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講 能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講 能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講 能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第11講 能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第12講 文章読解⑥ 語彙学習⑥ 第13講 文章読解⑦ 語彙学習⑦ 第14講 文章読解⑧ 語彙学習⑧ 第15講 文章読解⑨ 語彙学習⑨ 定期試験 ＊授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験のための文法、語彙、句型などについても必要に応じて学習して いきます。					
テキスト・教材（参考文献）	『日本語能力試験問題集 N1（N2）読解 スピードマスター』 J リサーチ出版 菊池富美子 ほか著 『日本語能力試験問題集 N1（N2）語彙 スピードマスター』 J リサーチ出版 菊池富美子 ほか著 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。					
事前・事後学習	読み物にはいろいろな専門用語をはじめとする語彙、文法などが織り込まれています。授業後は、講義内容を振り返り、問題点や不明点などについてもう一度調べ直し、自分の考えをしっかりとめておきましょう（90分）。					
成績評価方法	授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点后返却します）50%、期末試験50%。					
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をします。それに従ってください。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことを心がけること。 遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。					

授業科目名	日本語中級Ⅱ		科目コード	181110	授業コード	425702
担当教員	安田 由紀子		科目ナンバリング	GELS9004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	言語の四技能—読む、書く、聞く、話す—を学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、読解能力の強化をおこないます。与えられた読み物より内容を読み取り、文章の意図を考え、内容分析を進めていきます。					
到達目標	著書やメールや手紙など、活字での提示の場合の内容理解を深め、相手の言いたいことを活字からはかり知る能力を身につけることを目標とする。					
授業計画	第1講 合同ガイダンス 第2講 文章読解① 語彙学習① 第3講 文章読解② 語彙学習② 第4講 文章読解③ 語彙学習③ 第5講 能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第6講 能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第7講 能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講 能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講 能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講 文章読解④ 語彙学習④ 第11講 文章読解⑤ 語彙学習⑤ 第12講 文章読解⑥ 語彙学習⑥ 第13講 文章読解⑦ 語彙学習⑦ 第14講 文章読解⑧ 語彙学習⑧ 第15講 文章読解⑨ 語彙学習⑨ 定期試験 ＊授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習して いきます。					
テキスト・教材（参考文献）	『日本語能力試験問題集 N1（N2）読解 スピードマスター』 Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著 『日本語能力試験問題集 N1（N2）語彙 スピードマスター』 Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。					
事前・事後学習	読み物にはいろいろな専門用語をはじめとする語彙、文法などが織り込まれています。授業後は、講義内容を振り返り、問題点や不明点などについてもう一度調べ直し、自分の考えをしっかりとまとめておきましょう（90分）。					
成績評価方法	授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点后返却します）50%、期末試験50%。					
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことを心がけること。 遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。					

授業科目名	政治学概論		科目コード	181201	授業コード	422201
担当教員	吉川 和挟		科目ナンバリング	GELA1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	「政治」と聞くと難しそうだと感じる人も多いでしょう。しかし、私たちは不可避に政治に出会うことになります。それは「政治」が、独りでは生きていけない私たちのあいだのルールを決める営みだからです。本講義ではこのような集意的意思決定としての政治について学習します。 本講義前半（4～10回）では政治制度や政治に参加する集団の行動原理について「利益」の観点から分析し、政治学の基礎的知識を身に着けます。 本講義後半（11～14回）では「利益」の観点から離れた別の視点から政治の世界を眺め、単なる利益闘争には還元できない政					
到達目標	・主に日本の政治制度についての基本的用語や知識を理解し、他の政治系科目を履修するための基礎知識を獲得する ・一人の市民として、各種媒体の政治ニュースについて理解できるようになる					
授業計画	01.ガイダンス／政治とは何か？ 02.政治のとらえ方 03.分配的正義 04.国家という枠組み 05.政治体制 06.選挙と多数決 07.政党と政党システム 08.政権とアカウンタビリティ 09.政策過程と官僚制・利益団体 10.安全保障と平和 11.民主主義とは何か？ 12.「投票」だけが民主主義か？ 13.「私」のことも政治か？ 14.「市民である」とはどういうことか？ 15.まとめ：政治学概論 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	テキストは使用せず、必要に応じて配布資料を準備します。 【参考文献】 ・砂川庸介、稗田健志、多湖淳（2020『政治学の第一歩【新版】』有斐閣 ・田村哲樹、松元雅和、乙部延剛、山崎望（2017）『ここから始める政治理』有斐閣					
事前・事後学習	事前学習①：新聞やニュースに目を通し、政策・政治に関する問題を意識すること（毎日10分） 事前学習②：上記活動を通し、知らない単語・気になった話題などについて調べること（毎日5分） 事後学習①：レジュメ・ノートなどを見直し、不明点を整理、参考文献などで調べること（90分）					
成績評価方法	成績は以下の配分により評価します。 ・講義時に配布する小テスト/コメントシートの提出状況・授業態度：45% ・定期テスト（なんでも持ち込み可）：55%					
授業内の課題・提出方法	講義後半に数問の小テスト/コメントシートを配布・実施し、講義終了時に回収します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	回収した小テスト/コメントシートに関しては、次回以降の講義開始時にフィードバックを行います。					
アクティブラーニング	コメントシートの記載を通した自主的な質問と、フィードバックを行う					
実務経験のある教員	自治体の計画策定業務支援経験あり					
担当者から一言	私語などの他受講生の学習を阻害する行為は原則禁止とし、退室を命じる場合があります。また、2/3以上の出席が認められない学生については原則として単位を認めません。					

授業科目名	経済学概論		科目コード	181202	授業コード	422801
担当教員	鬼頭 浩文		科目ナンバリング	GELA1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる力					
授業のねらい	ここでは、経済学の基礎的思考方を学ぶため、映像による事例を紹介し、その背後にある経済の仕組みや動きについて説明していく。受講生には、映像や解説の内容をノートテイクするためのレジュメを配布する。映像や解説をメモしながら授業が進み、授業終了直後に完成したレジュメをスマホで撮影しMoodleに提出する。遅刻したり、他ごとをしていた部分は確実に減点されるので、90分の講義に集中しなければならない。また、できるだけ教室の中を動き、学生からの発言を求め、時にはディスカッションの時間を設ける。					
到達目標	経済学の基本的知識を映像から体感し、経済社会の背後にある仕組みを理解して将来の仕事や生活に役立つ知識を身に着けることが到達目標である。					
授業計画	1：ガイダンス、感染症が経済に与えた影響から経済の仕組みを学ぶ 2：コロナ禍で地域の金融機関が果たした事例から経済を知る 3：金融制度の表側と裏側を知る 4：中国の医療政策から学ぶ経済の仕組み① 5：中国の医療政策から学ぶ経済の仕組み② 6：日本の医療保険政策から学ぶ経済の仕組み① 7：日本の医療保険政策から学ぶ経済の仕組み② 8：日本経済における「働き方」の変化 9：文化・スポーツなどの経済活動 10：税の仕組みを知る（四日市市税務署） 11：企業経営の事例から経済を学ぶ① 12：企業経営の事例から経済を学ぶ② 13：インバウンド・外国人と日本経済 14：経済のいまを映像で知る 15：復習とレポート試験の説明					
テキスト・教材（参考文献）	テキストは購入しない。講義でプリントを配布する。					
事前・事後学習	この講義は、復習が重要である。講義後にプリントに書き込みをした内容を2～3時間かけて振り返り、理解できないところは次回の講義で必ず質問をすること。また、期末試験に向け、10時間ほどは振り返り学習をすること。					
成績評価方法	毎回Moodleに提出するレポート(75%)、対面・持ち込み不可で実施する学期末試験(25%)により、総合的に評価する。					
授業内の課題・提出方法	毎回レジュメにノートを取り、写真に撮影してMoodleに提出する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodle上で課題に対するフィードバックを行う。					
アクティブラーニング	毎回の授業において、レジュメへの書き込みを完成させ、授業終了後に自分の考えをまとめる課題を課す。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	社会に出て役立つ経済の知識を獲得できる講義を目指す。					

授業科目名	社会学概論		科目コード	181203	授業コード	421301
担当教員	三田 泰雅		科目ナンバリング	GELA1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力					
授業のねらい	この授業では社会学の基礎的な考え方を学びます。私たちは他者と関わり合って社会を作っています。一方で人間は社会によって作られる存在でもあります。私たちはどのように社会を作り、そして社会に作られているのか。この両面から社会の仕組みを考えてゆく授業です。					
到達目標	社会学的なものの見方や考え方を理解する					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 規範と価値 第3講 自分とは何だろうか 第4講 スポーツから近代社会を考える 第5講 人は集団をつくる 第6講 家族を考える 第7講 ジェンダーとは 第8講 格差と社会階層 第9講 なぜ学校に行くのか 第10講 都市を生きる 第11講 国家と国民社会 第12講 医療と健康 第13講 環境を考える 第14講 社会的排除 第15講 社会学の誕生					
テキスト・教材（参考文献）	<参考文献> 出口剛司（2019）『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA.					
事前・事後学習	1日10分以上かけて新聞やニュースに目を通す					
成績評価方法	平常点45%，期末試験55%。 平常点は各回の授業の参加度とリアクションペーパーの内容で評価します。					
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内でリアクションペーパーを作成し提出。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	各回の課題は翌週以降の授業内で適宜まとめてコメントします。					
アクティブラーニング	リアクションペーパー					
実務経験のある教員						
担当者から一言	学生諸君の積極的な参加を期待します。					

授業科目名	社会福祉概論		科目コード	181204	授業コード	421604
担当教員	松本 彩月		科目ナンバリング	GELA1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	本授業では、社会福祉に関する基本知識を身につけながら、現代社会の様々な問題について考察を深めていくことをねらいとします。社会福祉を学ぶ者としてより広い視野を持てるようになることを期待しています。					
到達目標	社会福祉の理念や歴史などの学習を通じて、社会福祉について正しく専門的な基礎知識を理解することを目標とします。					
授業計画	第1回 ガイダンス 授業の概要（社会福祉とは） 第2回 社会福祉の歴史の変遷 第3回 社会福祉の制度と人権 第4回 社会福祉の実施機関と福祉行財政 第5回 社会保障 小レポート-1 第6回 少子社会の展開 第7回 子ども家庭福祉 第8回 高齢者福祉 第9回 障がい者福祉 第10回 母子家庭及び父子家庭、ひとり親の福祉 小レポート-2 第11回 生活困窮者に対する福祉 第12回 社会福祉における相談援助 第13回 地域福祉 第14回 ボランティアとボランティア 第15回 まとめ 小レポート-3 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	毎回プリントを配布します。 ＜参考文献＞ 杉本敏夫他『社会福祉概論 社会福祉の原理と政策 第5版』勁草書房（2023年） 山縣文治他『よくわかる社会福祉 第11版』ミネルヴァ書房（2019年） 動画を視聴することもあります。					
事前・事後学習	毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイト（インターネットニュースも可）などで、社会福祉関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習60分以上）					
成績評価方法	＜評価＞ 受講態度10%、コメントカード10%、小レポート30%（全3回）、期末試験50% コメントカードは毎回提出してもらいます。 意見交換や発言を促す場合もありますが、私語は厳禁です。					
授業内の課題・提出方法	＜課題＞毎回の授業でコメントカードを提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	＜フィードバック＞ コメントカード、小レポートは翌週の授業で適宜コメントし、優良コメント・レポートを共有します。					
アクティブラーニング	コメントカード、グループワーク					
実務経験のある教員	非営利団体にて地域の子育て支援政策に携わった経験があります。					
担当者から一言	社会福祉の考え方をすることは今日においてとても重要です。身近なこととして考えられるようにしましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力しましょう。5回以上の欠席は原則として単位を与えません。遅刻・携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（＝欠席扱いとします）していただきます。					

授業科目名	日本国憲法概論		科目コード	181205	授業コード	422401
担当教員	中西 紀夫		科目ナンバリング	GELA1005		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	憲法は、国内法では最高法規であり、すべての法律の基本法であるといえます。したがって、憲法を基本に法律や命令が作られるため、日本の法秩序の維持につながっているのです。また、憲法に違反する国の行為は違憲となりますので、最近では、日本版NSC（国家安全保障会議）の創設が国民の知る権利への侵害にならないか、あるいは、集団的自衛権の解釈変更による安保関連法制化の問題などが議論されています。このように、憲法も新たな局面を迎えていますので、しっかりと認識を深めてもらいたいと思っています。					
到達目標	大学での一般教養課程で履修対象の社会科学系列科目の中に「憲法」が加えられているのは、すべての法律の基本法というだけでなく、将来どの方向に進むにせよ、立派な社会人として世の中に貢献していくのに重要な教養であると考えられているからです。したがって、各項目の内容把握だけでなく、できるだけ多くの規定を認識できるようになってもらいたいと考えています。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 憲法の機能 第3講 天皇と国民の関係 第4講 国民の三大義務 第5講 基本的人権とその種類 第6講 環境権（判例的考察） 第7講 憲法上の権利と義務 第8講 法の下での平等 第9講 絶対平和主義 第10講 国家機密と国民の知る権利 第11講 平等な投票にするための権利義務 第12講 行政救済 第13講 国際私法 第14講 憲法改正問題 第15講 まとめ 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	下記の著書のこの科目の部分最新版に編集したものと、必要に応じて新聞などを印刷して配布します。なお、ほかに補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。 参考文献：中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院（2010年11月30日）					
事前・事後学習	毎回、予習90分と復習90分をお願いします。内容は、教材を読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、自分に合った六法を購入しておくといでしょう。					
成績評価方法	成績は、次のような配点配分です。 受講態度 30%：授業中に行う小テストの出来や出席状況も含む。 定期試験 70%：試験は論述形式で、すべて持込可です。					
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中に小テストを実施した場合は、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。					
アクティブラーニング	必要に応じて、適語補充形式や択一式などの確認問題を実施して、講義内容を理解できたかどうかの確認をしてもらっています。					
実務経験のある教員	かつて本学の公務員講座で「憲法」を中心に法律科目を数年間担当しており、その経験をこの授業で生かすことができていると思います。					
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。					

授業科目名	民法概論	科目コード	181206	授業コード	423801
担当教員	土志田 佳枝	科目ナンバリング	GELA1006		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力				
授業のねらい	この講義は、実際に新聞やテレビなどで報道された事件や問題、身近な紛争（トラブル）を取り上げ、解決方法を考察しながら、民法の全体像を理解していくことを目的とします。新聞を下宿で購読していなくとも、テレビを持っていなくとも、今ではインターネットやSNSを通じて世界中のニュースを日本語で読めるようになりました。普段から、パソコンや携帯電話のアプリを通じて、様々な話題に興味を持って接してください。				
到達目標	新聞やテレビの報道で接した事件や問題、紛争を解決するために、民法からどのような妥当な結論を引き出せるだろうか考え、さらに解決方法を自らの筆で文章にまとめることを到達目標としたいと思います。したがって、授業には筆記用具を持参してください。なお、法令についてはオンラインで最新の条文に触れるようにしてください（e-gov法令検索「民法」「民事訴訟法」「家事事件手続法」「法の適用に関する通則法」など）。				
授業計画	1民法と民法典（予習90分：第1章）（復習90分） 2権利と義務（予習90分：第2章の1）（復習90分） 3契約①債権・債務（予習90分：第2章の2）（復習90分） 4契約②未成年（予習90分：第3章）（復習90分） 5後見（予習90分：第4章）（復習90分） 6所有権と占有（予習90分：第5章）（復習90分） 7時効（予習90分：第6章1消滅時効）（復習90分） 8不法行為と不当利得（予習90分：第6章2法定利率）（復習90分） 9事務管理（予習90分：第6章3約款）（復習90分） 10婚姻（予習90分：第6章4サービス契約）（復習90分） 11離婚（予習90分：第6章5自然災害と契約法）（復習90分） 12親子関係（予習90分：第7章）（復習90分） 13養子縁組（予習90分：おわりに）（復習90分） 14相続（予習90分：相続法改正資料）（復習90分） 15講義のまとめ（予習90分：これまでの復習）（復習90分）				
テキスト・教材（参考文献）	参考文献： 内田貴『民法改正—契約のルールが百年ぶりに変わる』（筑摩書店・2011）ISBN 978-448006634 参考文献は新書と電子書籍で入手可能ですが、必ずしも購入の必要はありません。グローバル化の影響は皆さんの学が民法にも及んでいます。近年の法改正にあわせて、わかりやすい本が次々出版されています。ぜひ図書館で手に取ってみてください（大学図書館の図書を探す https://ci.nii.ac.jp/books/ ）。				
事前・事後学習	予習には参考書などで授業に関する範囲を通読します（90分）。復習には授業で学習した条文や用語を確認して定着を図ります（90分）。詳細は授業計画を参照してください。				
成績評価方法	定期期末試験（50%）と平常点（50%：授業内外で実施する小テストやレポート提出などの課題）で評価します。詳細は授業担当者より初回授業時に説明します。				
授業内の課題・提出方法	課題は教室で受け取る予定です。提出日や書式などについては教室で案内します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	定期期末試験（50%）と平常点（50%：授業内外で実施する小テストやレポート提出などの課題）で評価します。詳細は授業担当者より初回授業時に説明します。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言	講義の内容に関する質問は、教室で受け付けています。そのほか、授業時間外学習を支援する目的で、不明な点があれば授業時間外でも回答ができるよう、メール等の手段により質問を受け付ける予定です。				

授業科目名	哲学概論	科目コード	181301	授業コード	423401
担当教員	フェリペ フェハリー	科目ナンバリング	GELH1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力				
授業のねらい	哲学においては、過去・現代を問わず、同じ問題が異なった形で出て来ている。本講義の目的は、古代ギリシャ以降2500年以上にもおよぶ哲学（philosophia）の根本的な問題を様々な哲学者の立場から明らかにすることである。 また、本講義では哲学の立場から現在社会の問題を考え、自らの力で「哲学は何のためにあるのか」という問いの答えを探す。				
到達目標	現代社会の問題を考えながら、哲学の伝統的な問題について議論すること。				
授業計画	第1講 ガイダンス・「哲学」とは何か 第2講 哲学の起源 第3講 哲学の三つの伝統 第4講 西洋と東洋 第5講 ソクラテス：無知の知 第6講 プラトン：洞窟の比喻 第7講 アリストテレス：現実とは何か 第8講 中世哲学 第9講 中世から近代へ 第10講 近代哲学 第11講 近代から現代へ 第12講 カント：超越とは何か 第13講 弁証法 第14講 懐疑的解釈学の哲学者たち 第15講 言葉には力がある！				
テキスト・教材（参考文献）	毎回、教員が資料を配布する。				
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで（毎週約90分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。				
成績評価方法	受講態度：30% ミニレポート：20% 最終レポート：50%				
授業内の課題・提出方法	授業で小レポートを提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。				
アクティブラーニング	授業の最後に「学んだことを確認し、次へつなげる」ことを目的としてミニレポートを課します。				
実務経験のある教員					
担当者から一言	本当の知識は無知から生まれます。これは2400年以上前のソクラテスの考えです。世界を理解するには、私たちも同じように、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。				

授業科目名	文学概論	科目コード	181302	授業コード	421404
担当教員	永井 博	科目ナンバリング	GELH1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力				
授業のねらい	この講義では、近代日本、あるいは現代世界の反戦文学・反戦思想を取り上げる。安倍内閣による、いわゆる安全保障関連法案の参議院での可決・成立は2015年9月19日のことだった。日本はより戦争をしやすい国になっているのであり、平和憲法の理念が揺らいでいるのだ。そしてロシアのウクライナ侵攻は2022年2月、イスラエルのガザ地区侵攻は2023年10月のことだった。このような現代の状況の中で、近代日本、あるいは19世紀から20世紀の世界で唱えられた反戦文学・反戦思想を振り返ることで平和を構築する道について考えてみたい。				
到達目標	近代の貴重な精神的遺産である反戦文学・反戦思想とともに読むことで、平和な世界をいかに実現していくかについての考え方を学ぶことが目標である				
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日露戦争概説 第3回 与謝野晶子「君死にたもうことなかれ」 第4回 陸羯南、主戦七博士の日露戦争主戦論 第5回 トルストイ「汝悔い改めよ」 第6回 幸徳秋水「戦争来」 第7回 内村鑑三の日露戦争非戦論 第8回 前半のまとめと復習（グループワーク） 第9回 ヴェトナム戦争概説 第10回 ボブ・ディラン「風に吹かれて」 第11回 武満徹・谷川俊太郎「死んだ男の残したものは」 第12回 日本国憲法第9条 第13回 加藤周一ほか「9条の会」 第14回 核戦争と「文学者の反核声明」 第15回 全体のまとめと復習（グループワーク） 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	プリントなどの資料を配布する。				
事前・事後学習	普段から新聞やテレビやインターネットなどで、日本、アジア、そして世界の現在の戦争に関する報道に接しておくこと。講義では明治から昭和までの反戦文学・反戦思想を取り上げるが、常に現代の状況にも注意を払う必要があるからである。（90分） また、講義で取り上げる与謝野晶子や内村鑑三などのテキストは、それぞれのテキストの原文の一部であることも多い。図書館などで簡単に読むことができるのでその全部を自分で読むこと。（90分）				
成績評価方法	受講態度50%、定期試験50%を目安に総合的に判断する。提出物は評価を付けたうえで翌週以降の講義で返却する。				
授業内の課題・提出方法	ほぼ毎回の終わりに講義の内容のまとめと、それに関する意見、質問などを簡単に書いて提出してもらう。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたミニ・レポートは、総評的なコメントとともに点数をつけて翌週に返却する。				
アクティブラーニング	小レポート				
実務経験のある教員					
担当者から一言	この講義のテーマは反戦文学・反戦思想であり、取り上げる題材は主として日本の近代文学・現代文学である。しかし「日本」にも「文学」にもこだわらないうちにはない。「外国」や「音楽などの文学以外のいろいろな表現」も取り上げるつもりである。				

授業科目名	歴史学概論	科目コード	181303	授業コード	425303
担当教員	浅井 雅	科目ナンバリング	GELH1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる 幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力				
授業のねらい	歴史的事項を文化・思想などを中心として様々な面から捉え、その実態にアプローチし、 当該時代の特質を理解するとともに、未知なる社会に挑んできた先人たちの知恵を追体験 することにより、新たな見方を提供したい。				
到達目標	1. 歴史と文化・思想のつながりを理解することができる。 2. 歴史を様々な側面から見ることで、新たな見識を得、未知なる社会への想像力を育 み、視野を広げることができる。 3. 「常識」を疑い、自分の力で物事を考え、根拠をもって議論する力を持つことができ るようになる。				
授業計画	第1回 講義のガイダンス、自己紹介 第2回 考古 第3回 古代 (1) 第4回 古代 (2) 第5回 古代 (3) 第6回 中世 (1) 第7回 中世 (2) & 近世 (1) 第8回 中世 (3) & 近世 (2) 第9回 近世 (3) 第10回 近世 (4) 第11回 近世 (5) 第12回 近世 (6) 第13回 近世 (7) 第14回 近代 (1) 第15回 近代 (2) 期末レポート				
テキスト・教材（参考文献）	毎回、プリントを電子あるいは紙で配布する。 参考文献は授業内で提示するが、歴史の教科書があれば持参のこと。				
事前・事後学習	毎回の授業後に小レポート（コメントペーパー）を提出してもらう。 次回の授業までに前回の内容については復習し、不明点を残さないこと。（60～90分）				
成績評価方法	毎回の授業の最後に提出してもらう小レポート（コメントペーパー）＝45% 期末レポート＝55% なお、2/3以上の出席がない場合は採点対象外とする。（病欠・公欠等は別途相談のこ と。）				
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーに関しては、Googleフォームのリンク先を毎回掲示する。 期末レポートはMoodle内に提出先を設けるので、期限内に電子データで提出のこと。 課題・書式・締切の詳細は授業内で発表する。				
授業内の課題・提出物の フィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべき ことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 授業中に受講にふさわしくない態度・行為（スマホ・イヤホンなどを含む）をとった者は 退室させるので、あらかじめ了解しておくこと。				

授業科目名	教育学概論		科目コード	181304	授業コード	421605
担当教員	長谷川 誠		科目ナンバリング	GELH1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	教育学概論は、教育が抱える社会的な課題や、社会変化に伴うさまざまな教育問題について検討することを目的とします。例えば、いじめや発達障害、不登校、若者の就労問題等、幼児、児童期から青年期にかけて生じる諸問題に対する教育的な支援や指導の在り方について考えていきます。そして、学校と家庭、地域等、教育を取りまく社会について、その相互メカニズムを理解しながら、学校教育に対する社会的期待や批判等について客観的に考えられるようになることを目指します。					
到達目標	教育を取り巻く諸問題を整理し、社会における教育の在り方への興味をより具体的なものとして意識し、議論できることを目指していきます。教育と社会の関わりについて学ぶことを通して、社会の変化が学校教育に与える影響を理解し、それによって生じる様々な教育課題を社会的に考察することで、現象を客観的に捉える力を養います。					
授業計画	第1講：教育とは何か 第2講：教育と社会 第3講：学歴社会の成立と変貌 第4講：日本の教育政策の動向-諸外国との比較から- 第5講：教育をめぐる格差問題 第6講：いじめ問題 第7講：不登校の課題と対応 第8講：特別な支援を必要とする子どもへの対応 第9講：懲戒と体罰 第10講：情報社会と教育 第11講：グローバル化と教育 第12講：リスク社会の進展と教育 第13講：若年層就労問題① 第14講：若年層就労問題② 第15講：まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません。適宜プリントを配布します。					
事前・事後学習	・教育に関するトピックスに日常から関心を持ち、関連文献や行政資料の下調べを通して理解を深めておくこと（学習時間：90分）。 ・授業内容をふまえ学生同士でディスカッションを行い自身の意見をまとめておくこと（学習時間：90分）。					
成績評価方法	・課題試験60%（授業で扱った教育課題に対する理解度、教育の在り方に対する自らの興味・関心の明確性・具体性） ・平常点40%（リアクションペーパーの内容についてのコメント、質問の記述的的確性）					
授業内の課題・提出方法	課題：授業内で実施するリアクションペーパー					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	翌週の授業にて適宜コメントします					
アクティブラーニング	適宜、ディスカッションを行います					
実務経験のある教員						
担当者から一言	積極的な授業への参加を期待しています。 現代の教育課題について一緒に考えていきましょう。					

授業科目名	心理学概論	科目コード	181306	授業コード	424601
担当教員	田中 伊知郎	科目ナンバリング	GELH1006		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力				
授業のねらい	情報処理理論と自然科学に基づく認知心理学の視点から、私たちが外界から得る情報の特徴を解説します。この人類に特徴的な過程を明らかにすることと、もう一つ人類が普遍的に行っている「相手に理解してもらえらる情報伝達(教えること)」とはどういうものかを明らかにすることを講義のねらいとします。				
到達目標	生物として、および神経系の情報処理から生じる「表現と伝達における人類の特性」を理解してもらいます。また、単に情報を発信しても相手が理解することは、ほとんどありません。人類の特性に基づく相手にわかってもらえる情報伝達の実践を到達目標にします。				
授業計画	第1講 ガイダンス・視覚情報：色彩 色の対処理 第2講 視覚情報・色彩 赤と青を同時に使わない(実習) 第3講 視覚情報・色彩 表現(映像・絵画)における補色の利用 第4講 資格情報・色彩 色鉛筆で絵を描きます(実習) 第5講 視覚情報・形 両眼視 第6講 視覚情報・形 アフォーダンス 第7講 視覚情報・アフォーダンス 実習1 ボケの効果 第8講 視覚情報・アフォーダンス 実習2 空気遠近を用いた作画(実習) 第9講 実験心理学からみた学習 第10講 個体学習と社会学習の違い 第11講 社会学習における課題 第12講 人類における「教えること」の成立(レポート課題の配布) 第13講 理解できるコミュニケーションの基礎となる同情と共感 第14講 実験心理学の技法・統計：因子分析を例にして 第15講 レポート返却(コメント付き)・講評 定期試験 各自のコメントに関連した問題				
テキスト・教材(参考文献)	なし				
事前・事後学習	授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを予習として調べてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。				
成績評価方法	講義中の実践課題40% レポート 40% 定期試験 20% 講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。レポートはコメントをつけて以降の講義で返却します。				
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。				
アクティブラーニング	視覚情報では、作画実習を行い、理解して使えるようになったかを確認めます。情報伝達では、実際に話を伝えるコミュニケーションを行ってもらいます。				
実務経験のある教員	京都大学霊長類研究所の研究員(生態・心理分野)の時、自然環境における親から子への情報伝達の研究に従事しました。				
担当者から一言	教育は一方向の情報発信でなく、双方向の情報通信によって達成されます。実践課題をすぐに評価するなど、みなさんの対応から授業の流れを機動的に変えて、よりよい理解を目指します。				

授業科目名	化学概論			科目コード	181401	授業コード	421302
担当教員	牧田 直子			科目ナンバリング	GELN1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	高校で化学を学んでいない、もしくは文系の学生向けの化学の授業ではあるが、高校では論理的な説明が成されず暗記科目になりがちな部分を大学の化学で補うことで、化学の考え方を学ぶ。化学は物質を扱う学問であり、「化学の目＝物質を見る目」を養うことがこの授業のねらいである。身の回りも自分自身も物質でできており、それらを学ぶ化学は実生活に役立つ実学である。健康で快適な生活のため、持続可能な社会の実現のために何をを選ぶのか。物質面からの道標が化学であり、ぜひ学んでもらいたい。 関連科目は「環境化学」、「自然調査法」、「環境基礎実験」など。特に「環境化学」の前にこの科目を履修することが望ましい。						
到達目標	「元素の周期表からの確かな情報を引き出す」 「化学の目＝物質を見る目」を養うためには、元素の周期表の学習は欠かせない。物質は元素で構成されており、元素の一覧表である周期表から非常に多くの情報を読み取ることができる。物質の構成元素わかれば、その物質の性質を予測する手がかりになる。周期表を使いこなせるようになろう。						
授業計画	第1講 ガイダンス、化学の学び方 第2講 物質とは何か 第3講 身の回りの物質 第4講 物質の性質 第5講 物質の状態 第6講 原子と電子軌道 第7講 電子配置と周期表 第8講 化学結合 1 第9講 化学結合2、物質質量 第10講 気体と溶液の性質 第11講 化学反応 第12講 酸と塩基 第13講 酸化と還元 第14講 光 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	教科書： 日本化学会 化学教育協議会「グループ・化学の本21」編「『化学』入門編 ― 身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみ」化学同人（2007）、2160円（税込）						
事前・事後学習	化学は積み上げ科目であり、土台（先に学習したこと）が大事になる。教科書をよく読み、わからないままにしないことが重要である。 (1) 予習・復習のために宿題プリントを配るので、解答する（90分）。 (2) 教科書を読む（60分）。各回の講義に該当する教科書のページ数を記載した講義計画を初回の授業で配布する。予習のポイントは宿題プリントに記載する。 (3) ノートの見直し、まとめ（30分）。						
成績評価方法	宿題プリント（13回分）：25%、定期試験：75%						
授業内の課題・提出方法	(1) 演習プリント：その日の授業の理解度と出席を確認することが目的であり、毎回授業中に取り組む。 提出方法－授業終了後に教室で提出する。 (2) 宿題プリント：授業の復習と次回の予習を含めた内容で第2講から13回分課す。 提出方法－翌週の授業開始後10分以内に教室で提出する。遅れたものは受け取らない。欠席・遅刻の予定がある者は前日までに提出すればよい。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された演習プリントと宿題プリントは、翌週の授業で返却する。 宿題の評価は正解率ではなく、解答率（問題数に対する解答数）に準じて採点し、プリントに明記する。						
アクティブラーニング	課題・宿題						
実務経験のある教員							
担当者から一言	講義で分からなかったことは聞きましょう。授業後の質問、プリントの事前提出・受取は6号館4階6412室へ。						

授業科目名	地学概論			科目コード	181402	授業コード	421101
担当教員	森 康則			科目ナンバリング	GELN1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	環境問題を考えるための土台となる地学の基礎的事項を、地震や火山といった自然災害などの実際の生活の身近にある地学的事象の事例を交えながら学んでいきます。						
到達目標	地球環境の成立過程や地球の構造、地殻を構成する岩石や地下水の特徴、地層の成り立ち、地震や火山などの活動など、地球科学全般の基礎的事項を網羅的に理解します。						
授業計画	第1講 ガイダンス・地学とは 第2講 地球の構造と形状 第3講 岩石と鉱物 1 第4講 岩石と鉱物 2 第5講 化石 第6講 地質年代 1 第7講 地質年代 2 第8講 堆積作用 第9講 プレートテクトニクス 第10講 火山 第11講 地震 第12講 自然災害 1 第13講 自然災害 2 第14講 温泉 1 第15講 温泉 2						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	講義前に次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は講義資料をもとにした復習をしてください（90分）。各講義の小テストや定期試験は、講義内容またはそれに関連する内容から出題します。						
成績評価方法	（1）各回の講義後の小テスト 5点 × 15回 = 75点 （2）レポート課題 25点 計 100点						
授業内の課題・提出方法	各回の講義後に小テストを行いますので、提出期限までにMoodleにて提出を求めます。提出期限後はMoodleが遮断され、提出できなくなりますので、注意してください。その他の詳細は、Moodle、UNIPAを使ってアナウンスします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleに提出された小テストは全て内容を確認し、必要に応じてMoodle上でコメントを付けますので、参考にしてください。質問等があれば、Moodleやメールにていつでも受け付けます。						
アクティブラーニング	受講者からの質問や意見で良いものがあれば、講義やMoodleの中で紹介するなど、受講者内での共有を図るようにします。						
実務経験のある教員	担当教員には、地質・地下水調査の実務経験があります。						
担当者から一言	高校で地学を履修していない学生が多いと思いますので、その想定の上で講義を進めます。講義を進めていくうえでの必要なアナウンスをMoodleやUNIPAを通じて行いますので、見落としのないように注意してください。また、オンライン方式ですので、自分のペースで学習ができる反面、効果的に受講しないと単位取得まで到達できません。受講に対する自律的な姿勢に期待しています。						

授業科目名	生物学概論		科目コード	181403	授業コード	423601
担当教員	田中 伊知郎		科目ナンバリング	GELN1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	自然科学のうち生物学が扱うことを、はっきりさせて行きます。まず、生物の活動に必要なエネルギーについて、次に、生物がどのように情報を処理するのか(生理学的な情報と遺伝学的な情報)を明らかにしていきます。					
到達目標	類の諸問題を考える上で、土台となる人間についての知識を養うこと、人間の生物としての特徴が生活や社会にどのように影響するのか明らかにすることをこの講義の到達目標とします。					
授業計画	第1講 ガイダンス・自然に働きかける人間：大学周辺の森の見学(フィールドワーク) 第2講 生物のエネルギー：代謝 第3講 光合成：エネルギーの生産 第4講 呼吸：エネルギーの活用 第5講 生体物質：反応できる窒素 第6講 タンパク質：安定した生体物質 第7講 RNA：即時処理のための核酸(形を理解する実習) 第8講 遺伝的情報：安定した核酸であるDNA 第9講 遺伝子：DNA内の情報システム 第10講 遺伝子発現の情報処理 第11講 生物の環境応答：刺激の受容 第12講 生理的情報：刺激伝達と神経システム 第13講 生理的情報の統合：興奮と抑制 第14講 環境への反応：効果器の代表としての筋肉 第15講 行動：統合された反応 定期試験 持ち込み不可					
テキスト・教材（参考文献）	なし					
事前・事後学習	授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。					
成績評価方法	講義の各回の終わりに練習問題(実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。 実践課題60% 定期試験 40%					
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。					
アクティブラーニング	学周辺の森の見学(フィールドワーク)をして、自然と人間の相互作用を理解します。					
実務経験のある教員	東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻における日本学術振興会特別研究員の時に、生理学の研究に従事し、成果をアメリカ・イギリスの国際英文学術誌(査読付き)に発表しました。					
担当者から一言	生物同士や生物と外部環境のかかわり合いのパターンを知る便利な手段が「生物学」です。DNAと遺伝子の違いなど、日常よく使われているながら誤解の多い言葉の意味に注意して、できるだけ日常的な言葉で説明します。					

授業科目名	数学概論		科目コード	181404	授業コード	422202
担当教員	金岩 稔		科目ナンバリング	GELN1004		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	高度な数学を学ぶための基礎力を養う講義です。 特に数学的な考え方を理解することに重点をおく。					
到達目標	(1) 数学的な物の考え方ができるようになる。 (2) 基礎的な数学を理解する。					
授業計画	1 ガイダンス 2 分離量と連続量 3 正と負 4 代数 5 図形 6 円 7 複素数 8 合同式 9 関数 1 10 関数 2 11 極限 1 12 極限 2 13 回転 1 14 回転 2 15 まとめと確認課題					
テキスト・教材（参考文献）	配布資料					
事前・事後学習	予習：講義の予定内容を高校までの教科書で予習する。 復習：講義中に行った演習を各自で完答できるようにする。					
成績評価方法	出席（50％）課題（50％）					
授業内の課題・提出方法	講義時間中に配布・提出。 Moodle併用する場合もある。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	事後の講義やMoodleにて。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	なるべく数式を使わず、数学の面白さをわかってもらえたらと思います。					

授業科目名	情報科学概論		科目コード	181405	授業コード	423201
担当教員	池田 幹男		科目ナンバリング	GELN1005		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	近年、デジタル化の急速な発展とインターネットによる高速な情報拡散によって、情報処理は急速に変化してきました。情報処理について理解することがますます重要になってきています。この授業では、パーソナルコンピュータ、スマートフォン、インターネットなどで行われている情報通信の現在の状況を学びます。					
到達目標	現代の情報処理技術の概要を理解する。					
授業計画	第1講 ガイダンス 人間はどうやって情報を伝えているか 第2講 情報メディア 第3講 身の回りの情報機器 第4講 コンピュータシステム 第5講 文字符号化 第6講 アナログからデジタルへ 第7講 マルチメディア（オーディオ、画像、ビデオ） 第8講 インターネット 第9講 WWW 第10講 SNS 第11講 ビッグデータと人工知能 第12講 生体認証 第13講 暗号化とセキュリティ 第14講 デジタルトランスフォーメーション（DX） 第15講 情報処理の将来 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	指定しない。教材はMoodleを通じて呈示します。					
事前・事後学習	教育支援システム(Moodle)に呈示されている資料や参考サイトを見て予習(90分)し、インターネットを通じて関連項目を調査して復習(90分)します。 関連科目：情報科学（環境情報学科専門科目）					
成績評価方法	教育支援システム(Moodle)を使用したディスカッション等での授業参加 30%、Moodleでの課題と小テスト30%、定期テスト40%で評価します。					
授業内の課題・提出方法	Moodleを通じて、ディスカッションしたり、課題を提出したりします。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通じて評価等のフィードバックします。					
アクティブラーニング	Moodle でのディスカッション、ミニレポート					
実務経験のある教員						
担当者から一言	情報通信の発展と変化は非常に速いので、常に変化に対応できるように情報を集めるように心がけてください。					

授業科目名	データサイエンス概論		科目コード	181406	授業コード	421606
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	GELN1006		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	情報通信技術の革命的発展にともない、私たちの住む社会はサイバー社会（ネット）とフィジカル社会（現実社会）とが一体化した新しい社会に生まれ変わろうとしています。その社会では、気づかないところで観測・集積される多様なデータを用いてAIが社会の重要な基盤として活躍します。 これからの私たちは、データサイエンスとAIについてのリテラシーをもつことが求められるようになります。 「データサイエンス概論」ではその入門編として基礎的な知識を学び、心構えの基本を身に付けてもらいます。					
到達目標	データサイエンスとAIについて基礎的な知識を獲得し、心構えの基本を身に付ける。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 社会で起きている変化① Society5.0（前川） 第3講 社会で起きている変化② AI（前川） 第4講 社会で起きている変化③ データ駆動型社会（前川） 第5講 社会で活用されているデータ（前川） 第6講 データ・AI利活用の最新動向（前川） 第7講 データ・AIの活用領域（千葉） 第8講 データ・AIの利活用のための技術（前川） 第9講 データ・AI利活用の現場（千葉） 第10講 データを読む・説明する・扱う（導入）（千葉） 第11講 データを読む・説明する・扱う（演習）（千葉） 第12講 データ・AI利活用における留意事項①（千葉） 第13講 データ・AI利活用における留意事項②（千葉） 第14講 データを守るうえでの留意事項（千葉） 第15講 まとめ 定期試験 （必要に応じて内容・順序を変更することがあります）					
テキスト・教材（参考文献）	岡嶋ほか「はじめてのAIリテラシー」技術評論社 税別1680円 参考文献 江間「絵と図でわかる AIと社会」技術評論社 税別2000円					
事前・事後学習	授業前にテキストの該当する箇所を予習すること（60分）。授業後に復習するとともに、参考図書やインターネットを用いて疑問点を調べ、授業内容を展開する探索を行うこと（120分）。					
成績評価方法	毎回の授業で課す確認テスト及び演習課題60%、定期試験40%で総合評価する。					
授業内の課題・提出方法	授業内で実習課題や復習課題を課し、原則として教室で提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中の課題等について、事後（次回など）に解説を行います。					
アクティブラーニング	演習を行います。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	本科目は、四日市大学のデータサイエンス・リテラシー（DSL）プログラムの中核科目です。 四日市大学DSLプログラムは、文部科学省から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度リテラシーレベル」を認定されました（三重県で初めて）。					

授業科目名	キャリア基礎 a		科目コード	181501	授業コード	426106
担当教員	高田 晴美		科目ナンバリング	GECC1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	この科目では、大学生としても社会人としても常識として確実に身に付けておくことが求められる基礎学力の習得を目指します。教養としての数学は、文系・理系を問わず、使いこなせる必要があります。また、論理的に文章を読み取る国語の読解力は、あらゆる分野でなくてはならないものです。全15回の授業は、オンデマンドで行います。苦手とする単元は授業動画を繰り返し視聴し、確実に学力を養成していきましょう。					
到達目標	①数学の基礎学力を身に付ける。 ②新聞記事、時事的な文章、評論等の論理的な文章を読み解けるようになる。					
授業計画	第1講 ガイダンス、数学1 第2講 数学2 第3講 数学3 第4講 数学4 第5講 数学5 第6講 数学6 第7講 数学7 第8講 読解1 第9講 読解2 第10講 読解3 第11講 数学8 第12講 数学9 第13講 数学10 第14講 数学11 第15講 数学12					
テキスト・教材（参考文献）	「キャリア基礎a」用テキストを使用します。					
事前・事後学習	まずはテキストの問題を試しに解いてみる（90分）。 次に、授業動画を視聴しながら、動画の指示に従って、テキストの問題を改めて解く。 復習として、問題を完璧に解けるようになるまで解き直す（90分）。					
成績評価方法	期末試験 100%					
授業内の課題・提出方法	テキストの各章末の確認テスト問題を課題とします。 Moodleに解答を掲示しますので、それを見て自分で答え合わせをしてください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解答・解説はMoodleにて示します。 課題や授業内容などについて、疑問がありましたら、メール等で受け付け、返信します。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員	担当者の高田は、複数の大学や再就職希望社会人向けの就職試験対策講座や公務員試験対策講座の担当経験あり。					
担当者から一言	大学で何を専門的に学ぶにせよ、大学卒の社会人に期待される最低限の学力、特に、多くの人が苦手としがちな数学は身に付けておいた方がよいです。この科目では「やれるまでやる」「基礎学力に自信が持てるようになる」つもりで取り組みましょう。					

授業科目名	キャリア基礎 b		科目コード	181502	授業コード	421701
担当教員	三田 泰雅		科目ナンバリング	GECC1002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	この科目では卒業後の進路選択に向けて、「働くこと」や「仕事を選ぶこと」について考えます。前半では働くことをめぐる様々な知識を学び、講義の後半では、実際に社会で働いている卒業生や社会人の皆さんをお招きし、様々な職業キャリアについて話していただきます。世の中にどんな仕事があるのかを知り、自分は将来どんな仕事につきたいのかを、自分の言葉で考えられるようになることが授業のねらいです。					
到達目標	以下の3つの到達目標があります。 1. 世の中の仕事について知る 2. いろいろな仕事のつながりを知る 3. 将来つきたい仕事を自分の言葉で考えられる					
授業計画	1 ガイダンス 2 労働①働くとは 3 労働②さまざまな働き方 4 労働③日本の働き方 5 産業①さまざまな産業 6 産業②北勢地域と東海地方の産業 7 産業③日本をとりまく世界の産業 8 中間まとめ 9 キャリアデザイン①：民間企業1 10 キャリアデザイン②：民間企業2 11 キャリアデザイン③：公務 12 キャリアデザイン④：自営、起業、フリーランス 13 キャリアデザイン⑤：社会的起業、市民セクター 14 適性診断 15 キャリアサポートセンターについて					
テキスト・教材（参考文献）	別途指定します。					
事前・事後学習	新聞やニュースに目を通すこと（1日10分以上）					
成績評価方法	平常点45%、中間試験20%、期末試験35%。 平常点は各回の受講態度および課題への取り組み姿勢で評価します。					
授業内の課題・提出方法	毎回の小レポート。提出方法は各授業内で指示します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートに対しては授業内でまとめてコメントします。					
アクティブラーニング	小レポート グループワーク					
実務経験のある教員	実際に社会で活躍している方々を講師にお招きし、キャリアデザインについて語っていただきます。					
担当者から一言	多くの人にとって働く期間と時間は人生の大部分を占めます。自分の仕事を探す手がかりをこの授業で学んでください。					

授業科目名	ビジネスマナー			科目コード	181601	授業コード	425601
担当教員	長野 ゆき子			科目ナンバリング	GECC1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢						
授業のねらい	本講義は、ビジネスマナーの初歩を学びます。ビジネスマナーは一つのスキルではありませんが、その本質は人間関係です。そこでまずは、日常の良好な人間関係をどう作っていかばよいかを学びます。そのうえで、一般的なビジネスマナーの知識・考え方・所作を学びます。 表現には、言葉（言語）以外に、身振り・手部と言った非言語コミュニケーションも含まれます。この応用としてビジネスマナーがあります。 職場内やお客様との間での様々なシーンを想定して、ビジネスマナーの基本を学びます。						
到達目標	社会人としてビジネスマナーの基本を身に付けており、社会生活の中のさまざまなシーンで実践できることです。まずは、相手との関係性において適切な自己表現ができることが目標です。 ①人間関係づくりの考え方を学ぶこと。 ②一般的なマナー（言語・非言語）を習得すること。 ③ビジネスシーンごとのビジネスマナーの基礎を習得すること。						
授業計画	① 9/27 ガイダンス・人間関係作り① 価値交流 ② 10/4 人間関係作り② コミュニケーションとは ③ 10/11 人間関係作り③ パフォーマンス学 ④ 10/18 人間関係作り④ 話し方・聞き方 ⑤ 10/25 人間関係作り⑤ 聞き方・考え方 ⑥ 11/1 一般的なマナー① 敬語① ⑦ 11/8 一般的なマナー② 敬語② ⑧ 11/15 一般的なマナー③ 表情・声・身体表現① ⑨ 11/22 一般的なマナー④ 表情・声・身体表現② ⑩ 11/29 ビジネスマナー① 職場のルール・報連相 ⑪ 12/6 ビジネスマナー② 受付・案内・席次・訪問時のマナー ⑫ 12/13 ビジネスマナー③ 一般文書トビジネス文書（メール・封筒・ハガキの書き方） ⑬ 12/20 ビジネスマナー④ プレゼンテーション（原稿作成・言語非言語表現） ⑭ 1/10 ビジネスマナー⑤ クレーム対応（場面に応じた対応） ⑮ 1/17 総まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	講義資料・プリントを配ります。						
事前・事後学習	予習：授業中に宿題内容を指示します。 次回の講義の予習準備として出されたプリントを演習してきます。 次回講義内容に関係した課題を調べてきます。 復習：毎回の講義で学んだ内容を再度資料を見て復習したり、実技練習をしてきます。						
成績評価方法	定期テスト50% 参加態度及び小テスト50%。 小テストは、その回の講義の振り返りとして毎回実施します。 解答を明示し解説して、丸つけ採点をします。 小テスト用紙は講義終了後回収し、点数を記録保管します。						
授業内の課題・提出方法	講義の最後に、今回の講義内容の重要点をおさらいした後、小テストを実施します。 丸つけしたその小テスト用紙は、講義終了後に回収し、点数を記録保管します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の初めに、前回授業内容の重要点事項・小テスト内容のポイントなどの振り返り授業を行います。学生を指名して解答して頂いただき、理解度を計ることをしたり、グループディスカッションを通じて定着度を確認するときもあります。						
アクティブラーニング	毎回の講義内容により学習の形態を変えます。 コメントシート、ミニツツペーパー。 ディスカッション発表。 プレゼンテーション原稿を作詞して実技発表。 グループワーク。ペアワーク発表。						
実務経験のある教員	民間企業勤務。企業研修講師。						
担当者から一言	外部講師による実践的なコミュニケーション技術を学びます。意欲的な学生の受講を期待します。						

授業科目名	インターンシップ a		科目コード	181603	授業コード	426103
担当教員	鬼頭 浩文、岡 良浩		科目ナンバリング	GECC1006		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	大学の長期休暇などで合計10日間をフルタイムで就労体験する。正職員と同じ責任と目線で就労体験を行う。この体験は、ハードな実習になるので、安易な受講は避けてほしい。 ■インターンシップを履修するための条件 ・3か月以上のアルバイトの経験（週2日以上定期アルバイト）があることが望ましい ・基本的なマナーが身につけており、コミュニケーション能力が高いこと ・どのような研修をしたいのか、明確な目標があること					
到達目標	正職員と同じ目線で仕事を捉え、業務の全般を把握できること。					
授業計画	★日程については掲示板で発表するので、日ごろから掲示板を確認すること ★詳細は、履修要綱に記載 4月：説明会（CSC主催）・・・スケジュール詳細説明／申込用紙配布 4月末：申込用紙を提出 ⇒ 書類選考の合格者を発表 5月中旬～下旬：面接 ⇒ 面接の合格者を発表 6月下旬：研修先マッチング開始 ⇒ 研修先決定 7月中旬：事前研修・・・マナー研修/インターンシップ中の心得等 7月下旬：直前ガイダンス・・・研修中の諸注意/事後研修についての連絡等 8～9月：インターンシップ 10月：事後面談・・・レポート提出 11月以降：単位認定 ＊春期休業期間等のインターンシップについては別途説明します。					
テキスト・教材（参考文献）	とくになし					
事前・事後学習	講義計画に記述した通り、研修前に十分な準備学習が必要となる。原則として、準備学習において一度でも遅刻・欠席があった場合は、研修を認めない。まずは説明会に出席し、面談を受けたら実習に向けて準備学習を進めてほしい。					
成績評価方法	事前研修での評価、就業体験時の勤務状況、就業体験後に提出するレポートにより評価する。					
授業内の課題・提出方法	インターンシップにおいて毎日を振り返って日報を書いたり、終了後にレポートを書いたりする。詳しくはガイダンスで説明する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	インターンシップの事前に面談を行い、研修の内容について助言を与える。事後においても、日報などを確認し、学生にフィードバックを行う。					
アクティブラーニング	インターンシップは、自分で考え行動することが求められる。研修先では、ディスカッションやプレゼンテーション、グループワークなどを求めることもある。					
実務経験のある教員	単位認定は教員が行うが、インターンシップでは研修先の実務担当者が指導にあたる。					
担当者から一言	明確な目標がない学生は、受講を認めない。安易な考えで受講することは、絶対にしないしてほしい。なお、実習は平日昼の正社員と同じ勤務になる。当然、アルバイトやクラブ活動で欠席することは認められない。					

授業科目名	ビジネス英語 a			科目コード	181701	授業コード	423202
担当教員	樋口 晶子			科目ナンバリング	GECE1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	ビジネスの場で英語を使える力を身につけるスタート段階は、世の中のいろいろなことに対して、自分の意見を持ち、それをことばで表現することです。そのための基礎的な英語スキル（スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング）を磨きます。題材はビジネスに限定せず、文化・自然・科学など、広い分野を対象とし、わかりやすい英語を通じて内容を理解します。また、将来、TOEIC、英検などの試験問題に挑戦することに備え、その出題形式を知ることを目的として、練習問題に挑戦します。グループワークやペアワークを毎回行います。						
到達目標	1. 教材やプリント、補助教材などをマスターする。 2. 英語で読んだり聞いたりして、内容を理解する。 3. 簡単な自分の意見を英語で伝える。 4. TOEIC、英検等、英語資格試験の出題形式を知る。 5. TOEIC(L/R) 400～450点程度に相当する英語力獲得をめざす。						
授業計画	第1講 ガイダンス Introduction、Unit 1/ Weather 第2講 Unit 2/ The Internet 第3講 Unit 3/ Animals 第4講 Unit 4/ Friends 第5講 Unit 5/ Helping Others 第6講 Unit 6/ Traveling 第7講 Unit 7/ Collections and Gifts 第8講 Unit 8/ Careers 第9講 Unit 9/ European Cultures 第10講 Unit 10/ Gifted Children 第11講 Unit 11/ Restaurants 第12講 Unit 12/ Transportation 第13講 Unit 13/ Homes 第14講 Unit 14/ Space 第15講 Unit 15/ Personality定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：『Reading Links 2』（南雲堂） テキスト以外に授業で使用する教材はプリントとして配布します。 参考文献：各種英語試験対策のための問題集 『英検過去6回全問題集』（旺文社）、『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 8』（ETS）など、自分のレベルに合ったものを選んでください。四日市大学情報センターで各種問題集を貸し出しています。実際に受験する人は、内容を見て購入することをお勧めします。						
事前・事後学習	テキストは必ず予習し、わからない単語などは調べておいてください。毎日1時間程度の英語学習が必要です。授業ではテキストの内容を逐一説明することはないので、わからない点を質問できるように準備して授業に参加してください。授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。						
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題 50% （毎回、小テストを行います） 定期試験 50% コミュニケーションを取る意欲の涵養を重視する観点から、単に出席しているだけで、授業に積極的に参加しない場合は、欠席扱いにすることがあります。英語レベルにかかわらず、授業に取り組む姿勢を高く評価します。						
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などは、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。						
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、小テスト、課題・宿題						
実務経験のある教員							
担当者から一言	学生参加型の授業です。出席しても授業に参加しない学生は、評価しません。英語が下手でもいいのでコミュニケーションする気持ちを自分から示してください。英語資格試験受験を考えている方には、個別に相談に応じますので、担当教員にお尋ねください。						

授業科目名	ビジネス英語 b			科目コード	181702	授業コード	423602
担当教員	樋口 晶子			科目ナンバリング	GECE1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力						
授業のねらい	自分の意見を持ち、それをことばで表現することが、ビジネスの場に立つスタート段階です。「ビジネス英語a」での学習をもとにして、引き続き、自分の意見を英語を伝えるための基礎的な英語力（スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング）を伸ばします。題材はビジネスに限定せず、文化・自然・科学など、広い分野を対象とし、わかりやすい英語を通じて内容を理解します。「ビジネス英語a」に引き続き、将来のTOEIC、英検などの受験を念頭に、出題形式を知るために問題を解いてみます。グループワークやペアワークを多く行います						
到達目標	1. 教材やプリント、補助教材などをマスターする。 2. 英語で読んだり聞いたりして、内容を理解する。 3. ある程度まとまった自分の意見を英語で伝える。 4. TOEIC、英検等、英語資格試験の出題形式を知る。 5. TOEIC(L/R) 400～450点程度に相当する英語力獲得をめざす。						
授業計画	第1講 ガイダンス Introduction、Unit 1/ Nature 第2講 Unit 2/ Music 第3講 Unit 3/ Hobbies 第4講 Unit 4/ Culture 第5講 Unit 5/ Interesting Places 第6講 Unit 6/ Animals 第7講 Unit 7/ Art and Design 第8講 Unit 8/ Weather 第9講 Unit 9/ Traveling 第10講 Unit 10/ Entertainment 第11講 Unit 11/ Friends 第12講 Unit 12/ Africa 第13講 Unit 13/ Self-Improvement 第14講 Unit 14/ Sports 第15講 Unit 15/ Transportation 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：『Reading Links 3』（南雲堂）【「ビジネス英語a」と違うテキストですので、ご注意ください。】 テキスト以外に授業で使用する教材はプリントとして配布します。 参考文献：各種英語試験対策のための問題集 『英検過去6回全問題集』（旺文社）、『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 8』（ETS）など、自分のレベルに合ったものを選んでください。四日市大学情報センターで各種問題集を貸し出しています。実際に受験する人は、内容を見て購入することをお勧めします。						
事前・事後学習	テキストは必ず予習し、わからない単語などは調べておいてください。毎日1時間程度の英語学習が必要です。授業ではテキストの内容を逐一説明することはないので、わからない点を質問できるように準備して授業に参加してください。授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。						
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題 60％ （毎回、小テストを行います） 定期試験 40％ コミュニケーションを取る意欲の涵養を重視する観点から、単に出席しているだけで、授業に積極的に参加しない場合は、欠席扱いにすることがあります。英語レベルにかかわらず、授業に取り組む姿勢を高く評価します。						
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などについて、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。						
アクティブラーニング	ほぼ毎回、グループワーク・ペアワークを行います。参加しない人は欠席扱いにすることがあります。また課題及び課題に対するフィードバックなどは、課題ごとに指示します。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	学生参加型の授業です。出席しても授業に参加しない学生は、評価しません。英語が下手でもいいのでコミュニケーションする気持ちを自分から示してください。英語資格試験受験を考えている方には、個別に相談に応じますので、担当教員にお尋ねください。						

授業科目名	ビジネス英語 c		科目コード	181703	授業コード	123402
担当教員	青木 陽子		科目ナンバリング	GECE1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	ビジネスの場において使える英語を4技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）の観点から学びます。実際に遭遇することの多い様々なビジネスシーンを取り上げながら、英語の表現力の向上を目指します。ライティング練習では、ビジネスコミュニケーションの中心となるemailを取り上げ、フォーマルな表現からカジュアルな表現まで様々な表現方法を学びます。					
到達目標	1. 英語の読解力・聴解力を高める。 2. 基礎的な英語を用い、自分の意見を相手に伝える力を習得する。 3. コミュニケーション相手に合わせた英語表現の使い分けを理解する。					
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 Unit 1 Introducing Yourself 第2講 Unit 1 Introducing Yourself 第3講 Unit 2 Introducing Companies 第4講 Unit 2 Introducing Companies 第5講 Unit 3 Explaining Your Role 第6講 Unit 3 Explaining Your Role 第7講 Unit 4 Introducing Products 第8講 Unit 4 Introducing Products 第9講 Unit 5 Checking Information 第10講 Unit 5 Checking Information 第11講 Unit 6 Giving Your Opinion 第12講 Unit 6 Giving Your Opinion 第13講 Unit 7 Making Requests 第14講 Unit 7 Making Requests 第15講 Unit 8 Asking Permission 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	Garry Pearson・Graham Skeritt・吉塚弘著『Go Global ?English for Global Business? グローバル時代のビジネスコミュニケーション』成美堂（2019年）定価：2640円（税込）					
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習をする（90分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う（90分）					
成績評価方法	学習態度 20% 課題・小テスト 30% 定期試験 50% ※5回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。					
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題や提出物について、必要に応じて、各学生またはクラス全体の講評としてフィードバックします。					
アクティブラーニング	小テスト、課題・宿題					
実務経験のある教員						
担当者から一言	英語学習は、予習と復習が大事です。しっかり準備して授業に臨んで下さい。授業への積極的な参加を期待します。					

授業科目名	ビジネス英語 d		科目コード	181704	授業コード	423802
担当教員	青木 陽子		科目ナンバリング	GECE1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	ビジネスの場において使える英語を4技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）の観点から学びます。実際に遭遇することの多い様々なビジネスシーンを取り上げながら、英語の表現力の向上を目指します。ライティング練習では、ビジネスコミュニケーションの中心となるemailを取り上げ、フォーマルな表現からカジュアルな表現まで様々な表現方法を学びます。					
到達目標	1. 英語の読解力・聴解力を高める。 2. 基礎的な英語を用い、自分の意見を相手に伝える力を習得する。 3. コミュニケーション相手に合わせた英語表現の使い分けを理解する。					
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 Unit 8 Asking Permission 第2講 Unit 9 Making Invitations 第3講 Unit 9 Making Invitations 第4講 Unit 10 Making Appointments 第5講 Unit 10 Making Appointments 第6講 Unit 11 Canceling and Rescheduling 第7講 Unit 11 Canceling and Rescheduling 第8講 Unit 12 Describing Locations 第9講 Unit 12 Describing Locations 第10講 Unit 13 Looking after a Visitor 第11講 Unit 13 Looking after a Visitor 第12講 Unit 14 Making a Phone Call 第13講 Unit 14 Making a Phone Call 第14講 Unit 15 Taking Messages 第15講 Unit 15 Taking Messages 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	Garry Pearson・Graham Skeritt・吉塚弘著『Go Global /English for Global Business: グローバル時代のビジネスコミュニケーション』成美堂（2019年）定価：2640円（税込）					
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習をする（90分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う（90分）					
成績評価方法	学習態度 20% 課題・小テスト 30% 定期試験 50% ※5回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。					
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題や提出物について、必要に応じて、各学生またはクラス全体の講評としてフィードバックします。					
アクティブラーニング	小テスト、課題・宿題					
実務経験のある教員						
担当者から一言	英語学習は、予習と復習が大事です。しっかり準備して授業に臨んで下さい。授業への積極的な参加を期待します。					

授業科目名	ITリテラシー		科目コード	181801	授業コード	423403
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	GECI1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	WebサイトやWebアプリを制作・開発するにあたって持っておきたい、Webの基礎知識と原理を学びます。Webデザイン技能検定3級レベルの知識を得る事を目標とします。					
到達目標	インターネットの概要理解と、ネットワークの動作原理の理解、セキュリティを理解し、WebサイトやWebアプリ制作に活かせる知識の習得を目標とする。					
授業計画	1. ガイダンス・Webの概要1 2. Webの概要2 3. Webサイトの技術1 4. Webサイトの技術2 5. Webサーバーとファイル1 6. Webサーバーとファイル2 7. ネットワーク・TCP/IP 8. ネットワーク・HTTP 9. セキュリティ 1 10. セキュリティ2 11. Webサイトの設計1 12. Webサイトの設計2 13. Webサイトの運用1 14. Webサイトの運用2 15. まとめ 定期試験 ※学習状況により変更の可能性があります					
テキスト・教材（参考文献）	増井 敏克 著 「基礎からのWeb開発リテラシー」 技術評論社 ￥2300＋税					
事前・事後学習	テキストでの予習(30分)授業ノートの整理(60分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)					
成績評価方法	受講態度40%(レポート・小課題の提出状況・授業に取り組む姿勢) 定期試験60%					
授業内の課題・提出方法	対面提出・学内サーバー指定フォルダを利用する場合と、Moodle・メールを利用する場合があります。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の課題・質問等へのフィードバックは当日中か翌週に行う。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員	Webサイト制作業務経験有					
担当者から一言	Webは身近な存在で、必要不可欠レベルの存在となっています。身近だけど知らないWebの技術や歴史を共に学びましょう。					

授業科目名	Webプログラミング 1	科目コード	181802	授業コード	424604
担当教員	片山 清和	科目ナンバリング	GEC11002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢				
授業のねらい	ホームページ作りを通してWebの仕組みとプログラミングの基礎を学びます。具体的には、HTMLの基本タグを使うことでホームページの論理構造を記述し、スタイルシートを使うことでホームページのレイアウト・デザインを記述することを学びます。				
到達目標	HTMLの基本タグやスタイルシートを使った簡単なホームページが作れる。				
授業計画	第1講 ガイダンス、WWWとWeb 第2講 HTML概要 第3講 画像とリンク 第4講 箇条書き 第5講 表組み 第6講 入力フォーム 第7講 CSS概要 第8講 見出しと段落 第9講 boxモデル 第10講 ヘッダー 第11講 表のスタイリング 第12講 問合せフォーム 第13講 Webサイト制作（1） 第14講 Webサイト制作（2） 第15講 Webサイト制作（3）				
テキスト・教材（参考文献）	<テキスト> 赤間公太郎、狩野咲、鈴木清敬 「世界一わかりやすい HTML5 & CSS3コーディングとサイト制作の教科書〔改訂2版〕」 技術評論社 ￥2,948（税込）				
事前・事後学習	講義前には、該当部分のテキストを読んで理解して来ること（60分） 講義後には、学習した内容を復習し、もう一度演習を行うこと（120分）。 本講義の内容をふまえ、発展した内容を「Webプログラミング2」で学習します。				
成績評価方法	<評価> 提出物55%、作品45%				
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業で作成したコードを提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> 提出物はその場でチェックし、問題点のある提出物は受理しません。				
アクティブラーニング	課題、実習				
実務経験のある教員					
担当者から一言	プログラミングはコンピュータの基本を学ぶために必須です。 各講義では演習問題を解きます。授業中に終わらない場合は宿題となります。 積み重ねの内容なので、演習問題をしっかり行い、理解してから進むようにしてください。 また、出席状況が悪い場合には減点します。				

授業科目名	Webプログラミング2	科目コード	181803	授業コード	424301
担当教員	柳澤 翔士	科目ナンバリング	GEC11004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力				
授業のねらい	Webの仕組みとプログラミングを学びます。Webプログラミング1で学んだことをもとに、より実践的な内容を学ぶ事でWebデザイン技能検定3級レベルの技術・知識を学ぶ。				
到達目標	自分でHTMLを書くことができる技術・知識の習得と、Webに関わる総合的な知識を習得することでWebデザイン技能検定3級レベルの能力を得ること。				
授業計画	全て実習を含みます 1. ガイダンス・基礎知識 2. Webサイトの概要 3. HTML① 4. HTML② 5. HTML③ 6. CSS① 7. CSS② 8. CSS③ 9. サイトの設計と制作① 10. サイトの設計と制作② 11. サイトの設計と制作③ 12. サイトの設計と制作④ 13. 模擬試験① 14. 模擬試験② 15. 模擬試験③・まとめ 定期試験 ※学習状況により内容はその都度変更する場合があります※				
テキスト・教材（参考文献）	[テキスト] 特定非営利活動法人インターネットスキル認定普及協会 「改訂版 ウェブデザイン技能検定 3級 過去問題集 (よくわかるマスター)」 富士通ラーニングメディア(FOM出版) ※テキストは変更の可能性があります。変更時は掲示をしますので掲示板をチェックしてください※ [参考図書] 赤間公太郎、狩野咲、鈴木清敬 「世界一わかりやすい HTML5 & CSS3 コーディングとサイト制作の教科書 [改訂2版] 」 技術評論社				
事前・事後学習	講義前にテキスト・配布資料を読んだり整理することで理解を深める事(60分) 講義後に授業の内容を再確認し、理解を深めること(120分)				
成績評価方法	レポート・授業課題等の受講態度(50%) 定期試験(50%)				
授業内の課題・提出方法	学内サーバーフォルダを使用する場合と、Moodleやメールを使う場合があります。(その都度指定)				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	当日中、あるいは翌週に行う。				
アクティブラーニング	PC実習				
実務経験のある教員	Webサイト制作業務経験あり				
担当者から一言	Webプログラミング1で得た知識が重要になります。もう一度Webに関わる基礎から復習を行い、より実践的な知識・技術を身につけましょう。出席状況が悪い場合は減点を行います。課題提出がされない場合大きく減点するので課題は必ず出しましょう。				

授業科目名	文書表現ツール 1		科目コード	181804	授業コード	423803
担当教員	池田 幹男		科目ナンバリング	GECI1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	Word は、卒業後の実社会では必須の道具です。単に文書を作成するだけではない Word の様々な機能が使えるなることを目指します。					
到達目標	Word の便利な新機能を実際に使って、実社会での使い方を身につけることを到達目標とします。さらに、講義を終えれば、MOS Word の資格取得試験の準備が整うようにします。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 文書の作成 第3講 文書の管理 第4講 文字・段落の書式設定 第5講 セクションの書式設定 第6講 表やリストの作成と変更 第7講 引用文献 第8講 図表の管理 第9講 文書パーツ 第10講 SmartArt 第11講 画像の挿入 第12講 MOS word 模擬試験問題 1 第13講 MOS word 模擬試験問題 2 第14講 MOS word 模擬試験問題 3 第15講 MOS word 模擬試験問題 4					
テキスト・教材（参考文献）	佐藤 薫「MOS攻略問題集Word 365&2019」日経BP社 ￥2200					
事前・事後学習	大学や個人所有のPCで、テキストの練習問題の予習・復習およびテキストの模擬試験を繰り返し行ってください。（週180分）					
成績評価方法	毎回の課題（60％）、模擬試験演習（40％）で評価します。定期テストは実施しません。					
授業内の課題・提出方法	Moodle を通じて課題を提出します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodle を通じて適宜、提出物にコメントを付けてフィードバックします。					
アクティブラーニング	実習課題を毎回提出します。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	人数制限があるので、初回は必ず出席してください。					

授業科目名	文書表現ツール2	科目コード	181805	授業コード	424503
担当教員	柳澤 翔士	科目ナンバリング	GECI1005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢				
授業のねらい	Wordと使いこなす技術は、現代においては重要なスキルです。Word2019を使いこなす技術と知識の習得を目指す。				
到達目標	MOS word 365&2019エキスパート合格レベルの知識技術を習得する事を目指す				
授業計画	1.ガイダンス・基礎知識 2.文書のオプションと設定の管理1 3.文書のオプションと設定の管理2 4.文書のオプションと設定の管理3 5.編集機能・書式設定機能1 6.編集機能・書式設定機能2 7.編集機能・書式設定機能3 8.ドキュメント要素の作成1 9.ドキュメント要素の作成2 10.ドキュメント要素の作成3 11.高度なWord機能の利用1 12.高度なWord機能の利用2 13.MOS word 365&2019模擬試験問題1 14.MOS word 365&2019模擬試験問題2 15.MOS word 365&2019模擬試験問題3 定期試験 ※学習状況により変更の可能性があります				
テキスト・教材（参考文献）	佐藤 薫 著 「MOS攻略問題集Word 365&2019エキスパート」 日経BP ￥3300				
事前・事後学習	テキストでの予習(90分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)				
成績評価方法	受講態度40%(レポート・小課題の提出状況・授業に取り組む姿勢) 試験60%				
授業内の課題・提出方法	学内サーバー指定フォルダを利用する場合と、Moodle・メールを利用する場合があります。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の課題・質問等へのフィードバックは当日中か翌週に行う。				
アクティブラーニング	Word実習				
実務経験のある教員					
担当者から一言	Wordを使った文書作成において必要となる知識・技術について共に学び、MOS word365&2019エキスパート合格レベルを目指しましょう。				

授業科目名	データ操作ツール1		科目コード	181806	授業コード	422402
担当教員	池田 幹男		科目ナンバリング	GECI1006		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	Microsoft Excelは実社会では、表やグラフ作成だけでなく、簡単な文書作成にも使われていて、必須のアプリケーション・ソフトウェアとなっています。したがって、社会で活躍するためには、Excelを道具として使いこなす能力が必要となります。この講義では、Excelの資格試験（Microsoft Office Specialist）を受験するための演習を行います。					
到達目標	MOS Excel の資格試験の準備が整うようにします。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 ワークシートやブックの作成と管理（1） 第3講 ワークシートやブックの作成と管理（2） 第4講 ワークシートやブックの作成と管理（3） 第5講 セルやセル範囲の作成（1） 第6講 セルやセル範囲の作成（2） 第7講 テーブルの作成 第8講 数式や関数の適用（1） 第9講 数式や関数の適用（2） 第10講 グラフやオブジェクトの作成 第11講 模擬試験演習（1） 第12講 模擬試験演習（2） 第13講 模擬試験演習（3） 第14講 模擬試験演習（4） 第15講 模擬試験演習（5）					
テキスト・教材（参考文献）	土岐順子「MOS攻略問題集Excel 365」 日経BP社 ￥2, 200					
事前・事後学習	大学や個人所有のPCで、テキストの練習問題の予習・復習およびテキストの模擬試験を繰り返し行ってください。（週180分）					
成績評価方法	毎回の課題（60％）、模擬試験演習（40％）で評価します。定期テストは実施しません。					
授業内の課題・提出方法	Moodle を通じて課題を提出します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodle を通じて適宜、提出物にコメントを付けてフィードバックします。					
アクティブラーニング	毎回の実習課題提出					
実務経験のある教員						
担当者から一言	人数制限があるので、初回は必ず出席してください。					

授業科目名	公務のための判断推理		科目コード	181901	授業コード	423404
担当教員	高田 晴美		科目ナンバリング	GEC1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	公務員試験の教養科目のうち、「判断推理」は、高校までの学習内容からは外れた、公務員試験独特の科目です。理数系ではありますが、パズルのような問題が大部分であるため、解法の知識も必要ですが、それとともに、試行錯誤しながら論理的に考えていく思考力と粘り強さが要求されます。また、時間をかけずに要領よく解答するためのコツも必要であり、様々なタイプの問題に慣れておく必要もあります。講義では、各テーマについて基本的な解法を示した上で、実際に問題演習にあたり、自力で解くための学力を養成します。					
到達目標	1 判断推理の解法を一通り身に付ける。 2 論理的な思考能力と、解答のために試行錯誤をする力を養う。 3 今後、自力で学習を進めていけるだけのベースとなる学力を身に付ける。					
授業計画	第1講 ガイダンス、順序関係 第2講 順序関係 第3講 位置関係 第4講 対応関係 第5講 試合 第6講 数量関係 第7講 命題と論理 第8講 真偽 第9講 暗号と規則性 第10講 操作・手順 第11講 パズル問題 第12講 移動と軌跡 第13講 立体図形 第14講 展開図 第15講 サイコロと位相 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベスト NEO 判断推理』エクスア出版（2021年）1, 650円					
事前・事後学習	講義までに、前の週でやった単元（授業でやったあたり）について、以下のことをしておくこと。 ・講義で扱った問題の解きなおし（90分） ・講義では飛ばした問題を解く（90分） 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。					
成績評価方法	毎回の課題 30% 定期試験（資料持ち込み不可）70%					
授業内の課題・提出方法	毎回、授業の終わりに課題を出します。 課題はMoodleに提出してください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は、次回の授業で行います。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員	複数の大学で、公務員講座の担当経験あり。					
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。					

授業科目名	公務のための数的推理		科目コード	181902	授業コード	423804
担当教員	高田 晴美		科目ナンバリング	GEC1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	皆さんが苦手としがちな科目であり、しかし、出題数も多く、公務員1次試験を突破するには絶対に得点源にしなければならない重要科目が「数的推理」です。数学というと難しく感じるかもしれませんが、数的推理に必要な数学の知識は、ほとんどが中学レベルです。努力すれば手ごたえを得やすい科目でもありますから、粘り強くコツコツと学習を積み重ねていくことが重要です。この講義では、数的推理のほとんどのテーマについて、基本から中級レベルまで、解法のインプットから始めて問題を実際に解くというアウトプットまで行います。					
到達目標	1 数的推理の出題パターンとその解法を知る。 2 今後、自力で学習を進めていくためのベースとなる学力を身に付ける。					
授業計画	第1講 ガイダンス、整数の性質 第2講 剰余系の問題、n進法 第3講 比と割合 第4講 方程式と不等式① 第5講 方程式と不等式② 第6講 濃度 第7講 仕事算、ニュートン算 第8講 年齢算、平均算など 第9講 集合 第10講 速さ① 第11講 速さ② 第12講 速さ③ 第13講 場合の数 第14講 確率 第15講 数列 定期試験 順番は入れ替わる可能性があります。					
テキスト・教材（参考文献）	畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベストNEO 数的推理／資料解釈』エクシア出版（2021年）1, 650円					
事前・事後学習	講義までに、前の週でやった単元について、以下のことをしておくこと。 ・講義で扱った問題の解きなおし（90分） ・講義では飛ばした問題を解く（90分） 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。					
成績評価方法	毎回の課題 30% 定期試験（資料持ち込み不可）70%					
授業内の課題・提出方法	毎回の授業で、課題を出します。 課題はMoodleに提出してください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は、次回の授業、またはMoodleで行います。 その他、質問があれば、対面、メール、Moodleなどで受け付けます。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員	複数の大学で、公務員講座担当の経験あり。					
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。					

授業科目名	公務のための政治学		科目コード	181903	授業コード	422601
担当教員	小林 慶太郎		科目ナンバリング	GEC1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 地域の持続的発展のために貢献できる力					
授業のねらい	わたしたちが、役所の人（公務員）に何かをして貰おうとする時、それはどのような仕組みに基づいて、どのように進められるのでしょうか。そしてその背景には、どのような国の仕組みや権力構造、プロセス、歴史があるのでしょうか。 この授業ではこうした、地域で公務につく際に必要となってくる政治的な知識について、学生諸君が、過去の公務員採用試験などの問題を解きながら身につけていくことを、ねらいとしています。将来、公務員になろうと考えている学生にとっては、特に役に立つ演習になるはずですから、必ず受講するよう強くお勧めします					
到達目標	市役所・警察・消防等の公務員採用試験の政治的分野の問題を、確実に解ける程度の知識を身につけることが、この授業の到達目標です。					
授業計画	第1講 ガイダンス：この授業の進め方 第2講 三権分立と法の支配 第3講 議院内閣制 第4講 国会 第5講 内閣 第6講 官僚制と行政 第7講 裁判所 第8講 地方自治 第9講 直接請求権 第10講 選挙 第11講 政党政治 第12講 政治理論 第13講 各国の政治制度 第14講 国際政治 第15講 時事問題 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	資格試験研究会編「大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学〔改訂第3版〕」実務教育出版（2022年）1, 500円＋税 ※ このテキストは、公務のための法学・政治学・経済学の3科目共通です。このほかにプリントも配布することがあります。					
事前・事後学習	必ず予習・復習（各90分）をしてください。なお、講義内容の理解のためにも、出来るだけ、この講義の履修に先立って全学共通教育科目の「政治学」を履修するようにしてください。また、日頃から、テレビや新聞の政治ニュースに目を通すことを心掛けてください。					
成績評価方法	無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示する小テストの提出状況：30% ・定期試験（持込不可）：70%					
授業内の課題・提出方法	原則として毎回、小テストを実施し、授業中に回収します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小テストは採点し、次回の授業時に返却・解説を行います。					
アクティブラーニング	原則として毎回、小テスト（問題演習）を行います。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。					

授業科目名	公務のための経済学		科目コード	181904	授業コード	422403
担当教員	鬼頭 浩文		科目ナンバリング	GEC1004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	この講義では、公務員や金融機関、大学院などをを目指す学生に対して、経済学の知識をわかりやすく伝授する。具体的には、職業人として必要な経済を見る力を身につけることと、企業の就職試験や公務員の教養試験における経済学分野の問題を解くための勉強を行う。できる限り、受験テクニックだけでなく、実際の社会の仕組みについても学ぶ。					
到達目標	経済学の基本的知識を理論的に理解し、試験問題の解答を導き出す能力を身につけることが到達目標である。					
授業計画	教学課の課題提出ポスト横のテーブルに、全ての回のレジュメを置きますので、1回目の授業の前に入手してください。講義はオンデマンド型授業になります。OD授業を一時停止や複数再生しながら内容を理解し、レジュメにノートテイクしてください。なお、課題はテキストの指定した範囲の説明部分を自分なりにノートにまとめ、問題は解くだけでなく解答をみて重要なポイントをノートにまとめてください。課題は、それぞれB5ノートで5ページ以上になるよう、しっかりとまとめてください。 1. ガイダンス（基礎数学復習と一次関数の演習問題） 2. 無差別曲線と消費者の行動① 3. 無差別曲線と消費者の行動②＜課題①＞ 4. 企業の行動① 5. 企業の行動②＜課題②＞ 6. 需要の価格弾力性① 7. 需要の価格弾力性②＜課題③＞ 8. 市場メカニズムと安定性＜課題④＞ 9. 比較優位の理論① 10. 比較優位の理論②＜課題⑤＞ 11. 財政政策・金融政策① 12. 財政政策・金融政策②＜課題⑥＞ 13. 公共財の供給 14. 外部効果(外部経済・不経済)＜課題⑦＞ 15. その他の経済学の問題演習					
テキスト・教材（参考文献）	資格試験研究会編「大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学〔改訂第3版〕」実務教育出版（2022年）1, 500円＋税 ※ このテキストは、公務のための法学・政治学・経済学の3科目共通です。このほかにプリントも配布することがあります。					
事前・事後学習	指示した練習問題にトライして、理解できない問題は次回の講義で質問できるように準備をしておくこと。7回の課題には、各3～5時間ほどを要するので、計画的に取り組むこと。この講義は、全学共通教育科目の「経済学概論」単位取得後の受講が好ましい。					
成績評価方法	授業を理解した上で課題(7回を予定)を提出すること。その上で、課題50%、期末試験50%の割合で総合的に評価する。					
授業内の課題・提出方法	独学で勉強するテキストの箇所を精読し、ノートにまとめを書き、練習問題を解くだけでなく解説の重要箇所もまとめ、写真にしてMoodleに提出する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対してMoodleを経由してフィードバックを行う。					
アクティブラーニング	毎回の授業において、レジュメへの書き込みを完成させ、授業終了後に自分の考えをまとめる課題を課す。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	公務員試験・社会科学系大学院では、経済学の知識は必須である。内容はとても難しいが、パワーポイントなどで分かりやすく解説する。オンデマンド型授業であるが、毎週のOD講義を決まった曜日・時間帯に視聴し、すぐにノートを提出、課題にも計画的に取り組むこと。					

授業科目名	公務のための法学		科目コード	181905	授業コード	423203
担当教員	中西 紀夫		科目ナンバリング	GEC1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	公務員試験対策の法学という形ではありますが、法理論や法制度の基礎的知識はもちろんのこと、憲法上の権利等も問題を解きながら認識を深めていきます。本講義では、大卒程度の警察官や消防官を対象としたテキストを使用しますが、必要に応じて市役所等の試験に出題される問題にも対応したいと思います。当然、たくさん問題を解いていきますが、答え合わせでも出来るだけ分かりやすい解説になるように工夫をしていきたいと思っています。					
到達目標	法学や憲法の基本的な内容を論理的に理解したうえで、公務員試験の問題に対応できる能力を身につけることです。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 法の特質、法の分類、法の支配、法の解釈 第3講 大日本国憲法と日本国憲法の特徴、国民主権、平和主義、憲法改正の手続き 第4講 人権の発達、基本的人権の原理 第5講 日本国憲法における基本的人権の種類 第6講 人権の享有主体性、平等権、自由権、社会権 第7講 参政権と請求権、新しい人権と国民の義務 第8講 要約（これまでの確認） 第9講 民法、刑法、その他の法律 第10講 主な社会学者とその業績、社会集団の分類、現代社会の諸特質 第11講 労働三権、労働三法、近年の労働事情と労働問題 第12講 社会保障、高齢社会、少子社会 第13講 地球環境問題 第14講 資源・エネルギー問題 第15講 要約（これまでの確認） 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	資格試験研究会編『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学（改訂第3版）』実務教育出版（2022年）1, 650円（税込）必要に応じて、プリントでも補足します。 ※ このテキストは、公務のための経済学・政治学・法学の3科目共通です。					
事前・事後学習	その日に扱う内容は出来るだけテキストを事前に読んでおくと、もう一度説明を聞くことで更に頭に入りやすいですし問題の正解率も上がりますので、是非、お願いしたいと思います。ニュース、新聞記事のチェックも忘れないようにしましょう。（毎回の予習90分と復習90分）					
成績評価方法	小テスト 30%：授業中に行う小テストは採点をして2週間以内に返却します。受講態度等も含みます。 定期試験 70%：択一式や用語を書く問題が中心で、テキストや資料等の持込は不可です。					
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。					
アクティブラーニング	学生さん自身が理解度を確認できるように、テキストの問題だけでなく別の本などの問題も解いてもらうようにしています。また、タイミングを見計らいながら、テキストの復習もしています。					
実務経験のある教員	かつて本学の公務員講座で法律科目を数年間担当しており、その経験をこの授業で生かすことができていると思います。					
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要になることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。					

授業科目名	公務のための人文科学		科目コード	181906	授業コード	422802
担当教員	浅井 雅		科目ナンバリング	GEC1006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	幅広い人文科学の知識を問題演習を通じて学ぶ。公務員試験を目指す者のみならず、様々な業種の就職試験における一般教養も学べる授業となる。					
到達目標	教養としての人文科学を十分に理解し、確実に身につける。					
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日本史（1） 第3回 日本史（2） 第4回 日本史（3）+世界史（1） 第5回 世界史（2） 第6回 世界史（3） 第7回 世界史（4） 第8回 地理（1） 第9回 地理（2） 第10回 地理（3）+国語（1） 第11回 国語（2） 第12回 思想（1） 第13回 文学・芸術（1） 第14回 文学・芸術（2） 第15回 まとめ 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 人文学 改訂第3版』実務教育出版、2022年、1500円＋税 その他、電子もしくは紙でプリントを配布する場合もある。					
事前・事後学習	事前に次の授業に向け、当該範囲を予習しておく。（60分） 事後には、授業の内容・範囲について理解を深める。（60分）					
成績評価方法	毎回の授業の最後に提出してもらう小レポート（コメントペーパー）＝30% 期末試験＝70% なお、2/3以上の出席がない場合は採点の対象外とする。（病欠・公欠等は、別途相談のこと。）					
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーに関しては、Googleフォームのリンク先を毎回掲示する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 担当者から一言授業中に受講にふさわしくない態度・行為（スマホ・イヤホンなどを含む）をとった者は退室させるので、あらかじめ了解しておくこと。					

授業科目名	社会調査入門		科目コード	182001	授業コード	423204
担当教員	三田 泰雅		科目ナンバリング	GECR1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	社会について調べてデータを集めることを社会調査といいます。社会調査で何がわかるのか、なぜ社会調査が必要なのか。授業ではこうしたことを考えます。調査の実例を紹介しながら、色々な社会調査の方法と、その長所や限界について学びます。社会調査の基本的知識を身につけ、社会調査の役割を理解することが狙いです。					
到達目標	社会調査の基本的知識を身につける					
授業計画	1 ガイダンス 2 社会調査の目的と意義 3 社会調査の歴史① 4 社会調査の歴史② 5 質的調査と量的調査 6 社会調査の種類と方法 7 サンプルの発展 8 公的統計の意義と活用（中間まとめ） 9 量的な社会調査の例① 10 量的な社会調査の例② 11 質的な社会調査の例① 12 質的な社会調査の例② 13 実験的方法の例 14 社会調査をめぐる環境 15 社会調査の倫理					
テキスト・教材（参考文献）	<参考文献> 玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社。					
事前・事後学習	新聞・ニュース等に目を通す（10分） 授業のノートを確認する（10分）					
成績評価方法	平常点30%、中間試験15%、期末試験55% ※平常点は授業への参加度と毎回の小レポートで評価する					
授業内の課題・提出方法	授業内で小レポートを作成する					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートのいくつかは翌週以降の授業で適宜コメントします					
アクティブラーニング	ディスカッション ジグソー法					
実務経験のある教員	自治体や大学の研究所で社会調査の実務に従事した教員が、経験をもとに講義します。					
担当者から一言	社会調査士資格カリキュラムのA科目です。					

授業科目名	社会調査の技法		科目コード	182002	授業コード	423603
担当教員	三田 泰雅		科目ナンバリング	GECR1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	この授業の目的は、社会調査の企画・設計から実施、分析・公表にいたる一連のプロセスを知り、注意すべき点を理解することです。特にサンプリング方法と調査票の作成は、グループワークなどを通して実践的に修得をはかります。					
到達目標	社会調査によるデータの収集・分析について、基礎的な知識を身につける。					
授業計画	1 ガイダンス 2 社会調査における問いと仮説 3 社会調査の種類と方法 4 社会調査の企画と設計 5 量的調査の方法 6 サンプリングの考え方 7 サンプリングの方法 8 調査票の作成 9 質問文の作り方 10 量的調査の実施（中間まとめ） 11 調査データの整理 12 量的データの分析 13 質的調査の方法 14 質的データの分析 15 調査の倫理					
テキスト・教材（参考文献）	<参考文献> 玉野和志『実践社会調査入門』世界思想社.					
事前・事後学習	新聞・ニュース等に目を通す（10分） 授業のノートを確認する（10分）					
成績評価方法	平常点30%、中間試験15%、期末試験55% ※平常点は授業への参加度と毎回の小レポートで評価する					
授業内の課題・提出方法	授業内で小レポートを作成する					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートのいくつかは翌週以降の授業で適宜コメントします					
アクティブラーニング	ディスカッション ジグソー法					
実務経験のある教員	自治体や大学の研究所で社会調査の実務に従事した教員が、経験をもとに講義します。					
担当者から一言	社会調査士資格カリキュラムのB科目です。					

授業科目名	統計学入門	科目コード	182003	授業コード	421804
担当教員	田中 伊知郎	科目ナンバリング	GECR1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢				
授業のねらい	公的統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識を学びます。単純集計、度数分布、代表値、散布度、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、また、それらの計算や作成のしかた。さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方を明らかにしていきます。社会調査士認定に関するC科目に相当します。				
到達目標	相関係数など基礎的統計概念、擬似相関の概念などを身に付けて、実際のデータに適用できるようにします。また、因果関係と相関関係が区別できるようにします。				
授業計画	第1講 ガイダンス：平均値が便利なこと(買い物で使っている)の確認 第2講 度数分布表の作成：いろいろな値段のある回転寿司屋さん 第3講 いろいろな代表値(中央値・最頻値・分散・標準偏差) 第4講 既存統計資料の読み方と使い方 第5講 量的データと伴って変わる量 第6講 比例と1次関数 第7講 1次関数のグラフの拡張：散布図 第8講 Excelを使つての散布図の作成 第9講 1次関数と相関係数 第10講 Excelを使つての相関係数の求め方 第11講 相関係数の性質 第12講 データの性質の拡張：質的データ 第13講 データの入力と照合(統計的資料を使つて) 第14講 クロス集計(質的データにおける関連性)の説明 第15講 相関関係・関連性と因果関係の違い：擬似相関と実験計画 定期試験 持ち込み不可				
テキスト・教材（参考文献）	なし				
事前・事後学習	授業当日の夕方、パソコン実習で保存したファイルまたはプリントアウトを見返してください(30分)。2・3日後に、プリントアウトを見直して(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、パソコン実習で保存したファイルを見返して、ノートに書き込み整理してください(60分)。				
成績評価方法	毎回の課題の達成度を採点し、点数として合計(60点満点)します。定期試験(40点)と合計して成績とします。				
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできない場合は、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。				
アクティブラーニング	第2講から第14講までパソコン(スマホなど)を用いた実習となります。				
実務経験のある教員	多変量解析の因子分析の論文を国際英文学術誌(査読あり)に発表して、イタリア人が追試しました。京都大学霊長類研究所の研究員の時、大学院生向けの統計の講義を担当しました。				
担当者から一言	パソコン教室の実習形式で行います。パソコン(スマホなど)を使うと、統計解析がスムーズに進むとわかってもらいます。ただし、数学の知識が必要となります。中学校までの数学が苦手な人にはお勧めしません。				

授業科目名	社会統計学	科目コード	182004	授業コード	422301
担当教員	田中 伊知郎	科目ナンバリング	GECR1004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢				
授業のねらい	統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、推測統計学の基礎的な知識を学びます。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定理論とその応用（平均や比率の差の検定、独立性の検定）、サンプリングの理論、属性相関係数（クロス表の統計量）、相関係数、偏相関係数、変数のコントロール、回帰分析の基礎などを明らかにしていきます。社会調査士認定に関するD科目に相当します。				
到達目標	量的データにおける相関係数の利用・質的データにおけるクロス集計の利用をパソコン実習で身に付けます。さらに、正規分布しているデータの平均値の検定などを使い、集団を分けるもの(要因)を見つける力を養います。				
授業計画	第1講 ガイダンス：平均値・中央値と度数分布の確認 第2講 サンプリング：標本と母集団の関係とヒストグラムの作成 第3講 正規分布：確率論の基礎、ゆらぎ(分散)の概念の獲得 第4講 正規分布かの検定(Kolmogorov-Smirnov検定) 第5講 平均値の差の検定：二つの正規分布か、同じ分布か：実習 第6講 分散分析(3要因への検定の拡張)と効果量 第7講 分散分析の実習 第8講 一次関数と相関係数：Excelを使つての求め方 第9講 相関係数の性質と回帰分析 第10講 データの性質の拡張・測定の尺度としての順位変数など 第11講 ノンパラメトリック検定(正規分布でない場合) 第12講 クロス集計(質的データにおける関連性)の説明と実践・ 第13講 クロス集計の実践：質的アンケートと円グラフ 第14講 クロス集計の検定(正確確率検定など) 第15講 クロス集計の検定：実習 定期試験 持ち込み不可				
テキスト・教材（参考文献）	なし				
事前・事後学習	授業当日の夕方、パソコン実習で保存したファイルまたはプリントアウトを見返してください(30分)。2・3日後に、プリントアウトを見直して(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、パソコン実習で保存したファイルを見返して、ノートに書き込み整理してください(60分)。				
成績評価方法	毎回の課題の達成度を採点し、点数として合計(60点満点)します。定期試験(40点)と合計して成績とします。				
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。				
アクティブラーニング	第2講から第15講までパソコン(スマホなど)を用いた実習となります。				
実務経験のある教員	多変量解析の因子分析の論文を国際英文学術誌(査読あり)に発表して、イタリア人が追試しました。京都大学霊長類研究所の研究員の時、大学院生向けの統計の講義を担当しました。				
担当者から一言	中学校の二次方程式、および、高校1年生の統計の知識を駆使します。数学に向かない方にはお勧めしません。				

授業科目名	フィールドワーク論		科目コード	182005	授業コード	423405
担当教員	倉田 英司		科目ナンバリング	GECR1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢 自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力					
授業のねらい	本授業は、フィールドワークにおける調査手法の選択と設計、分析結果の示し方に関する技法の習得を目的とする。講義ではデータ分析、聞き取り調査、参与観察に注目し、フィールドワークに関する報告書の内容や実際に行われた事例などを紹介することで、フィールドワークの概念を理解してもらう。また、調査目的に応じた質問項目の設計について、ディスカッションを通して学生間で考えてもらう。					
到達目標	調査に必要な独自の質問項目表を作成することができる。					
授業計画	1. ガイダンス 2. フィールドワークとは 3. フィールドワークによる調査事例 4. 目的に応じたフィールドワーク手法と対象地区 5. 地区内の現状把握手法（データ分析） 6. 地区内の課題把握手法（データ分析） 7. 地区内の現状把握手法（聞き取り調査） 8. 地区内の課題把握手法（聞き取り調査） 9. 地区内の現状把握手法（参与観察） 10. 地区内の課題把握手法（参与観察） 11. 地区内の現状・課題に関する分析結果の示し方 12. 調査結果の考察手法 13. 調査結果を踏まえた提言手法 14. 最終レポートのガイダンス 15. まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料を配布します。					
事前・事後学習	各章のレポート作成（180分）。					
成績評価方法	以下のような配分で評価する。 ①講義への参加度（発言等）：30% ②各回のレポート：30% ③最終レポート：40% なお、毎回提出してもらう課題については、次週回においてコメントする。					
授業内の課題・提出方法	毎回の講義後にレポートを提出してもらう。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートは次回講義時に、適宜コメントする。					
アクティブラーニング	ミニッツペーパー、ディスカッション、プレゼンテーション、フィールドワーク					
実務経験のある教員	行政での委員経験があります。 講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いし、フィールドワーク調査を行います。					
担当者から一言	知識提供だけでなく、地域を読み解く力を養成します。 フィールドワーク調査やインタビューに関する書籍なども活用しながら、自分らしい読み解き方を考えていきましょう。					

授業科目名	データ解析の技法		科目コード	182006	授業コード	425803
担当教員	古山 歩		科目ナンバリング	GECR1006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	現代社会には様々なデータが溢れている。様々なデータを統計的に解析することは非常に重要であり、適切なデータ解析を行えば、物事の傾向や変化に関して一定の根拠に基づいた統計的指標による科学的な判断を下すことが可能になる。本授業ではデータ解析の基本的な考え方や代表的な技法の本質を理解し、それらを活用するための基礎力を身につけることを目的とする。					
到達目標	(1) データ解析に必要な基礎力を身につける。 (2) 回帰分析をはじめとした主要な解析法について理解する。 (3) 回帰分析をはじめとした主要な解析法を実行し、結果を適切に評価できるようになる。					
授業計画	1. ガイダンス・社会におけるデータ解析の意義 2. エクセル基本操作 3. データの表し方：代表値の種類と特性 4. データの表し方：分散と標準偏差 5. データの表し方：グラフ・ヒストグラム、箱ひげ図、散布図 6. データの表し方：グラフ・折れ線グラフ、円グラフ、その他グラフ 7. 事象の発生確率・確率分布 8. 母集団と標本集団，データのサンプリング 9. 基本統計量の算出とグラフの作成 10. 統計的仮説検定の考え方 11. 統計的仮説検定の実行 12. 回帰分析1 回帰分析の考え方・単回帰の実行 13. 回帰分析2 回帰分析の精度評価 14. 重回帰分析 15. まとめ・実技演習 授業の進捗によって適宜変更する可能性がある。					
テキスト・教材（参考文献）	教科書：なし，適宜資料を配布する 参考書：倉田博史著「大学4年間の統計学が10時間でざっと学べる」KADOKAWA（2017年） 栗原伸一・丸山敦史著「統計学図鑑」オーム社（2018年）					
事前・事後学習	予習：次の授業のキーワードについて文献やインターネットで調べる（60分） 復習：授業中の実習課題の見直しと不備の修正を行う（30分）					
成績評価方法	授業中の課題（50％）、テスト課題（50％） 授業は毎回の出席を原則とします。1/3(5回)を超えて欠席した場合、評価の対象になりません。					
授業内の課題・提出方法	授業中に実習で用いたエクセルファイルをMoodleにて提出					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の冒頭、あるいはMoodle上でフィードバックします。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	データ解析は、社会のあらゆるところで行われています。本講義では様々なデータ解析手法についてパソコンのExcelを用いた実践を通して、解析スキルの習得を目指します。					

授業科目名	スポーツ指導論		科目コード	182101	授業コード	421205
担当教員	若山 裕晃		科目ナンバリング	GECS1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。スポーツ指導者としての心構え、スポーツ指導者に必要な医学的知識、対象者に合わせたスポーツ指導法等を学ぶ。					
到達目標	スポーツ指導の基礎的知識と指導法を身につける。					
授業計画	第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 スポーツ指導者とは 第3講 指導者の心構え・視点 第4講 競技者育成プログラムの理念 第5講 スポーツと健康 第6講 スポーツ活動中に多いケガや病気 第7講 救急処置 第8講 指導計画の立て方 第9講 スポーツ活動と安全管理 第10講 中高年者とスポーツ 第11講 女性とスポーツ 第12講 障害者とスポーツ 第13講 プレイヤーと指導者の望ましい関係 第14講 ミーティングの方法 第15講 総括					
テキスト・教材（参考文献）	参考文献：財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。					
事前・事後学習	予習として、配布資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、スポーツ指導に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（90分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（90分）。					
成績評価方法	レポートの内容（60%）及び定期試験（40%）で成績評価する。レポートは、1回4点満点で評価（4点×15回=60点）。					
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。 状況によって、オンライン授業となる場合がある。					

授業科目名	スポーツトレーニング論		科目コード	182102	授業コード	421102
担当教員	若山 裕晃		科目ナンバリング	GECS1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。体力トレーニングに関連する知識や発育発達期の特徴について学ぶ。					
到達目標	トレーニングについての基礎的知識とジュニアに対する指導法を身につける。					
授業計画	第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 体力とは 第3講 体力とは 第4講 トレーニングの進め方 第5講 トレーニングの進め方 第6講 トレーニングの種類 第7講 トレーニングの種類 第8講 発育発達期の身体的特徴、心理的特徴 第9講 発育発達期の身体的特徴、心理的特徴 第10講 発育発達期の身体的特徴、心理的特徴 第11講 発育発達期に多いケガや病気 第12講 発育発達期に多いケガや病気 第13講 発育発達期のプログラム 第14講 発育発達期のプログラム 第15講 総括					
テキスト・教材（参考文献）	参考文献：公益財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。					
事前・事後学習	予習として、配布資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、トレーニングに関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（90分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（90分）。					
成績評価方法	レポートの内容（60%）及び定期試験（40%）で成績評価する。レポートは、1回4点満点で評価（4点×15回=60点）。					
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。 状況によって、オンライン授業となる場合がある。					

授業科目名	アスリート育成論		科目コード	182103	授業コード	421805
担当教員	若山 裕晃		科目ナンバリング	GECS1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。競技スポーツ指導者としての心構えや競技スポーツ指導者に必要な諸知識について学ぶ。					
到達目標	アスリート育成のための高度な知識と指導法を身につける。					
授業計画	第1講 ガイダンス 授業の概要 第2講 競技者育成プログラムの理念に基づく展開 第3講 競技者育成と評価競技 第4講 競技者育成システムにおける指導計画 第5講 競技力向上のためにチームマネジメント 第6講 スポーツとIT 第7講 アスリートの健康管理 第8講 アスリートの内科的障害と対策 第9講 アスリートの外傷・傷害と対策 第10講 アスレティックリハビリテーションとトレーニング計画 第11講 コンディショニングの手法 第12講 スポーツによる精神障害と対策 第13講 特殊環境下での対応 第14講 アンチドーピング 第15講 総括					
テキスト・教材（参考文献）	参考文献：公益財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。					
事前・事後学習	予習として、配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、アスリート育成に関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（90分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（90分）。					
成績評価方法	レポートの内容（60%）及び定期試験（40%）で成績評価する。レポートは、1回4点満点で評価（4点×15回=60点）。					
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、受講の意思が認められない場合は欠席扱いとする。 状況によって、オンライン授業になることがある。					

授業科目名	スポーツ心理学		科目コード	182104	授業コード	423604
担当教員	若山 裕晃		科目ナンバリング	GECS1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。授業では、意欲・学習・発達・性格特性・集団・環境など多岐にわたる要因を広く取り上げ、スポーツと心理の関係についての理解を深める。					
到達目標	スポーツ場面における心理的諸問題について考察を加え、スポーツ活動及びコーチング行動にいかせる基礎的かつ実践的な知識を身につける。					
授業計画	第1講 ガイダンス・スポーツ心理学とは 第2講 スポーツと心 第3講 スポーツにおける動機づけ 第4講 技能の練習と指導 第5講 プレイヤーの個人指導と心理的問題 第6講 チームの指導と心理的問題 第7講 コーチングの評価 第8講 メンタルマネジメントとは 第9講 リラクゼーション 第10講 イメージトレーニング・集中カトレーニング 第11講 心理的コンディショニング 第12講 プレッシャー・あがり・スランプの克服 第13講 指導者のメンタルマネジメント 第14講 スポーツ環境における精神障害と対策 第15講 総括					
テキスト・教材（参考文献）	参考文献：公益財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」、Robert S. Weinberg, Daniel Gould「Foundations of sport and exercise psychology」Human Kinetics、若山裕晃・渡辺英児「野球メンタル強化メソッド」実業之日本社 授業では、講義内容に沿った資料を配付する。					
事前・事後学習	予習として、配付資料の次回以降の授業内容に目を通した上で、スポーツ心理学やメンタルトレーニングに関連した記事やニュースを探索し、熟読し、理解しておくこと（90分）。復習として、講義内容の資料を見直しておくこと（90分）。					
成績評価方法	レポートの内容（60%）及び定期試験（40%）で成績評価する。レポートは、1回4点満点で評価（4点×15回=60点）。					
授業内の課題・提出方法	レポートを毎回の授業終了時に提出することとする。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポート等の評価は個別に開示する。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	授業中の携帯電話・スマートフォンの使用、理由の無い途中退室等、授業を受ける意思が認められない場合は欠席扱いとする。 状況によって、オンライン授業になることがある。					

授業科目名	スポーツ生理学		科目コード	182105	授業コード	421206
担当教員	小泉 大亮		科目ナンバリング	GECS1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。ヒトが身体運動やスポーツを実施することによって、身体の諸機能がどのような応答、適応を示すのか、またそれらが環境条件の違いによってどのような影響を受けるのかを学習する。					
到達目標	スポーツや身体運動による身体の適応について理解し、実際のスポーツ実践やスポーツ指導の中で利用できることを目標とする。					
授業計画	第1講 ガイダンス 講義の進め方 第2講 生体の維持 第3講 筋の生理学（筋収縮のメカニズム） 第4講 筋刺激による筋の適応と加齢が筋に与える影響 第5講 呼吸器系の機能と構造・トレーニングによる呼吸器系の適応 第6講 循環器系の機能と構造 第7講 循環器系の運動時の反応とトレーニングによる適応 第8講 内分泌系（ホルモン） 第9講 中間テスト 第10講 神経系とその適応 第11講 身体運動と神経系 第12講 特殊環境下（高温・寒冷・水中・高所）での運動について 第13講 運動と免疫 第14講 老化による諸機能の変化とその特徴 第15講 まとめ 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	参考文献:財団法人日本スポーツ協会編「リファレンスブック」、Scott K. Powers, Edward T. Howley 「Exercise Physiology」 Human Kinetics 授業では、講義内容に沿った資料を配布する。					
事前・事後学習	シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(90分) 授業内容に関して適宜指示をするので、自分なりにまとめること(90分)					
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 講義時に指示するミニレポート:50% 中間試験・定期試験:50%					
授業内の課題・提出方法	授業で取り上げた内容に関するリアクションレポート等を授業内で配布したミニレポート用紙に記入し提出していただきます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニレポートは5段階評価を付け、その評価については個別に報告する 中間テストの得点についても個別に報告する					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。					

授業科目名	スポーツ応用科学		科目コード	182106	授業コード	423205
担当教員	小泉 大亮		科目ナンバリング	GECS1006		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。スポーツ科学に関する新しいエビデンスよりトレーニング指導に関する知識を習得する。					
到達目標	最新のトレーニング科学研究の成果に基づくトレーニング理論を理解し、スポーツ指導の現場に活かせることを目的とする。					
授業計画	第1講 ガイダンス 講義の進め方 第2講 身体運動学 ―運動のメカニズム― 第3講 複合運動の必要性 第4講 トレーニング指導 -健康づくりを目指した運動指導について 第5講 トレーニングの基礎知識と筋力トレーニング 第6講 スピードトレーニング・持久力トレーニング 第7講 神経系トレーニング・スキルの獲得過程について 第8講 中間テスト 第9講 トレーニング計画1「トレーニングの目標設定」 第10講 トレーニング計画2「トレーニングプログラムの設計」 第11講 トレーニング計画3「疲労および回復」・「トレーニング環境の整備」 第12講 健康に関連する体力 第13講 測定評価「テストの選択と実施の原則」 第14講 測定評価「身体組成の評価」 第15講 測定評価「筋力・筋パワー」「無酸素性能力・有酸素性能力」「測定結果の活用」 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	講義内容に沿ったプリントを配布					
事前・事後学習	シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(90分)。 授業内容に関して適宜指示をするので、自分なりにまとめること(90分)。					
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 講義時に指示するミニレポート:50% 中間試験・定期試験:50%					
授業内の課題・提出方法	授業で取り上げた内容に関するリアクションレポート等を授業内で配布したミニレポート用紙に記入し提出していただきます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義時に提出したミニレポートは5段階評価を付け、その評価については個別に報告 中間テストについても、その得点を個別に報告					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。					

授業科目名	スポーツメディカル論		科目コード	182107	授業コード	421501
担当教員	小泉 大亮		科目ナンバリング	GECS1007		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	この講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者講習会のカリキュラムに対応するものである。身体運動学や運動生理学などのスポーツ医学に関する基礎知識を学習し、スポーツで起こる外傷や障害などの予防や治療、応急手当についての方法を理解する。					
到達目標	身体運動の重要性を医学的な面から理解し、スポーツの指導現場で実践できる能力を身につける。					
授業計画	第1講 ガイダンス 講義の進め方 第2講 スポーツ医学の基礎知識1「スポーツが心臓血管系に及ぼす影響」 第3講 スポーツ医学の基礎知識2「呼吸器系の機能と構造・スポーツと呼吸器系」 第4講 スポーツ医学の基礎知識3「体液と体温調節」 第5講 スポーツ医学の基礎知識4「スポーツと内分泌系」 第6講 スポーツ医学の基礎知識5「身体運動学・機能解剖」 第7講 加齢とスポーツ医学 第8講 中間テスト 第9講 スポーツ活動にみられる内科的トラブル(急性) 第10講 スポーツ活動にみられる内科的トラブル(慢性) 第11講 スポーツ外傷とスポーツ障害 第12講 スポーツで生じる外科的外傷・障害(上肢) 第13講 スポーツで生じる外科的外傷・障害(下肢) 第14講 救急処置(救急蘇生法) 第15講 まとめ 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	講義内容に沿ったプリントを配布 【参考文献】 目崎登「スポーツ医学入門」 分光堂					
事前・事後学習	シラバスにある授業内容に関してあらかじめ調べておくこと(90分)。 授業内容に関して適宜指示をするので、自分なりにまとめること(90分)。					
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 講義時に指示するミニレポート:50% 中間試験・定期試験:50%					
授業内の課題・提出方法	授業で取り上げた内容に関するリアクションレポート等を授業内で配布したミニレポート用紙に記入し提出していただきます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニレポートは5段階評価を付け、その評価については個別に報告します 中間テストについても、得点を個別に報告します					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	遅刻や講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは禁止します。					

授業科目名	スポーツ栄養学		科目コード	182108	授業コード	423605
担当教員	櫻井 智美		科目ナンバリング	GECS1008		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	本講義は、日本スポーツ協会公認スポーツ指導者養成講習会のカリキュラムに対応するものである。スポーツ指導者に必要なスポーツ栄養学の基礎的知識を習得し、アスリートのパフォーマンス向上等をサポートできる栄養管理の理解を深める。					
到達目標	スポーツ栄養学の基礎知識を習得し、そのことについて説明できるようになる。					
授業計画	第1 講 ガイダンス 授業の概要 第2 講 アスリートにおける基本の食事 第3 講 エネルギー産生栄養素（糖質・脂質・たんぱく質） 第4 講 ビタミン・ミネラル 第5 講 熱中症の予防と水分補給 第6 講 アスリートの身体組成 第7 講 トレーニングとエネルギー消費量 第8 講 目的別の食事 第9 講 試合前後の食事 第10 講 トレーニング時の食事 第11 講 アスリートに多く見られる栄養障害・女性アスリートの三主徴 第12 講 サプリメントとエルゴジェニックエイド 第13 講 ジュニア・シニア・障がい者アスリートの栄養管理 第14 講 アスリートの栄養教育のすすめ方 第15 講 まとめ 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	<講義に使用する教材> スポーツ栄養学 鈴木志保子著 <参考文献> 公認スポーツ指導者養成テキスト 共通科目Ⅰ、Ⅲ（公益社団法人 日本スポーツ協会） 新版コンディショニングのスポーツ栄養学 樋口満編著（市村出版）					
事前・事後学習	予習として、次の講義に際する内容を調べる。予習のための課題を課す場合がある（90分） 復習として講義内容の資料等の見直し（90分）					
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 講義時に指示する簡単なレポート課題の提出状況および受講態度：50% 定期試験：50%					
授業内の課題・提出方法	授業終了後、回収する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題・提出物は、回収後次項の授業で返却。提出物等に記載されたコメントに対しては、以降の講義で応答する。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	遅刻や授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用などは、原則禁止します。これらの事が守れない者には、退室を命じ、欠席扱いと致します。					

授業科目名	全学共通特別講義 a			科目コード	182201	授業コード	426504
担当教員	倉田 英司			科目ナンバリング	GESCI001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	自らの役割や責任を自覚し自らの考えを的確に表現し伝える力 地域の持続的発展のために貢献できる力						
授業のねらい	食と観光に関して、三重県内でフィールドワークを交えた体験型実習を行う。観光客など地域への愛着を持つ者を増やすことで、地域で作られてきた食品や地域で育まれてきた食文化を継承し発展させていくことにつなげることができないかを考えていく。主体的に考え、グループワークにおいて所属や専門の異なる他者と議論し、生産者や観光客などに対してインタビューを行うなどといった一連のプロセスによって、地域イノベーションを实践する人材育成を目指す。						
到達目標	地域住民や観光客など自らとは異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮できる。						
授業計画	10月上旬 「ガイダンス」 13:00-14:00 現状把握と課題解決の考え方 14:10-15:10 ご当地グルメを活用した町おこし 15:20-17:00 グループワーク 10月中旬 「三重県の基礎情報を学ぶ」 13:00-15:30 展示見学・講義 15:40-17:00 グループワーク 10月下旬 「食を活かした観光開発」 10:00-12:00 施設見学・体験 12:00-13:00 昼食・移動 13:00-14:00 農を活かした観光開発 14:10-16:10 グループワーク 11月下旬 「食と観光を踏査する」 10:00-16:10 フィールドワーク 12月上旬 「食と観光を考える」 13:00-17:00 グループワーク 12月中旬 「食と観光を発表する」 13:00-16:00 成果発表会 16:00-17:00 講評・まとめ ※ 受け入れ先の都合などによっては、変更になる場合があります。						
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じて資料等を配布する場合があります）						
事前・事後学習	三重県内の食品生産や食文化の現状・課題や、観光業の現状・課題等について、事前に情報収集をし、考察を深めておく（36時間）。 成果発表に向けてグループの仲間と連絡を取り合いながら、時間外に準備を行う（9時間）。						
成績評価方法	①グループワーク等への取組姿勢 60% ②成果発表レポート 40% ※ 一部でも欠席した場合には、単位は与えられないので、日程管理に留意すること。 ※ グループワーク、フィールドワークにおいては、教員が適宜アドバイスする。グループワークなどで出された質疑にも教員が適宜回答する。						
授業内の課題・提出方法	成果発表の内容について、レポートを提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィールドワークで出た意見については、適宜コメントを行う。						
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、体験学習、グループワーク、ディベート、フィールドワーク						
実務経験のある教員	行政での委員経験があります。 講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いします。						
担当者から一言	三重県内の複数の高等教育機関との合同授業になります。グループワーク・プレゼンテーション等、学生諸君には相応の負担もかかりますし、現地学習などで費用もかかりますが、それに見合うだけの意義深い学習と経験ができるはずです。他校に友人関係を広げるチャンスにもなりますので、ぜひ積極的に参加してみてください。						

授業科目名	ボランティア活動 a		科目コード	182206	授業コード	426104
担当教員	松本 彩月		科目ナンバリング	GES1006		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力					
授業のねらい	社会貢献活動は、地域まちづくり活動、国際協力活動、災害支援活動、環境保全活動など様々である。これらの活動にボランティアとして参加することは、生きた活動を学べるまた自分自身で携われる貴重な機会であると共に、地域社会への貢献となるなど、大きな意義を持つ。四日市大学では、多くの学生の参加促進のため、一定の手続きを経て単位認定を行う。 ※ボランティア活動aの単位修得後、bを取得する。					
到達目標	1. 現場での体験を通じて、社会のさまざまな課題を理解する。 2. 主体的な行動力を身に付け、社会を良くするために考察する力をつける。 3. 地域の人々との交流により、より豊かな人間性を身につける					
授業計画	1 対象となる活動 ① ボランティアセンターで紹介するボランティア活動 ② 別に大学の審査により認められたボランティア活動 2 単位認定に必要な活動時間 実労働時間60時間以上（複数の活動や、年度を超えた活動でもよい。） 3 活動時期 授業や大学行事に支障がないと判断される時期 4 事前申請 参加予定の1か月前、既に参加した場合は終了後1か月後に「ボランティア活動内容書」（教学課に置いてある）を教学課に提出すること。 5 単位認定申請 実労働時間が60時間を予想されるか、超えた場合であって、単位認定を希望する場合は、教学課に下記の書類を提出すること。（卒業年次の1月末日まで） ① ボランティア活動 a 単位認定申請書 ② ボランティア活動団体発行の証明書 ③ 活動日誌・レポート（様式自由、1000字程度） 注）活動の経験を三重県内の地域でどう活かすかを言及すること。					
テキスト・教材（参考文献）	なし					
事前・事後学習	（事前）参加する活動や団体に関する情報を収集し、内容を理解しておくこと。（90分）。 （事後）学んだ内容を復習し、関連する情報にも目を通すこと（90分）。					
成績評価方法	「ボランティア活動団体の証明書」「活動日誌・レポート」の内容により単位認定する。評価は「認(認定)」となる（履修制限単位に含まれない）。					
授業内の課題・提出方法	参加した社会貢献活動について、活動日誌とレポートを提出してもらう					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題・提出物のフィードバック方法 提出した活動日誌やレポートについてコメント、希望により面談を行う。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	ボランティアセンターのボランティア情報を活用し、どのような社会貢献活動があるのかを探してみましょう。積極的に参加されることを期待しています。					

授業科目名	ボランティア活動 b		科目コード	182207	授業コード	426105
担当教員	松本 彩月		科目ナンバリング	GESC1007		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力					
授業のねらい	社会貢献活動は、地域まちづくり活動、国際協力活動、災害支援活動、環境保全活動など様々である。これらの活動にボランティアとして参加することは、生きた活動を学べるまた自分自身で携われる貴重な機会であると共に、地域社会への貢献となるなど、大きな意義を持つ。四日市大学では、多くの学生の参加促進のため、一定の手続きを経て単位認定を行う。 ※ボランティア活動aの単位修得後、bを取得する。					
到達目標	1. 現場での体験を通じて、社会のさまざまな課題を理解する。 2. 主体的な行動力を身に付け、社会を良くするために考察する力をつける。 3. 地域の人々との交流により、より豊かな人間性を身につける					
授業計画	1 対象となる活動 ① ボランティアセンターで紹介するボランティア活動 ② 別に大学の審査により認められたボランティア活動 2 単位認定に必要な活動時間 実労働時間60時間以上（複数の活動や、年度を超えた活動でもよい。） 3 活動時期 授業や大学行事に支障がないと判断される時期 4 事前申請 参加予定の1か月前、既に参加した場合は終了後1か月後に「ボランティア活動内容書」（教学課に置いてある）を教学課に提出すること。 5 単位認定申請 実労働時間が60時間を予想されるか、超えた場合であって、単位認定を希望する場合は、教学課に下記の書類を提出すること。（卒業年次の1月末日まで） ① ボランティア活動 a 単位認定申請書 ② ボランティア活動団体発行の証明書 ③ 活動日誌・レポート（様式自由、1000字程度） 注）活動の経験を三重県内の地域でどう活かすかを言及すること。					
テキスト・教材（参考文献）	なし					
事前・事後学習	（事前）参加する活動や団体に関する情報を収集し、内容を理解しておくこと。（90分）。 （事後）学んだ内容を復習し、関連する情報にも目を通すこと（90分）。					
成績評価方法	「ボランティア活動団体の証明書」「活動日誌・レポート」の内容により単位認定する。評価は「認(認定)」となる（履修制限単位に含まれない）。					
授業内の課題・提出方法	参加した社会貢献活動について、活動日誌とレポートを提出してもらう					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題・提出物のフィードバック方法 提出した活動日誌やレポートについてコメント、希望により面談を行う。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	ボランティアセンターのボランティア情報を活用し、どのような社会貢献活動があるのかを探してみましょう。積極的に参加されることを期待しています。					

授業科目名	国際協力研修		科目コード	182208	授業コード	426502
担当教員	岩崎 祐子		科目ナンバリング	GESG1008		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し異なる意見や立場の人間をも尊重して行動することのできる幅広い人間力					
授業のねらい	青年海外協力隊、NGO（非政府団体）、国際ボランティア等の海外における社会貢献活動など、国際協力について現地で体験的に学ぶ場を提供します。NPO論が主として地域を中心とする社会貢献活動を対象とするのに対し、この授業では海外における社会貢献活動が対象となります。 海外で実際に行われている社会貢献活動の体験を通じ、国際的な視野を広げることも目的としています。					
到達目標	1 国際的な社会貢献活動について理解を深めます。 2 国際感覚を身に付けます。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 事前研修 第3講 事前研修 第4講 海外現地研修 第5講 海外現地研修 第6講 海外現地研修 第7講 海外現地研修 第8講 海外現地研修 第9講 海外現地研修 第10講 海外現地研修 第11講 海外現地研修 第12講 海外現地研修 第13講 海外現地研修 第14講 海外現地研修 第15講 海外研修の振り返り ※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。 ※大学外の海外研修に参加する場合は、海外協力活動への参加の事前申請を行って下さい。					
テキスト・教材（参考文献）	（大学の海外研修に参加する場合）外務省（日本）ホームページ、タイ政府観光庁（日本語サイト）のホームページのタイ情報を参照してください。 （大学外の海外研修に参加する場合）外務省（日本）ホームページで、研修先の国の情報を調べてください。					
事前・事後学習	事前：参加する活動や団体、研修実施国に関する資料を収集し、よく内容を理解しておくこと。（90分） 事後：学んだ内容を理解し、関連する情報にも間を通すこと。（90分）					
成績評価方法	四日市大学の海外研修終了後に、活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出すること。海外研修中の参加意欲（50％）活動日誌・レポート（50％） 大学外の活動の場合は、終了後に活動した団体の証明書（様式自由）および活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出すること。活動日誌（50％）レポート（50％） ※評価（単位）は、次年度前学期につきます。					
授業内の課題・提出方法	海外研修終了後に、活動日誌（様式自由）・レポート（1200字以上）を提出					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	海外研修の振り返りの機会を設定します。					
アクティブラーニング	海外で、国際協力活動、フィールドワークに参加します。					
実務経験のある教員	金融機関勤務経験あり。国際経済を研究対象としています。					
担当者から一言	2025年2月にタイで1週間の研修を実施する予定です。四日市大学の研修参加希望者は説明会に必ず参加してください。研修終了後は、大学の広報活動に協力してください。 ※研修には研修参加費が必要です。 ※渡航先の状況により研修等を中止あるいは延期する場合があります。					

授業科目名	海外環境研修		科目コード	182209	授業コード	426503
担当教員	青木 陽子		科目ナンバリング	GESG1009		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	「環境」に関する講義内容で、日本国内外の教育機関において実施される授業です。環境への幅広い知見を学ぶと共に、海外の実習では異文化体験を通して国際レベルで環境問題を考える力を身に付けることを目的としています。					
到達目標	研修活動を通して、環境への幅広い知識を得ること。					
授業計画	教育機関において実施される授業の受講について 時間数：15コマ（30時間）以上の講義等の受講 研修期間：長期休業期間中 事前申請：受講1ヶ月前までに受講内容等を教学課へ提出のうえ確認をうけること 提出書類：以下の①～③を明記すること ①受講する教育機関名および所在地 ②受講内容（詳細資料添付） ③受講期間					
テキスト・教材（参考文献）	履修要綱の「履修制限対象外科目」の頁参照					
事前・事後学習	事前学習：研修実施国、研修実施機関に関する情報を収集し、内容を理解する。 事後学習：研修で学んだ内容を理解し、レポートを作成する。					
成績評価方法	受講修了書等・レポートにより評価する。					
授業内の課題・提出方法	海外環境研修終了後にレポートを提出					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	研修活動の振り返りの機会を設定					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	大学として研修を企画する場合はガイダンスや掲示によって周知します。					

授業科目名	環境情報学概論 I		科目コード	381001	授業コード	423301
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	EIFC2001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている					
授業のねらい	環境情報学部での学びへの導入を行い、全貌を概観する。 環境科学専攻とメディア情報専攻の多様な授業を交互に配置し、実習・体験を交えて両専攻の学問の特徴を伝えるとともに、自身が学修する専攻の選択に導く。選択した専攻ごとに後学期に実施する環境情報学概論Ⅱに繋がる内容とする。多数の教員がオムニバス形式で授業を担当するので、1年次配当科目を担当していない教員を知る機会にもなる。また、進路選択や学修機会に関わる情報を提供する場としても活用する。					
到達目標	環境情報学部、特に環境科学専攻とメディア情報専攻の両専攻の学問・実践の特徴を知るとともに、今後4年間の学生生活で学ぶ場となる専攻を選択する。					
授業計画	第1講 ガイダンス／学部概要／教員紹介（全専任教員） 第2講 里山と竹林保全（牧田、外部講師） 第3講 竹山保全実習（牧田、外部講師） 第4講 アプリ開発／北勢地域の野生動物（片山、野呂） 第5講 スタジオツアー（足立、黒田、前川、柳澤、柳瀬） 第6講 地域農業と環境／光と表現（廣住、黒田） 第7講 上級生の活動報告・スペシャリスト育成プログラム紹介（演習担当教員） 第8講 海洋のプラスチック問題／メディアと情報の融合（大八木、柳澤） 第9講 映像の世界／プランクトンの世界（柳瀬、牧田） 第10講 海生哺乳類／AI深層学習（古山、片山） 第11講 録音シミュレーション／外来生物問題（足立、野呂） 第12講 水環境／専攻選択（大八木、前川） 第13講 講話①／講話②（池田、田中） 第14講 講話③／講話④（千葉、青木） 第15講 講話⑤／講話⑥（樋口、鬼頭） （内容・順序を変更することがあります）					
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません。 必要に応じて資料を配布します。					
事前・事後学習	環境情報学部の概要を知り、大学での専門教育の出発点となる講義・実習です。 興味を持った点について積極的に教員を訪ね、自分で探索するなどしてさらに理解を深めてください（180分）。					
成績評価方法	定期試験を行いません。 各回の講義・実習ごとに、取り組み態度と成果で評価し、合算します。					
授業内の課題・提出方法	授業ごとに小レポートなどを課し、原則的に教室で提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	疑問に思ったことは積極的に発言・質問して下さい。					
アクティブラーニング	実習・体験を交えて実践的に学ぶ機会に富む科目です。					
実務経験のある教員	担当教員の1/3は関連領域の実務経験を持ちます。					
担当者から一言	幅広い領域にわたりますが、全て欠席することなく積極的に参加してください。 毎回担当する教員が入れ替わりますが、とりまとめは前川（6号館6418）です。					

授業科目名	環境情報学概論Ⅱ		科目コード	381002	授業コード	423701
担当教員	田中 伊知郎		科目ナンバリング	EIFC2002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる					
授業のねらい	基礎演習への導入として、自然環境分野についての知見を深める。					
到達目標	自然科学の研究内容の基礎を知り、各研究室の研究手法について理解する。					
授業計画	第1講 ガイダンス：詳しいスケジュールの説明（田中）以下()内が担当教員 第2講 自然科学の研究手法(IMRD)と再現性（田中） 第3講 自然科学の発表方法(統計検定)と客観性（田中） 第4講 統計検定の実習（田中） 第5講 地域資源を農業に活かす取り組み1（廣住） 第6講 地域資源を農業に活かす取り組み2（廣住） 第7講 伊勢湾とマイクロプラスチック（大八木） 第8講 四日市周辺の陸水環境（大八木） 第9講 地域の生物多様性モニタリング（野呂） 第10講 北勢地域の野生動物（野呂） 第11講 三重県周辺海域の鯨類（古山） 第12講 大学周辺の里山環境（千葉） 第13講 湖沼と水田のプランクトン1（牧田） 第14講 湖沼と水田のプランクトン2（牧田） 第15講 まとめと基礎演習の進め方（田中） 第5講から第14講まで担当教員と内容を、ガイダンスで案内します。					
テキスト・教材（参考文献）	なし					
事前・事後学習	講義でとったノートの見返しと、与えられた課題に取り組むこと（180分）。					
成績評価方法	授業のノートを取り、また与えられた課題に取り組み、提出する（90%）。これを各回の担当教員が採点し（6点／回）、フィードバックを行う。授業への取り組み姿勢などを考慮して採点（10%）する。					
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐに提出できない場合は、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらう。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出する。					
アクティブラーニング	統計実習は野外観察の結果をパソコンでレポートにまとめ、野外実習も行います。					
実務経験のある教員	オムニバス講義なので、割愛します。					
担当者から一言	自然環境分野の教員や学生たちが行った具体的な環境情報学を学ぶことができる授業です。必ず参加してください。					

授業科目名	環境情報学概論Ⅱ		科目コード	381002	授業コード	423702
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	EIFC2002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる					
授業のねらい	配属されたメディア情報専攻での学生生活を確立していくための導入を行います。 専攻の教員全員が分担して講義・実習を行って、専攻の概要を伝え、体験してもらいます。また、2年次以降の学修の核となる演習科目（2年次の基礎演習では〈メディア表現領域〉と〈情報技術領域〉に分かれて授業を行います）への導入を行います。					
到達目標	メディア情報専攻の概要を把握します。また、2年次の基礎演習で〈メディア表現領域〉と〈情報技術領域〉のいずれを受講するかを選択します。					
授業計画	第1講 ガイダンス／メディア情報専攻概要／教員紹介（専攻教員全員） 第2講 WebコンピューティングからAIに至る情報技術（片山） 以下第3講～第6講、第7講～第10講は、2グループに分かれて並行・交代して実施する。 第3講 パソコン分解組立て実習①（池田、片山、柳澤） 第4講 パソコン分解組立て実習②（池田、片山、柳澤） 第5講 パソコン分解組立て実習③（池田、片山、柳澤） 第6講 パソコン分解組立て実習④（池田、片山、柳澤） 第7講 映像について（柳瀬） 第8講 音・音響について（足立） 第9講 光・照明について（黒田） 第10講 メディア表現・情報技術の境界領域（前川） 第11講 メディア情報の背景となる文化（樋口、青木） 第12講 基礎演習・専門演習・卒業研究について（片山、足立） 第13講 基礎演習・専門演習・卒業研究について（黒田、柳澤） 第14講 基礎演習・専門演習・卒業研究について／メディア表現領域・情報技術領域の選択（柳瀬／演習担当教員） 第15講 4年生の卒業研究・卒業制作発表会見学（内容・順序を変更することがあります）					
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません。 必要に応じて資料を配布します。					
事前・事後学習	メディア情報専攻の専門的な学修の出発点となる講義・実習です。 興味を持った点について積極的に教員を訪ね、自分で探索するなどしてさらに理解を深めてください（180分）。					
成績評価方法	定期試験を行いません。 各回の講義・実習ごとに、取り組み態度と成果で評価し、合算します。					
授業内の課題・提出方法	授業ごとに小レポートや実習課題を課し、原則的に教室で提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	疑問に思ったことは積極的に発言・質問して下さい。					
アクティブラーニング	実習・体験を交えて実践的に学ぶ機会に富む科目です。					
実務経験のある教員	教員の多くは、関連領域で実務経験を持ちます。					
担当者から一言	幅広い領域にわたりますが、全て欠席することなく積極的に参加してください。 毎回担当する教員が入れ替わりますが、とりまとめ教員は、前川（6号館6418）です。					

授業科目名	入門演習 a		科目コード	381003	授業コード	422105
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	EIFC2003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている					
授業のねらい	大学に慣れて、大学生生活を順調に送ることができるよう担当教員がサポートします。学生生活を進める上で必要な、以下のスチューデントスキル（四日市大学生として最低限身に付けておいてもらいたい基礎的な知識・技能など）を学びます。 1. 授業を受ける上で必要なスキル 2. 人間関係の基礎を作るスキル 3. 大学での学修を助けてくれる施設を知ること 4. 自分が所属する学部のことを知ること					
到達目標	四日市大学環境情報学部の学生としての自覚を得ること。 大学生として必要なスチューデントスキルを知り、実践してみること。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 シラバスを読み、自分の履修登録を点検する 第3講 スケジュール管理を身に付ける 第4講 授業の受け方、ノートの取り方① 第5講 授業の受け方、ノートの取り方② 第6講 （クラス独自課題）第7講 図書館（情報センター）の使い方 第8講 リーディング基本① 第9講 リーディング基本② 第10講 リーディング応用① 第11講 リーディング応用② 第12講 レポート作成基本① 第13講 レポート作成基本②／研究倫理 第14講 プレゼンテーション基本① 第15講 プレゼンテーション基本② （クラス担当教員の判断で、必要に応じて講義の順番・内容を変更します）					
テキスト・教材（参考文献）	「知へのステップ 第5版」（くろしお出版）（2019） 必要に応じて資料を配布します。 ノートを必ず用意してください。					
事前・事後学習	新聞の第一面を読む。（1日20分） 授業内容の資料を事前に読んでくる。（10分） ノートと使用したプリントなどを読む。（30分） 宿題となった課題を解く。（60分）					
成績評価方法	定期試験を行いません。 授業・課題への取り組みなどを100%で評価します。積極的な受講態度を心掛けて下さい。					
授業内の課題・提出方法	授業中に課題を与え、教室で提出してもらいます。 また、翌週までの宿題を出すこともあります。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の個別指導を行います。					
アクティブラーニング	調査・発表・議論などの演習を行います。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	大学で学んでいくための根幹となる必修科目です。積極的な授業参加を望みます。また、各種の連絡事項の伝達なども行ないます。毎回必ず出席してください。					

授業科目名	入門演習 b		科目コード	381004	授業コード	422505
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	EIFC2004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている					
授業のねらい	前期「入門演習 a」に引き続き、大学で学んでいくために必要な、以下のスタディースキル（四日市大学生として最低限身に付けておいてもらいたい学修技法など）を学びます。 1. 目標・目的を決め、情報を収集し、調べるスキル 2. 情報を整理し、資料を読みこなすスキル 3. 調べ、整理した情報をレポートにまとめるスキル 4. 資料を発表し、議論するスキル					
到達目標	大学生としての学修・研究活動へと進むために必要となる基本的なスタディースキルを獲得し、学修スタイルを確立すること。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 テーマを決める 第3講 調べる① 第4講 調べる② 第5講 読む① 第6講 読む② 第7講 まとめる① 第8講 まとめる② 第9講 まとめる③ 第10講 発表する① 第11講 発表する② 第12講 話し合う① 第13講 話し合う② 第14講 話し合う③ 第15講 まとめ／基礎演習について （クラス担当教員の判断で、必要に応じて、講義の順番・内容を変更します）					
テキスト・教材（参考文献）	「知へのステップ 第5版」（くろしお出版）（2019） 必要に応じて資料を配布します。 ノートを必ず用意してください。					
事前・事後学習	新聞の第一面を読む。（1日20分） 授業内容の資料を事前に読んでくる。（10分） 宿題となった課題を解く。（90分）					
成績評価方法	定期試験を行いません。 授業・課題への取り組みなどを100%で評価します。積極的な受講態度を心掛けて下さい。					
授業内の課題・提出方法	授業中に課題を与え、教室で提出してもらいます。 また、翌週までの宿題を出すこともあります。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の個別指導を行います。					
アクティブラーニング	調査・発表・議論などの演習を行います。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	「入門演習 a」に引き続き、大学で学んでいくための根幹となる必修科目です。積極的な授業参加を望みます。また、各種の連絡事項の伝達なども行います。毎回必ず出席してください。					

授業科目名	基礎演習 a	科目コード	381101	授業コード	423206
担当教員	片山 清和	科目ナンバリング	EISS3001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる				
授業のねらい	ホームページは今や企業だけでなく一般の人も作成しており、情報発信の主要な手段となっています。ホームページはHTMLで構造を記述され、スタイルシートでレイアウトやデザインが記述されています。さらにインタラクティブ性を持たせるためにJavaScriptが使用されています。 この演習では、電卓アプリやカレンダーアプリ制作を通し、機能実現のためのアルゴリズムを考え、HTML、スタイルシート、JavaScriptを用いてプログラミングすることでその機能を実現できるようにします。				
到達目標	①アルゴリズムを考えることができる ②HTMLタグ、スタイルシート、JavaScriptを使って機能を実現できる				
授業計画	第1講 ガイダンス、HTML（1） 第2講 HTML（2） 第3講 HTML（3） 第4講 スタイルシート（1） 第5講 スタイルシート（2） 第6講 スタイルシート（3） 第7講 JavaScript（1） 第8講 JavaScript（2） 第9講 JavaScript（3） 第10講 電卓アプリ制作（1） 第11講 電卓アプリ制作（2） 第12講 電卓アプリ制作（3） 第13講 カレンダーアプリ制作（1） 第14講 カレンダーアプリ制作（2） 第15講 カレンダーアプリ制作（3）				
テキスト・教材（参考文献）	<テキスト> なし（必要に応じて配布します） <参考文献> 赤 間公太郎、狩野咲、鈴木清敬 「世界一わかりやすい HTML5 & CSS3 コーディングとサイト制作の教科書〔改訂2版〕」 技術評論社 ￥2,948（税込）				
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習すること（60分） 講義後には、学習した内容を十分に復習すること（120分）				
成績評価方法	授業への取り組み姿勢や提出などによって総合的に評価する。				
授業内の課題・提出方法	<課題> 完成した作成したソースプログラムをMoodleに提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> その場でソースコードを見ながら、誤りを修正してもらいます。				
アクティブラーニング	課題、実習、プレゼンテーション				
実務経験のある教員					
担当者から一言	アルゴリズムを考えることは、プログラミングでは最重要事項で、卒業研究においてアプリ作成やAI研究のために必要です。多くの経験を通してしか身につかないため、根気が要る地味な作業ですが、興味深いアプリ制作で楽しめる演習になるように目指します。				

授業科目名	基礎演習 a		科目コード	381101	授業コード	423207
担当教員	黒田 淳哉		科目ナンバリング	EISS3001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている					
授業のねらい	環境情報学部の「メディア表現領域」には、映像・音響・照明の研究室に加えて「情報技術領域」との境界となるデジタルコンテンツ研究室が存在します。1年次に「メディア表現領域」を選択した学生が各研究室の担当教員からオムニバス形式でそれぞれの基礎を学びます。					
到達目標	・映像・音響・照明・デジタルコンテンツ制作に関する基礎知識を身につける。 ・仲間と建設的なコミュニケーションをとりながら制作に向き合うことができる。					
授業計画	第1講 ガイダンス～映像1「映像作品ができるまで」 第2講 映像2「作品鑑賞」 第3講 映像3「業界用語の基礎知識」 第4講 映像4「企画を立てよう」 第5講 ガイダンス～音響1「出力系システムのセッティング・調整」 第6講 音響2「入力系のセッティング・チェック方法」 第7講 音響3「楽器の知識とマイキング」 第8講 音響4「マルチトラックデータのミックスダウン」 第9講 ガイダンス～照明1「演出と光」 第10講 照明2「スタジオ照明設備～安全講習」 第11講 照明3「機材の取り扱い方」 第12講 照明4「照明ネットワーク構築について」 第13講 デジタルコンテンツ1「メディアとコンピュータの関係性」 第14講 デジタルコンテンツ2「3Dモデリング①」 第15講 デジタルコンテンツ3「3Dモデリング②」					
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）					
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提示します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）					
成績評価方法	ルーブリックによって評価を行います。評価基準は、第1講のガイダンスにて配布します。なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、無断欠席者には減点等のペナルティーを課すことがあります。					
授業内の課題・提出方法	毎回の講義でミニッツペーパーを提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題等のフィードバックは翌週の講義で適宜コメントします。					
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、実習、グループワーク					
実務経験のある教員	メディア業界で経験を積んだ教員によるオムニバス講義です。それぞれの研究領域に関する知識や技術の基礎を指導します。					
担当者から一言	スタジオでの実習は、怪我を防ぐために、室内用のシューズと作業用の手袋を用意してください。詳細については、第1回目のガイダンスで説明します。					

授業科目名	基礎演習 a		科目コード	381101	授業コード	423209
担当教員	廣住 豊一		科目ナンバリング	EISS3001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる 専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる					
授業のねらい	基礎演習では、専門演習で行う実践的な調査研究に向けて必要な「基礎スキル」を身に付けることがねらいである。この授業は3クラスに分かれ、3人の担当教員の授業を順に受講する。つまり、全員が同一の内容を少人数で学習できる。次の5項目は、基礎演習aとbを通して学ぶものであり、扱うテーマや項目は担当教員によって異なる。①レポート作成、②プレゼンテーション（質疑応答を含む）、③文献・論文講読、④野外調査・実験実習、⑤データ処理（表、グラフの作成）。					
到達目標	記録をつけることを習慣化する。表・グラフ等のデータ整理の方法を身につける。調査地・実験方法などの作図ができる。科学論文・レポートの形式を学び、作成できる。					
授業計画	第1講 ガイダンス、野外での土壌調査（廣住） 第2講 調査方法のまとめ方（廣住） 第3講 調査データの整理（廣住） 第4講 調査結果に基づく考察の書き方（廣住） 第5講 調査報告書のまとめ方（廣住） 第6講 科学論文の構成（牧田） 第7講 科学論文の読み方（牧田） 第8講 科学論文の検索方法（牧田） 第9講 引用の仕方（研究倫理）（牧田） 第10講 参考文献のまとめ方（牧田） 第11講 生物多様性モニタリングとその意義（野呂） 第12講 身近な自然の生物調査（野呂） 第13講 種の同定と標本の作製（野呂） 第14講 生物リストの作成とその評価（野呂） 第15講 調査結果のまとめとレポート作成（野呂）					
テキスト・教材（参考文献）	各担当教員から自作のテキストや参考資料を配布する。参考となる文献があれば授業時間中に紹介する。					
事前・事後学習	授業での学習内容、調査や実験での実施内容をノートにまとめ、レポートなどを作成する（90分）。担当教員から指示された課題に取り組む（90分）。					
成績評価方法	3人の担当教員で1人33.3%を配分する。受講態度および実験ノート・レポート・プレゼンテーション等によって評価する。					
授業内の課題・提出方法	課題の提出にはMoodle等を活用する。課題およびその提出方法は担当教員ごとに指示する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	実験ノートやレポート、プレゼンテーションファイル等は適宜内容を確認し、添削や指導を行う。					
アクティブラーニング	フィールドワーク、実験・実習、グループワーク、レポート、プレゼンテーション					
実務経験のある教員						
担当者から一言	基礎演習では受講生を3クラスにわけて授業行います。クラスによって授業の開講順序が異なります。詳しくは第1講のガイダンスにおいて説明します。ガイダンスには必ず出席してください。					

授業科目名	基礎演習 b		科目コード	381102	授業コード	423607
担当教員	片山 清和		科目ナンバリング	EISS3002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる					
授業のねらい	ホームページは今や企業だけでなく一般の人でも作成しており、情報発信の主要な手段となっています。ホームページの中にはデータベースと連携することでウェブサービスを提供しているものがあります。 この講義では、データベースの操作と、PHPを用いてHTML文書を生成することと、PHPを用いてデータベースを操作することを学びます。					
到達目標	PHPとデータベースを連携したアプリを作成できる。					
授業計画	第1講 ガイダンス、復習（1） 第2講 復習（2） 第3講 PHP（1） 第4講 PHP（2） 第5講 PHP（3） 第6講 日記アプリ制作（1） 第7講 日記アプリ制作（2） 第8講 データベース（1） 第9講 データベース（2） 第10講 PHPでのデータベース操作（1） 第11講 PHPでのデータベース操作（2） 第12講 日記アプリ制作（3） 第13講 日記アプリ制作（4） 第14講 日記アプリ制作（5） 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	＜テキスト＞なし（必要に応じて配布します）					
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習すること（60分） 講義後には、学習した内容を十分に復習すること（120分）					
成績評価方法	＜評価＞ 授業への取り組み姿勢や課題提出などによって総合的に評価する。					
授業内の課題・提出方法	＜課題＞ 完成した作成したソースプログラムをMoodleに提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	＜フィードバック＞ その場でソースコードを見ながら、誤りを修正してもらいます。					
アクティブラーニング	課題、実習、プレゼンテーション					
実務経験のある教員						
担当者から一言	積み重ねの演習ですので、欠席はしないでください。					

授業科目名	基礎演習 b		科目コード	381102	授業コード	423608
担当教員	黒田 淳哉		科目ナンバリング	EISS3002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている					
授業のねらい	次年度（３年）の専門演習からは各研究室に分かれ、自らの力で研究や作品制作を進めていく必要があります。本講義では、各個人が次の段階に進むために必要な技術の応用方法や知識を磨きつつ、自分自身の探求心と向き合います。					
到達目標	「映像・音響・照明・デジタルコンテンツ」に関する作品制作や研究に必要となる知識や技術を身につける。					
授業計画	第１講 ガイダンス～音響１「出力系システムのセッティング・調整」 第２講 照明１「図面の読み方～機材セッティング１」 第３講 音響２「入力系のセッティング・チェック方法」 第４講 照明２「機材セッティング２」 第５講 音響３「楽器の知識とマイキング」 第６講 照明３「学祭の振り返り」 第７講 音響４「マルチトラックデータのミックスダウン」 第８講 照明４「研究と制作について」 第９講 映像１「撮影演習①」 第１０講 映像２「撮影演習②」 第１１講 映像３「編集演習①」 第１２講 映像４「編集演習②」 第１３講 デジタルコンテンツ１「実写と3DCG①」 ※研究室配属希望の面談あり 第１４講 デジタルコンテンツ２「実写と3DCG②」 第１５講 デジタルコンテンツ３「作品講評/まとめ・配属希望提出」					
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）					
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提示します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）。					
成績評価方法	ルーブリックによって評価を行います。評価基準は、第１講のガイダンスにて配布します。なお、４回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、無断欠席者には減点等のペナルティーを課すことがあります。					
授業内の課題・提出方法	毎回の講義でミニッツペーパーを提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題等のフィードバックは翌週の講義で適宜コメントします。					
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、実習、グループワーク					
実務経験のある教員	メディア業界で経験を積んだ教員によるオムニバス講義です。それぞれの研究領域に関する知識や技術を指導します。					
担当者から一言	スタジオでの実習は、怪我を防ぐために、室内用のシューズと作業用の手袋を用意してください。詳細については、第１回目のガイダンスで説明します。					

授業科目名	基礎演習 b		科目コード	381102	授業コード	423612
担当教員	廣住 豊一		科目ナンバリング	EISS3002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる 専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる					
授業のねらい	基礎演習では、専門演習で行う実践的な調査研究に向けて必要な「基礎スキル」を身に付けることがねらいである。この授業は3クラスに分かれ、3人の担当教員の授業を順に受講する。つまり、全員が同一の内容を少人数で学習できる。次の5項目は、基礎演習 a と b を通して学ぶものであり、扱うテーマや項目は担当教員によって異なる。①レポート作成、②プレゼンテーション（質疑応答を含む）、③文献・論文講読、④野外調査・実験実習、⑤データ処理（表、グラフの作成）。					
到達目標	記録をつけることを習慣化する。測定したデータの正しい取り扱いや計算の方法を学ぶ。表やグラフを用いた適切な結果のまとめ方を学ぶ。学術的なプレゼンテーションの方法を学び、習得する。					
授業計画	第1講 ガイダンス、実験室の使い方（廣住） 第2講 農作物の品質測定（廣住） 第3講 有効数字と実験データの計算（廣住） 第4講 表計算ソフトによる実験データの計算（廣住） 第5講 表やグラフによる実験データのまとめ方（廣住） 第6講 水質データ分析（大八木） 第7講 水質データのまとめ（大八木） 第8講 文献検索（大八木） 第9講 プレゼンテーション作成（大八木） 第10講 プレゼンテーション発表（大八木） 第11講 野生動物の調査手法と野外調査の心得（野呂） 第12講 センサーカメラの設置（野呂） 第13講 センサーカメラのデータ回収（野呂） 第14講 データの整理（野呂） 第15講 報告書の作成（野呂）					
テキスト・教材（参考文献）	各担当教員から自作のテキストや参考資料を配布する。参考となる文献があれば授業時間中に紹介する。					
事前・事後学習	授業での学習内容、調査や実験での実施内容をノートにまとめ、レポートなどを作成する（90分）。担当教員から指示された課題に取り組む（90分）。					
成績評価方法	3人の担当教員で1人33.3%を配分する。受講態度および実験ノート・レポート・プレゼンテーション等によって評価する。					
授業内の課題・提出方法	課題の提出にはMoodle等を活用する。課題およびその提出方法は担当教員ごとに指示する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	実験ノートやレポート、プレゼンテーションファイル等は適宜内容を確認し、添削や指導を行う。					
アクティブラーニング	フィールドワーク、実験・実習、グループワーク、レポート、プレゼンテーション					
実務経験のある教員						
担当者から一言	基礎演習では受講生を3クラスにわけて授業行います。クラスによって授業の開講順序が異なります。詳しくは第1講のガイダンスにおいて説明します。ガイダンスには必ず出席してください。					

授業科目名	メディアリテラシー		科目コード	381201	授業コード	421405
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	EIMC4001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる					
授業のねらい	メディアリテラシーとは社会に溢れる様々なメディアを読み解き、それぞれのメディアを介して伝えられる情報の背景や意味を評価できる能力を言う。そして、メディアを通じて適切にコミュニケーションをとることのできる能力でもある。 社会のなかでのメディアの有り様は、変革が続けている。今のメディア状況の概要を知るとともに、生まれ育った社会、世代、人生経験によって当たり前と思うことが互いに異なることに気づくこと、そして、メディアの向こうにある存在との付き合い方を考えることを手助けする授業となる。					
到達目標	現代社会に展開されている多様なメディアの特徴と危険性を知るとともに、自身が一個人として、社会人として責任あるメディア行動をとる見識を得る。					
授業計画	第1講 ガイダンス／メディアとは／メディアリテラシーとは 第2講 デジタルネイティブ 第3講 Society5.0／DX 第4講 国家・ネット企業が握る個人情報 第5講 メタバース 第6講 XR・VR・AR・MR 第7講 AIとの付き合い方 第8講 メディアエコロジー 第9講 スマホ依存 第10講 SNSでのふるまい 第11講 フェイクニュース 第12講 インターネットとマスメディア 第13講 メディアの身体性 第14講 コミュニケーションの実質 第15講 まとめ （内容・順序を変更することがあります）					
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません。 必要に応じて資料を配布します。					
事前・事後学習	次回の授業タイトルから内容を推測して、ネット検索などで予習を行って下さい（90分）。毎回の授業を受けて自分のメディア行動を振り返り、考えを深めて下さい（90分）。					
成績評価方法	定期試験を行いません。 受講態度、学習意欲、小レポートを総合して評価します。					
授業内の課題・提出方法	授業内に小レポートを課し、原則として教室で提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。					
アクティブラーニング	授業中に意見交換を行います。					
実務経験のある教員						
担当者から一言						

授業科目名	データサイエンス I	科目コード	381203	授業コード	423406
担当教員	古山 歩	科目ナンバリング	EIMC4002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている				
授業のねらい	研究においては、調査・実験によって得られたデータを解析し、適切にその結果を示すことが求められる。グラフによるデータの可視化や平均値などによるデータの要約は、データを示す方法として非常に一般的かつ有効である。しかし、グラフや代表値には様々な種類があり、収集したデータに不適切なものを使用してしまうと、データの傾向を明確に示すことが出来なかったり、間違った解釈をすることにつながる。本授業では、記述統計学に重点を置き、収集したデータを適切に表す方法を学ぶ。				
到達目標	(1) 基本統計量について、それぞれの値が持つ性質を理解する。 (2) グラフの作成や統計量の計算ができるようになる。 (3) データに合わせた適切なグラフの作成・基本統計量の計算を行い、データの傾向を正しく読み取ることができるようになる。				
授業計画	1. ガイダンス 2. Excelの基本操作 3. データの集計・値の性質 4. 様々な代表値とその性質 5. データのバラツキと分散、標準偏差 6. グラフ作図の基本操作 7. グラフによるデータの分布・構成の把握（ヒストグラム等） 8. グラフによるデータの比較、関係性・変化の図示（散布図、折れ線グラフ等） 9. 相関係数 10. 回帰分析① 11. 回帰分析② 12. 順列・組み合わせ 13. 確率・条件付き確率 14. 試行と事象、確率分布 15. 実技演習 授業の進捗によって適宜変更する可能性がある。				
テキスト・教材（参考文献）	教科書：なし、適宜資料を配布する 参考書：長谷川勝也著「イラスト図解 確率・統計のしくみがわかる本」技術評論社（2000年） 宮川公男著「基礎統計学 第4版」有斐閣（2015年）				
事前・事後学習	予習：次の授業のキーワードについて文献やインターネットで調べる（60分） 復習：授業中の実習課題の見直しと不備の修正を行う（30分）				
成績評価方法	授業中の課題（50%）、テスト課題（50%） 授業は毎回の出席を原則とします。1/3(5回)を超えて欠席した場合、評価の対象になりません。				
授業内の課題・提出方法	授業中に実習で用いたエクセルファイルをMoodleにて提出				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の冒頭、あるいはMoodle上でフィードバックします。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言	データの解析は卒業研究を行うにあたって必須のスキルです。普段の授業においても今後の研究を意識して、積極的に実習等に取り組んでください。				

授業科目名	データサイエンスⅡ	科目コード	381204	授業コード	425604
担当教員	古山 歩	科目ナンバリング	EIMC4003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている				
授業のねらい	研究の遂行には、目的に沿った適切なデータのサンプリング、得られたデータの整理と評価、そして、統計学的なデータの解析が必要となります。統計学的手法を適切に用いれば、データの持つ傾向や特性を検証し、得られたデータや結果に関して、統計学的根拠に基づいた判断を下すことができるようになります。この授業では、データのサンプリングから集計、統計的仮説検定等の実行までを実践的に学び、卒業研究に向けてのデータ解析スキルや統計学的な考え方の習得を目指します。				
到達目標	(1) 統計的仮説検定について理解し、実行することができるようになる。 (2) データの特性や目的に沿った解析手法の選択ができるようになる。 (3) 解析結果を適切に評価できるようになる。				
授業計画	1. ガイダンス 2. 母集団と標本、データのサンプリング 3. サンプリングの実践 4. データサイエンスⅠ復習：基本統計量の計算・グラフの図示 5. データサイエンスⅠ復習：確率分布 6. 推測統計学とは 7. 統計的仮説検定の流れと考えた方 8. 統計的仮説検定① 9. 統計的仮説検定② 10. 統計的仮説検定③ 11. 統計的仮説検定④ 12. クラスター分析 13. 主成分分析 14. まとめ 15. 実技演習 授業の進捗によって適宜変更する可能性がある。				
テキスト・教材（参考文献）	教科書：なし、適宜資料を配布する 参考書：長谷川勝也著「イラスト図解 確率・統計のしくみがわかる本」技術評論社（2000年） 宮川公男著「基礎統計学 第4版」有斐閣（2015年）				
事前・事後学習	予習：次の授業のキーワードについて文献やインターネットで調べる（60分） 復習：授業中の実習課題の見直しと不備の修正を行う（30分）				
成績評価方法	授業中の課題（50%）、テスト課題（50%） 授業は毎回の出席を原則とします。1/3(5回)を超えて欠席した場合、評価の対象になりません。				
授業内の課題・提出方法	授業中に実習で用いたエクセルファイルをMoodleにて提出				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の冒頭、あるいはMoodle上でフィードバックします。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言	前期のデータサイエンスⅠで取り扱う記述統計に関しては概ね理解しているものとして授業を実施します。多少の復習は行いますが、基本的には受講者はデータサイエンスⅠを履修していることが望ましいです。				

授業科目名	環境科学		科目コード	381301	授業コード	421502
担当教員	廣住 豊一		科目ナンバリング	EIER2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 専攻必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる 専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる					
授業のねらい	環境科学専攻で開講されるより専門的な各科目の内容に円滑に接続できるようにするため、環境問題やSDGsについて全般的な内容を幅広く学ぶ。					
到達目標	現在の環境問題に関する概略を知り、その解決策について考えることができる。					
授業計画	第1講 持続可能な社会に向けて 第2講 地球環境の基礎知識 第3講 いま地球で起きていること 第4講 地球温暖化と脱炭素社会 第5講 エネルギー問題 第6講 生物多様性・自然共生社会 第7講 地球規模の環境問題 第8講 循環型社会の構築 第9講 地域に関する環境問題 第10講 化学物質による環境問題 第11講 災害と放射性物質による環境問題 第12講 持続可能な社会に向けたアプローチ 第13講 環境活動とパブリックセンター 第14講 企業の環境への取り組み 第15講 個人やNPOによる活動と連携 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	東京商工会議所編著「改訂9版環境社会検定試験eco検定公式テキスト」日本能率協会マネジメントセンター（2023年）定価：2,600円+税 東京商工会議所編著「2024年版環境社会検定試験eco検定公式問題集」日本能率協会マネジメントセンター（2024年3月発売予定）定価：2,000円+税					
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、テキストの該当する箇所を予習する（90分）。演習で取り組んだ問題のうち自己採点で不正解だった問題について、その内容をテキストで復習する（90分）。					
成績評価方法	演習問題に対する取り組み状況(30%)、定期試験(70%)。					
授業内の課題・提出方法	各回の理解内容をはかるため、公式問題集に掲載されている関連の問題に取り組む。答案を自己採点し、授業終了時に提出する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業時間中に演習問題の答え合わせと解説を行う。					
アクティブラーニング	授業内で演習問題を実施する。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	eco検定（環境社会検定試験）は環境問題に関して基礎的・必須的な内容について一通り学習することができます。eco検定は就職活動でも活かすことができます。ぜひeco検定を受験して合格を目指してみてください。					

授業科目名	生態学	科目コード	381302	授業コード	422203
担当教員	大八木 麻希	科目ナンバリング	EIER2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	専攻必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる				
授業のねらい	人類誕生の遥か昔から途切れることなく続いてきた生物活動の営みを理解するとともに、人間とのかかわりで生物多様性や保全活動が重要視されている。そこで、環境分野を学ぶための基礎となる科学的視点を身に付けてもらいたい。				
到達目標	生物基礎と社会情勢の両面から生態系を考える多角的な視点を養う。				
授業計画	第1講 ガイダンス、生態学とは 第2講 生物圏と生態学 第3講 生物種の系統と進化 第4講 生物の生活資源と個体群 第5講 個体群の成長過程と密度効果 第6講 生物群集と生態系 第7講 種間競争と種の共存 第8講 生活史の進化と多様性 第9講 生態系における物質循環 第10講 バイオドーム森林の地理的植生 第11講 植生の遷移 第12講 生物多様性 第13講 人間活動とのかかわり 第14講 バイオマニピレーション 第15講 伊勢湾の生態系				
テキスト・教材（参考文献）	原登志彦「大学生のための生態学入門」共立出版、2017年、2640円				
事前・事後学習	授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。				
成績評価方法	小レポート30%、試験70% 小レポートは毎回添削後、本人へ返却します。				
授業内の課題・提出方法	授業終了時に対面で提出。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートは講義内で解説を行います。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言	積極的に取り組む姿勢の学生を歓迎します。				

授業科目名	環境保全学	科目コード	381303	授業コード	423806
担当教員	野呂 達哉	科目ナンバリング	EIER2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	専攻必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている				
授業のねらい	生物多様性の消失や気候変動が引き起こす問題とその背景を理解するとともに、問題解決のために現在行われている取り組みについて知識を深める。				
到達目標	環境問題の原因や背景とそれらについての多様な考え方や取り組みについて理解すると同時に、授業内でのディスカッションを通して、環境問題を身近な問題として捉える契機とする。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 生物にとっての環境とは 第3講 人による環境改変の歴史 第4講 生物の絶滅、その歴史と現在 第5講 生物多様性とは 第6講 生物多様性を脅かす危機 第7講 生物資源と遺伝資源 第8講 生態系サービスの概念 第9講 生物多様性条約とCOP10 第10講 気候変動と生物多様性 第11講 持続可能な社会に向けた取り組み- ESDとSDGs、ネイチャーポジティブ 第12講 保全生物学の考え方 第13講 環境アセスメント 第14講 環境保全のために私たちができること 第15講 まとめ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「生物多様性という名の革命（デヴィッド・タカーチ）日経BP社、2006」、「最新 日本の外来生物（自然環境研究センター）平凡社、2019」など				
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。				
成績評価方法	授業に対する積極性（50%）、期末試験（50%）を元に総合的に評価します。授業に対する積極性は小レポートの提出や授業内でのディスカッションへの参加、発言によって評価します。				
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。				
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。				
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での事例や課題などを紹介します。				
担当者から一言	環境保全は社会や他人に任せるだけではなく、自身の参加が不可欠です。保全の取り組みへの学生の積極的な参加を期待します				

授業科目名	地球環境学		科目コード	381401	授業コード	422404
担当教員	廣住 豊一		科目ナンバリング	EIEN4001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる					
授業のねらい	地球温暖化・気候変動・自然災害・海洋汚染・大気汚染などを含めた地球規模の環境問題について、地球科学的な観点から学ぶ。					
到達目標	現在の生じている地球規模の環境問題について、地球科学的な側面からその発生メカニズムを理解し、対策を考えることができる。					
授業計画	第1講 ガイダンス、地球環境と地球システム 第2講 地球環境の成り立ち① 宇宙のなかの地球 第3講 地球環境の成り立ち② 地球環境の歴史 第4講 地球環境の基礎知識① 大気の構造と流れ 第5講 地球環境の基礎知識② 海水と海洋の動き 第6講 地球環境の基礎知識③ 地球規模の水循環 第7講 地球環境の基礎知識④ 気候変動と異常気象 第8講 地球温暖化① 地球の気温変動と温室効果 第9講 地球温暖化② 地球温暖化の要因と影響 第10講 地球温暖化③ 地球温暖化への対策 第11講 オゾン層とオゾンホール① 第12講 オゾン層とオゾンホール② 第13講 オゾン層とオゾンホール③ 第14講 大気環境と大気汚染① 第15講 大気環境と大気汚染② 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	なし。各講の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。					
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。ミニレポートで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。					
成績評価方法	毎回の授業内で行うミニレポートの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。正当な理由なく欠席した場合は1回ごとに最終評定を10点減点する。遅刻・早退・私語等には減点等の処置を講じる。					
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内で理解度をはかるためのミニレポートを実施する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内で実施したミニレポートは次の講義までに添削して返却する。次回授業でミニレポートの解説を行う。					
アクティブラーニング	ミニレポート、コメントシート					
実務経験のある教員						
担当者から一言	この授業では地球規模の環境問題について扱います。「地球をまるごとひとつ」というと、とてつもなく大きく感じますが、この機会に視野を世界まで大きく広げてみてください。					

授業科目名	環境化学	科目コード	381402	授業コード	424801
担当教員	牧田 直子	科目ナンバリング	EIEN4002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている				
授業のねらい	物質の成り立ちや化学反応を理解し、環境に関する事柄を化学的に考える力を養うことを目標とする。具体的には、大気汚染、オゾン層破壊、地球温暖化等の化学について学ぶ。物質を構成している原子や化学反応における量の関係、エネルギーの出入りなどを学び、各種の反応へと発展させる。内容には物理化学および有機化学の基礎も含む。関連科目は「化学概論」、「環境化学実験」など。				
到達目標	(1) 構造式や分子の形から、その物質の性質が考えられる。 (2) 燃焼反応などの化学反応式が書ける。 (3) オゾンや酸素の役割、温室効果のメカニズムなどが化学的に説明できる				
授業計画	第1講 ガイダンス、化学の基礎（復習） 第2講 地球の空気 第3講 大気成分と化学変化 第4講 大気汚染と酸性雨1 第5講 大気汚染と酸性雨2 第6講 オゾン 第7講 光（電磁波） 第8講 成層圏オゾンの生成 第9講 オゾン層の破壊と対策 第10講 温室効果と分子の形 第11講 分子の振動と温室効果 第12講 温室効果ガスと地球への影響 第13講 燃焼とエネルギー 第14講 化学反応のエネルギー 第15講 燃料の化学 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	教科書：A Project of the American Chemical Society編、廣瀬千秋 訳「改訂 実感する化学 上巻 地球感動編」NTS社（2015）、3850円（税込み）				
事前・事後学習	化学は積み上げ科目であり、土台（先に学習したこと）が大事になる。教科書をよく読み、わからないままにしないことが重要である。 (1) 予習・復習のために宿題プリントを配るので、解答する（90分）。 (2) 教科書を読む（60分）。各回の講義に該当する教科書のページ数を記載した講義計画を初回の授業で配布する。 (3) ノートの見直し、まとめ（30分）。				
成績評価方法	宿題プリント（13回分）：25%、定期試験：75%				
授業内の課題・提出方法	(1) 演習プリント：その日の授業の理解度と出席を確認することが目的であり、毎回授業中に取り組む。 提出方法-授業終了後に教室で提出する。 (2) 宿題プリント：授業の復習と次回の予習を含めた内容で第2講から13回分課す。 提出方法-翌週の授業開始後10分以内に教室で提出する。遅れたものは受け取らない。欠席・遅刻の予定がある者は前日までに提出すればよい。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された演習プリントと宿題プリントは、翌週の授業で返却する。 宿題の評価は正解率ではなく、解答率（問題数に対する解答数）に準じて採点し、プリントに明記する。				
アクティブラーニング	課題・宿題				
実務経験のある教員					
担当者から一言	ノートを用意して下さい（ルーズリーフは不可）。試験は自筆のノートと電卓のみ持ち込みを許可します。 講義で分からなかったことは聞きましょう。授業後の質問、プリントの事前提出・受取は6号館4階6412室へ。				

授業科目名	森林環境学	科目コード	381403	授業コード	422701
担当教員	田中 伊知郎	科目ナンバリング	EIEN4003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている				
授業のねらい	日本の国土の7割を占める森林がどのような特徴を持ち、環境保全にどのように関連するかを明らかにしていきます。次に、経済的な問題を説明します。				
到達目標	日本の環境保全を考える上で、土台となる森林に関する知識を養うこと、人間とのかかわり(森林からどのように財を生み出すかを含む)を生物学の視点から明らかにすることをこの講義の到達目標とします。				
授業計画	第1講 ガイダンス・四日市本来の自然林と人工林： 大学周辺の森の見学(フィールドワーク) 第2講 森林生態系の基礎：植物の光合成 第3講 植物同士の競争と遷移 第4講 西日本の極相：照葉樹林(mast fruitingの確認のフィールドワーク) 第5講 東日本の極相：夏緑樹林(落葉広葉樹林) 第6講 二次林：どんぐり食糧から薪炭利用へ 第7講 貧栄養土壌と松林(二次林のなれの果て) 第8講 人工林：技術発展による木材利用の変化(イケアなどの集成材) 第9講 スギ植林の問題点(挿し木杉植林について意見を述べる実習) 第10講 森林(ブナ極相林)における動物相 第11講 獣害(人を食い殺すツキノワグマやオオカミ) 第12講 コアエリア計画(積雪地のブナ林で) 第13講 ニホンジカ管理計画(非積雪地のブナ林で) 第14講 ニホンジカの利用：東京におけるジビエ料理の進展 第15講 持続可能な森林に向けて：天然更新 定期試験 持ち込み不可				
テキスト・教材（参考文献）	なし				
事前・事後学習	授業当日に講義内容のノートを見返して、メモした疑問点を調べてください(60分)。2・3日後に、ノートを再度読んで(30分)、その次に当たることを考えてください(30分)。講義の前日に、ノートを読み返して、ノートの空白に書き込み整理してください(60分)。				
成績評価方法	講義の各回の終わりに練習問題(実践課題)をやります。講義中の課題は、コメントして合格するまでやり直してもらいます。 実践課題60% 定期試験 40%				
授業内の課題・提出方法	授業内容を理解したかを測る課題を授業末に出し、すぐにはできないので、1週間以内にメールなどで教員に送ってもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	送られた課題に対する回答を採点し、単に評価だけでなく、理解できていないところを指摘して、ノートを見直して、再学習してもらい、再提出します。				
アクティブラーニング	大学周辺の森の見学(フィールドワーク)をして、四日市市の本来の自然(照葉樹林)と、人間が同森林を作り変えるかを実習・理解します。				
実務経験のある教員	京都大学霊長類研究所の研究員の時に、夏緑樹林における生態の研究に従事し、日本獣医生命科学大学野生動物学教室と共同研究し、成果をアメリカ・イギリスの国際英文学術誌(査読付き)に発表しました。				
担当者から一言	できるだけ日常的な言葉で説明します。				

授業科目名	野生動物学	科目コード	381404	授業コード	423504
担当教員	野呂 達哉	科目ナンバリング	EIEN4008		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる				
授業のねらい	野生動物は現在絶滅の危機にあります。一方、野生動物と人間との間に生じる軋轢は年々増加する一方です。これらの対策に携わる人材に必要な野生動物に関する基礎的知識についての理解を深めます。				
到達目標	野生動物に関する基礎的知識について拾得しすることを目標とします。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 野生動物の系統と分類 第3講 日本の野生動物の特徴と生物地理1 第4講 日本の野生動物の特徴と生物地理2 第5講 野生動物の個体群と生息場所 第6講 野生動物の行動と社会 第7講 野生動物の繁殖生態 第8講 野生動物をめぐる現状と課題 第9講 飼育下の野生動物の活用 第10講 野生動物の死体の活用 第11講 野生動物の保護管理 第12講 生息場所の保全管理 第13講 種と個体群の保護管理 第14講 野生動物の保護管理に係る法律・条約 第15講 まとめ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「野生動物学概論（田名部雄一）朝倉書店」、「現代の哺乳類学（朝日稔）朝倉書店」、「林業と野生鳥獣との共存に向けて（石井信夫・由井正敏）日本林業調査会」、「野生動物問題への挑戦（羽山伸一）東京大学出版会」など。				
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。				
成績評価方法	授業内課題（20%）、期末試験（80%）を元に総合的に評価します。				
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、ディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。				
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。				
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での事例や課題などを紹介します。				
担当者から一言	野生動物調査や保護の取り組みへの学生の積極的な参加を期待します。				

授業科目名	土壌環境学	科目コード	381405	授業コード	424401
担当教員	廣住 豊一	科目ナンバリング	EIEN4005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる				
授業のねらい	土壌は、農業・林業などによる生産機能だけでなく、環境変化に対する緩衝機能や環境汚染に対する浄化機能など、有益で重要なさまざまな機能を持っている。この講義では、土壌の基本的な性質や機能を学ぶだけでなく、土壌が地球環境や生態系のなかでどのような地位を占め、どのような役割を果たしているかを学ぶ。また、三重県の土壌についても紹介する。				
到達目標	土壌の成り立ちや構造、土壌のもつ性質や機能を理解する。土壌を地球にある有限な資源のひとつとして捉え、地球環境のなかで土壌が果たす役割について考えることができる。				
授業計画	第1講 ガイダンス 土壌とは何か？ (土壌の成り立ち) 第2講 土壌の生成 一月に土壌はあるか？ 第3講 土壌の分類 世界の土、日本の土、三重の土 (土壌のつくり) 第4講 土壌の構造 土は何でできている？ 第5講 土壌生物と土壌有機物 土のなかの生き物たち 第6講 土壌のpHと温度 住み心地はいかが？ (土壌のはたらき) 第7講 土壌の保水性 水もちの良さはどう決まる？ 第8講 土壌の排水性 水はけのよい土わるい土 第9講 土壌の保肥性 土はどうやって栄養を蓄える？ (土壌の種類と特徴) 第10講 いろいろな土壌① 森林の土壌 第11講 いろいろな土壌② 水田の土壌 第12講 いろいろな土壌③ 畑地の土壌 第13講 いろいろな土壌④ 施設・草地・樹園地の土壌 (環境と土壌) 第14講 土壌の浄化機能と土壌汚染 土壌を守る 第15講 土壌の劣化と保全 土壌を育む 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	なし。各講の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。 参考文献：松中照夫著「土壌学の基礎」農文協(2004年)、久馬一剛編著「最新土壌学」朝倉書店(1997年)、安西徹郎・犬伏和之編「土壌学概論」朝倉書店(2001年)などを推奨する。				
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。ミニレポートで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。「化学概論」・「生物学概論」・「地学概論」・「環境化学」・「生態学」・「食糧生産学」を履修していることが望ましい。				
成績評価方法	毎回の授業内で行うミニレポートの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。正当な理由なく欠席した場合は1回ごとに最終評定を10点減点する。遅刻・早退・私語等には減点等の処置を講じる。				
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内で理解度を高めるためのミニレポートを実施する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内で実施したミニレポートは次の講義までに添削して返却する。次回授業でミニレポートの解説を行う。				
アクティブラーニング	ミニレポート、コメントシート				
実務経験のある教員					
担当者から一言	私たちの足もとにある土壌は地球の歴史とともに育まれてきました。長い時間の流れに想いを馳せながら、これから土壌とどう付き合っていくのか考えてみてください。なお、本科目は三重創生ファンタジスタ（ベーシック）資格の認定対象科目です。				

授業科目名	陸水環境学	科目コード	381406	授業コード	424504
担当教員	大八木 麻希	科目ナンバリング	EIEN4009		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる				
授業のねらい	日本は古来から水資源が豊かな国であり、恵まれた水環境の中で歴史を刻んできた。しかし、高度経済成長期には公害問題、80年代には富栄養化問題、そして現在ではダム建設の必要性の有無が問われているなど水環境と人との関わりの中で、さまざまな現状と直面している。そこで、陸域の水環境を通じて、理解を深めていきたい。				
到達目標	本講義では、湖沼や地下水などの物質循環を理解するとともに、水域環境の現状と問題点を整理し、環境保全・環境再生や復元のための基礎理論や技術を学ぶことを目標とする。				
授業計画	第1講 ガイダンス、陸水学の歴史 第2講 水資源と水循環 第3講 陸水の環境科学 第4講 湖沼成因 第5講 湖沼分類 第6講 湖沼の生物的特性 第7講 湖沼の化学的特性 第8講 湖沼の物理的特性 第9講 湖沼堆積物 第10講 古陸水学的手法 第11講 水田 第12講 ダム湖 第13講 地下水 第14講 陸水域の災害 第15講 陸水環境の保全と管理 レポート試験 簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。				
テキスト・教材（参考文献）	テキスト 松本嘉孝ほか、身近な水の環境科学（第2版）、朝倉書店、2022、2600円＋税 参考文献 西條八束・三田村緒佐武「新編湖沼調査法」講談社（2016）3400円				
事前・事後学習	授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。				
成績評価方法	小レポート 30% レポート 70%				
授業内の課題・提出方法	講義の最後に課題を提示して、時間内に回答して提出する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートについては、毎回採点し返却時に解説を行う。				
アクティブラーニング	実習、レポート				
実務経験のある教員					
担当者から一言	各講義では計算や簡易な実習を行うので積極的な学生の履修を望む。				

授業科目名	環境生物学	科目コード	381408	授業コード	425703
担当教員	古山 歩	科目ナンバリング	EIEN4004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている				
授業のねらい	地球上には山から海まで多様な環境が存在しており、それぞれの環境には様々な生物が生息し、環境中の他の生物と互に関わり合いながら生態系を構築している。本授業では地球上の多様な環境を紹介するとともに、それらの環境に対する生物の形態・生態・生理的特性の適応やそれぞれの環境における生態系構造について解説する。加えて、それぞれの環境が現在直面する環境問題取り上げ、それらが生物に与える影響についても紹介する。				
到達目標	(1) 様々な生物の環境適応について知る。 (2) 生態系や生物多様性の重要性を理解する。 (3) 現在地球上で起きている様々な環境問題や生物多様性の危機について知る。				
授業計画	1. ガイダンス・生物の分類と学名 2. 基礎的な生態学：生物間相互作用 3. 基礎的な生態学：生物の進化と適応 4. 基礎的な生態学：生態系と生態系サービス 5. 生物多様性と絶滅危惧種 6. 多様な環境とその特性 7. 森林の生物と生態系 8. 草原の生物と生態系 9. 湖沼の生物と生態系 10. 河川の生物と生態系 11. 海岸・干潟の生物と生態系 12. 海洋の生物と生態系：沿岸域 13. 海洋の生物と生態系：沖合・深海域 14. 都市の生物と生態系 15. まとめ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	教科書：なし、適宜資料を配布する 参考文献：授業中に適宜提示する				
事前・事後学習	予習：文献やインターネットなどで興味のある生物について調べる（30分） 復習：資料の見直しをするとともに、紹介した生物や環境問題について調べる（60分）				
成績評価方法	授業中に行うミニテスト（50％）、テスト課題（50％） 授業は毎回の出席を原則とします。1/3(5回)を超えて欠席した場合、評価の対象になりません。				
授業内の課題・提出方法	基本的には授業中に回収する。 Moodle等での提出を行う場合は適宜指示する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニテスト等は翌週の授業にて返却する。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言	地球上には多種多様な生物があり、多様な生態系を構築しています。それら全てを15回の授業で紹介することは当然できません。授業では代表的な環境や種を紹介しますので、もし気になる生物がいる場合は、ぜひご自身でも自主的に調べ、積極的に授業に臨んでもらえたらと思います。				

授業科目名	環境微生物学	科目コード	381409	授業コード	424302
担当教員	大八木 麻希	科目ナンバリング	EIEN4006		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる				
授業のねらい	微生物は環境問題について解決する役割を担うことができることが期待されている。そこで、微生物学の基礎を学ぶとともに環境中での各種微生物の働きについて事例紹介をふまえて知り、理解を深める。				
到達目標	本講義では、環境微生物について、多角的に捉え、理解を深めていくことを目的とする。現在地球規模で問題となっているさまざまな課題への自身の考えを正しく持つことを目標とする。				
授業計画	第1回 ガイダンス、微生物学の歴史 第2回 微生物の分類 第3回 環境中の微生物分布 第4回 物質循環に関わる環境微生物 第5回 微生物の構造 第6回 微生物の栄養と増殖 第7回 微生物の代謝 第8回 微生物の増殖制御と殺菌 第9回 各圏の環境微生物の働き 第10回 極限環境微生物 第11回 微生物による排水処理 第12回 微生物による汚泥処理 第13回 食糧生産と微生物 第14回 環境モニタリング 第15回 微生物とバイオエネルギー 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	テキスト環境微生物学，久保幹ほか，化学同人，3000円+税				
事前・事後学習	授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。				
成績評価方法	小レポート30%、試験70%				
授業内の課題・提出方法	講義の最後に関連する問題や課題を解き、その時間内で提出する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートは毎回添削後返却し、解説をします				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言	日頃から関連するニュースや事象に興味関心を持ち、積極的な受講を望みます。				

授業科目名	海洋環境学		科目コード	381410	授業コード	422302
担当教員	千葉 賢		科目ナンバリング	EIEN4007		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる					
授業のねらい	最初に地球規模の大気と海洋の現象を物理的な観点から学ぶ。それに基づき、地球温暖化の仕組みや海流の発生原理などを学ぶ。続いて、沿岸海洋の物理として、潮汐や潮汐流の発生原理を学ぶ。次に水中光の物理に触れながら、それに左右される基礎生産と、基礎生産を底辺とした海洋生態系の仕組みと変動機構について学ぶ。海洋生物群については、分類学的な観点から理解を進め、その生態と生活史などを学ぶ。これらの学習の中に、地球規模や伊勢湾等の日本沿岸の環境問題を織り込み、環境問題の発生の仕組みを理論から理解できるようにする。また、授業					
到達目標	大気科学と海洋学の基礎知識を得て、地球温暖化、海洋酸性化、サンゴの白化、海洋プラスチックなどの地球規模の環境問題と、伊勢湾の水質や漁業資源などの地域の環境問題などを理解できるようになる。					
授業計画	第1講 ガイダンス、海洋学とは 第2講 海洋の大きさと海水の物性 第3講 大気と海洋（大気の熱力学） 第4講 大気と海洋（大気中の水循環と地球温暖化問題） 第5講 大気と海洋（コリオリカとエクマン輸送と漁場問題） 第6講 大気と海洋（風成循環と海流と北太平洋のゴミ集積問題） 第7講 潮汐と潮汐流（埋め立てによる潮汐流の変化） 第8講 水中の光環境と基礎生産（透明度とは） 第9講 水中の光環境と基礎生産（赤潮と青潮） 第10講 海洋生態系と栄養段階（生物多様性とは） 第11講 海洋生態系と栄養段階（生物の生活史と環境問題） 第12講 海洋生物の分類と特徴（磯焼けとサンゴの白化現象） 第13講 海洋生物の分類と特徴（海洋酸性化問題） 第14講 伊勢湾の環境問題（貧酸素問題） 第15講 伊勢湾の環境問題（貧栄養化） 期末試験					
テキスト・教材（参考文献）	担当教員が作成した教材を配布する。 【参考文献】 横瀬久芳、「はじめて学ぶ海洋学」、朝倉書店、1800円＋税 日本生態学会編、「海洋生態学」、共立出版、3400円＋税					
事前・事後学習	シラバスを読み、授業週の翌週の内容を把握し、教科書やネットで予備知識を得る（90分）。授業を聴いたら、内容を復習し、理解できなかった部分を教科書やネットで調べる。毎週のレポートに取り組む（90分）。					
成績評価方法	講義毎のレポート（40%）と期末試験（60%）。積極的にレポートに取り組んだ者は加点する。					
授業内の課題・提出方法	教員が課題の用紙を配布するので、それを教員の研究室前のポストに期限までに提出する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次の授業までに提出された課題を採点・評価して学生に返却する。期末試験もレポートの問題の中から主に出題する。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	地球温暖化や海洋プラスチック汚染などの地球規模の環境問題や、身近な伊勢湾で起きている環境問題を理解する上で、この授業は役立つはずです。					

授業科目名	都市環境学			科目コード	381503	授業コード	426501
担当教員	森 康則			科目ナンバリング	EIEP4006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる						
授業のねらい	四日市市は、四日市ぜんそくを引き起こした都市環境問題と、その対策と改善について、深く経験してきました。その観点から四日市市は、都市環境学を学ぶうえで、全国的にも象徴的な都市といえます。本講義では、都市部の環境問題、エネルギー、都市計画など、現代社会における都市生活の維持に必要な知識を、身近な事例を交えながら学修します。						
到達目標	本講義では、環境問題、特に都市環境に関する専門知識や技術を習得するとともに、都市環境問題の社会的課題や特徴について学修していきます。具体的には、現代社会における都市部の大気環境、水環境をはじめ、エネルギーシステム、廃棄物処理など、都市生活の維持に必要な知識を、身近な事例を交えながら学修し、さらに防災やインフラストラクチャーの整備、まちづくりについての理解を深めます。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 都市環境とは 第3講 都市の大気と気候 第4講 都市災害 第5講 都市環境のモニタリング 第6講 都市のインフラストラクチャー 第7講 都市のエネルギー供給システム 第8講 都市の水供給システム 第9講 都市の廃棄物処理システム 第10講 都市環境計画とまちづくり 第11講 施設見学1 第12講 施設見学2 第13講 施設見学3 第14講 グループワーク 第15講 まとめ 2024年11～12月の週末（土日）を中心に、四日市市内の公共環境保全施設、環境学習施設での開講を予定しています。基本的に開講場所での現地集合、現地解散となります。開講場所の中には、交通不便地も含まれています。若干の交通費や、あるいは交通手段が必要になる場合があります。 現時点では、2024年11月30日（土）、2024年12月8日（日）、2024年12月15日（日）、2024年12月24日（火）での開講を予定していますが、開講日時、開講場所は変更になる場合がありますので、確定後、2024年10月上旬頃までに、履修登録者に対してMoodleかUNIPAでアナウンスします。						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	講義前に次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は、講義資料をもとに内容を復習してください（90分）。						
成績評価方法	小テスト 5点×8回＝40点 レポート課題 20点×3回＝60点 計100点						
授業内の課題・提出方法	講義中に講義内容に関連する小テストを行い、提出を求めます。また、施設見学等に関するレポート課題を出しますので、Moodleにて提出を求めます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストを行った次の回の講義の最初に、採点された小テストを返却し、答え合わせを行います。また、レポート課題については、提出内容について、必要に応じてMoodleにコメントを付けます。						
アクティブラーニング	座学による講義内容だけでなく、環境保全施設の見学等により、実際に都市環境の維持が行われている現場を間近に体験したり、これらに関するグループワークを実施することで、能動的に学修する機会を得ます。						
実務経験のある教員	担当教員には、都市環境のマネジメントに関する実務経験があります。						
担当者から一言	本講義では、都市環境の維持に必要な環境保全施設の見学などを通じて、座学だけでは得られない、新たな刺激を感じていただきたいと思います。						

授業科目名	生活環境学		科目コード	381504	授業コード	424605
担当教員	廣住 豊一		科目ナンバリング	EIEP4002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる					
授業のねらい	風通しや日当たりなどの住まいの快適さ、水や食事など食生活の質といった生活環境が、私たちの生命や健康に影響を与えることは古くから知られていた。この講義は生活者側の視点から、生活環境が人の健康や暮らしにどのような影響を与えるかを学ぶ。					
到達目標	人の健康と病気のしくみについて理解する。安全で快適な住まいや労働環境について理解する。水や食事等の食生活が健康に与える影響を理解する。わが国において健康と生活を守るしくみがどのように成り立っているか理解する。生活に関わる地域環境問題について理解する。					
授業計画	第1講 ガイダンス、安全で快適な暮らしと生活環境 第2講 人の健康・病気と有害物質の影響 第3講 大気・空気環境と生活や労働に適した温熱条件 第4講 水と生活のかかわり 第5講 食生活と健康 第6講 食品と微生物 第7講 食品の変質① 腐敗と化学的変質 第8講 食品の変質② 変質の防止 第9講 食中毒① 食中毒の概要と発生状況 第10講 食中毒② 微生物による食中毒 第11講 食中毒③ 自然毒・化学物質による食中毒 第12講 有害物質による食品汚染 第13講 汚水や廃棄物の処理 第14講 生活環境問題① 大気汚染・水質汚濁 第15講 生活環境問題② 土壌汚染・地盤沈下・感覚公害 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	なし。各講の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。					
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。ミニレポートで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。					
成績評価方法	毎回の授業内で行うミニレポートの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。正当な理由なく欠席した場合は1回ごとに最終評定を10点減点する。遅刻・早退・私語等には減点等の処置を講じる。					
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内で理解度をはかるためのミニレポートを実施する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内で実施したミニレポートは次の講義までに添削して返却する。次回授業でミニレポートの解説を行う。					
アクティブラーニング	ミニレポート、コメントシート					
実務経験のある教員						
担当者から一言	近な話題も交えながら生活環境と健康の関係についてお話したいと思います。これをきっかけに自分たちの生活についても見直してみてください。					

授業科目名	環境社会学	科目コード	381505	授業コード	425602
担当教員	平 春来里	科目ナンバリング	EIEP4003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる				
授業のねらい	「環境」と「社会」にまたがる領域を学ぶにあたって、各年代・各場所のそれぞれで生じてきた環境問題・環境思想を理解する。そして日本の環境社会学が公害問題を端緒として発展してきた過程を体系的に学ぶ。またこの体系的な学びから方法論の学びへと接続させることで、気候変動やエネルギー問題といった環境問題にローカルかつ実践的に取り組むための思考力を養うことを目的とする。				
到達目標	①日本における環境問題の歴史とともに、環境社会学の視点と方法論を十分に理解し自らの言葉で説明することができる。 ②環境社会学の視点をを用いて、ある環境問題に関して解決策を現実的に即して考察することができる。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 環境問題の歴史 ～「環境の時代」と環境社会学～ 第3講 環境問題の歴史 ～各時代の環境問題と環境思想①～ 第4講 環境問題の歴史 ～各時代の環境問題と環境思想②～ 第5講 日本の環境問題 ～高度経済成長と公害（1）～ 第6講 日本の環境問題 ～高度経済成長と公害（2）～ 第7講 日本の環境問題 ～農と食、ゴミ問題など～ 第8講 日本の環境問題 ～開発と資源、歴史的環境と景観など～ 第9講 環境社会学の方法論 ～被害（加害）構造論～ 第10講 環境社会学の方法論 ～受益圏・受苦圏論～ 第11講 環境社会学の方法論 ～社会的ジレンマ論～ 第12講 環境社会学の方法論 ～社会運動論～ 第13講 原発事故と被害・加害構造 第14講 地域社会とエネルギー 第15講 なぜ公害は続くのか				
テキスト・教材（参考文献）	教科書は指定しません。授業開始前にその日のレジュメを配布し、それを元に進めます。 【参考文献】 『よくわかる環境社会学（第2版）』鳥越皓之・帯谷博明 2017年				
事前・事後学習	現在起きている環境問題についてネットや参考文献で情報収集する時間を週に1時間程度取ることが望ましいです。また授業前に前回の授業資料を確認する時間として30分とることを推奨します。				
成績評価方法	授業中のディスカッションとレポート提出 50% 定期試験 50%				
授業内の課題・提出方法	その都度授業内でお知らせします。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポートなどにコメントを付記してフィードバックします。 もし全体で共有したい内容の場合は、許可を得た上で全体でフィードバックをします。 その他個別に対面で質問・フィードバックが必要な場合は授業後・もしくはメールでご連絡ください。				
アクティブラーニング	授業中のディスカッションと授業期間内でのレポート提出では、主体的な問題提起や意見を重視します。またそこでの皆さんの意見を授業内容でも積極的に取り入れます。				
実務経験のある教員					
担当者から一言	「なぜ公害は続くのか」「長らく議論されてきた気候変動がなぜ解決されないのか」素朴な疑問を大切にしながら、一緒に環境社会学への理解を深めていければと思います。				

授業科目名	地域社会と環境		科目コード	381506	授業コード	425304
担当教員	野呂 達哉		科目ナンバリング	EIEP4004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる					
授業のねらい	現代の地域社会はどのような問題を抱えているのか、その事例として「里山の衰退」と「獣害問題」、「外来生物問題」をとりあげます。これらの問題の背景や現状、また、地域でどのような取り組みが行われているのか理解することを目標とします。					
到達目標	農村の過疎化や都市への人口集中、通勤圏としての郊外の開発は「獣害問題」や「外来生物問題」、「生物多様性の減少」の背景ともなっています。これらは地域の問題というだけでなく全国的な課題でもあります。ディスカッションを通じて、身近な環境問題としてこれらを理解することを目指します。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 地域社会と環境問題 第3講 農村と里山 第4講 里山の自然と維持管理 第5講 里山の衰退と獣害問題 第6講 里山の再利用とエコツーリズム 第7講 郊外の自然と身近な生物の減少と消失 第8講 都市の自然と生物多様性 第9講 外来生物問題 第10講 ペットの遺棄と地域ネコ 第11講 グローバル化と感染症問題 第12講 都市化とエキゾチックペット由来の新たな外来生物 第13講 地域住民による外来生物対策 第14講 地域住民による生物調査と保全の取り組み 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「里山の環境学（武内和彦ほか）東京大学出版会」、「都市で進化する生物たち（メノ・スヒルトハウゼン）草思社」など。					
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。					
成績評価方法	授業内課題（20%）、期末試験（80%）を元に総合的に評価します。授					
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な環境問題の題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、ディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。					
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。					
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での事例や課題などを紹介します。					
担当者から一言	環境問題は複雑な現代社会を背景として生じてきた問題ですが、問題解決のためには地域社会とそこで生活する個人の参加が不可欠です。問題解決のために学生の積極的な参加を望みます。					

授業科目名	地域連携環境講義		科目コード	381507	授業コード	425203
担当教員	千葉 賢		科目ナンバリング	EIEP4001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる					
授業のねらい	現実の環境問題に対処してきた多数の専門家を招聘して講義を行う。本講義に参加することで、自然環境、社会環境、地域環境、環境教育、環境とエネルギーの問題などについて、幅広い知識を得られる。多分野の専門家に会うことが出来、その経験談・苦労話を聞けることが本講義の魅力である。専門家の話を聞き、今後、自分としてどのように環境問題に対処してゆけば良いのかを考える機会にして欲しい。自分の進路を考える機会にもなる。					
到達目標	毎週異なる講師から環境問題に関する講義を聞き、それに対する自分の見識を簡潔にレポートにまとめる訓練を行う。幅広い環境問題に関する知識を身に付け、それに対する自分の意見を持つことが到達目標である。					
授業計画	(各講義のタイトルは仮題。講師の都合でタイトルと順番の変更あり。) 第1講 ガイダンス、北勢地域の環境問題、千葉 第2講 四日市市の廃棄物問題、(外部講師) 第3講 三重県の廃棄物問題、(外部講師) 第4講 伊勢湾のプラスチックゴミ問題、千葉 第5講 藤前干潟の保全とゴミ問題、(外部講師) 第6講 SDGsとESD、(外部講師) 第7講 音楽による里山文化の発信、(外部講師) 第8講 三重県の地球温暖化対策、(外部講師) 第9講 四日市市周辺の自然環境保全、(外部講師) 第10講 企業と環境対策(外部講師) 第11講 三重県の林業と今後、(外部講師) 第12講 北勢地域における地域農業の展開、(外部講師) 第13講 吉崎海岸の清掃活動とウミガメ保存、(外部講師) 第14講 伊勢湾の貧栄養問題と下水処理場の管理運転、(外部講師) 第15講 伊勢湾の水質環境、千葉					
テキスト・教材(参考文献)	なし。毎回の講義で資料を配布する。					
事前・事後学習	シラバスを参照して次の講義内容を確認し、インターネット等を利用して、予備的な知識を得ること(180分)。予備的に調べたサイトや図書があれば、その名称と内容の両方をレポートに書くことで加点する。					
成績評価方法	毎回の講義後に、自分と環境問題の関係性(自分の生活とどのように関わっているか)を考慮した講義内容評価のミニレポートを作成して提出させる。1回6点満点×15回=90点(優秀レポートには加点)して成績評価する。遅刻者は減点する。期末試験はない。					
授業内の課題・提出方法	教員が課題の用紙を配布するので、それを教員の研究室前のポストに期限までに提出する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次の授業までに提出された課題を採点・評価して学生に返却する。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	話題を提供していただく講師の皆様にご感謝の気持ちを持って講義に参加してください。本講義は公開授業のため、一般市民の方々も聴講されます。履修する人は、マナーに気を付けてください。					

授業科目名	農業環境学		科目コード	381508	授業コード	422803
担当教員	廣住 豊一		科目ナンバリング	EIEP4007		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる					
授業のねらい	農業・林業を取り巻く環境とその保全について、物理・生物・化学的な観点からの自然科学的な環境だけでなく、経営や流通、消費などを含めた社会的な環境も含めて学ぶ。					
到達目標	農業・農村のもつ役割と機能を理解し、その保全と持続的な発展のために必要な取り組みについて考えることができる。					
授業計画	第1講 わたしたちの暮らしと農業・環境 第2講 人間をとりまく環境といろいろな生態系① 第3講 人間をとりまく環境といろいろな生態系② 第4講 農業による食糧供給機能 第5講 農業・農村のもつ役割 第6講 農業とエネルギー 第7講 持続可能な農業・農村の発展 第8講 農業・農村をとりまく課題と将来 第9講 農業生産と栽培環境① 第10講 農業生産と栽培環境② 第11講 森林・林業と環境保全 第12講 緑地・農地の保全 第13講 生態系に配慮した環境保全 第14講 地域の環境保全プロジェクト 第15講 農林業分野における環境保全の取り組み 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	なし。					
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。ミニレポートで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。					
成績評価方法	毎回の授業内で行うミニレポートの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。正当な理由なく欠席した場合は1回ごとに最終評定を10点減点する。遅刻・早退・私語等には減点等の処置を講じる。					
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内で理解度をはかるためのミニレポートを実施する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内で実施したミニレポートは次の講義までに添削して返却する。次回授業でミニレポートの解説を行う。					
アクティブラーニング	ミニレポート、コメントシート					
実務経験のある教員						
担当者から一言	農業・林業は人が生きていくうえで欠かすことができない産業ですが、人間の活動が拡大するうちに農業・林業が環境に与える影響も大きくなりました。身近な産業である農業がどのような影響を与えているのか考える機会にしてみてください。					

授業科目名	食糧生産学	科目コード	381509	授業コード	421304
担当教員	廣住 豊一	科目ナンバリング	EIEP4005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる				
授業のねらい	世界人口の増加による食糧需要の増大、気候変動やバイオエネルギーとの競合などによる食糧供給の不安定化、生産にともなう環境の汚染や破壊など食糧への関心が高くなっている。この講義では、農業・水産業・畜産業などの食糧生産の基礎を学ぶ。				
到達目標	世界の食糧事情と食糧生産システムについて理解する。農業・水産業・畜産業など食糧生産に関する産業の基礎を理解する。食糧生産に関する環境問題について考えることができる。				
授業計画	第1講 ガイダンス、現在の食糧事情と生産体系 第2講 農業① 農耕の起源と作物 第3講 農業② 日本の農業と作物生産の特徴 第4講 農業③ 作物生育と栽培環境・栽培管理 第5講 農業④ 稲作と水田農業 第6講 農業⑤ 野菜・果樹・花の生産 第7講 水産業① 日本の漁業の歴史と特徴 第8講 水産業② 漁業の仕事と制度 第9講 水産業③ 養殖と栽培漁業 第10講 水産業④ 海洋の資源と環境の保全 第11講 畜産業① 畜産業と畜産物 第12講 畜産業② 世界と日本の畜産業 第13講 食糧生産と環境問題 第14講 新しい食糧生産技術 第15講 これからの食糧生産 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	なし。各講の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。 参考文献：八木宏典監修「知識ゼロからの現代農業入門」（2018年）、濱田武士監修「知識ゼロからの現代漁業入門」（2017年）、八木宏典監修「知識ゼロからの畜産入門」（2018年）などを推奨する。				
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。ミニレポートで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。				
成績評価方法	毎回の授業内で行うミニレポートの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。正当な理由なく欠席した場合は1回ごとに最終評定を10点減点する。遅刻・早退・私語等には減点等の処置を講じる。				
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内で理解度をはかるためのミニレポートを実施する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内で実施したミニレポートは次の講義までに添削して返却する。次回授業でミニレポートの解説を行う。				
アクティブラーニング	ミニレポート、コメントシート				
実務経験のある教員					
担当者から一言	毎日の食卓に並ぶ料理の食材は、化学・物理学・生物学・地球科学の科学的知識と現場で培われた実践的経験を駆使して栽培・飼育・採取・捕獲されたものです。普段から、ひとつひとつの食材をよく観察し、どのようにして食卓に並んだのか考えながら、感謝しておいしくいただきましょう。				

授業科目名	自然調査法		科目コード	381601	授業コード	423807
担当教員	大八木 麻希		科目ナンバリング	EIET6003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる					
授業のねらい	20世紀後半の高度経済成長期の負の遺産として浮上してきた環境問題。21世紀には環境問題を改善する手法の確立や環境負荷を減らす産業の試みが行われている。その中で、環境そのものの現状把握として、生物調査を含めた環境調査が行われている。さまざまな開発に伴う自然環境についての生物調査は注目される分野であり、これらへの理解は社会環境へも応用的理解も有している。。現代の問題に、生物調査法を通じて、幅広く対応できる人材を育成していきたい。					
到達目標	本講義では、自然調査法についての理論及び実際の方法について、生物学・生態学の知識をふまえて学ぶ。そこで、自然調査法について、自身で柔軟的な視野で考え、科学的に理論を組み立てることが出来ることを目標とする。					
授業計画	第1講 ガイダンス、生物季節観測 第2講 森林① 植生調査 第3講 森林② 森林管理 第4講 森林③ 竹林問題 第5講 森林④ シカ害 第6講 森林⑤ 土壌生物調査 第7講 淡水圏① 湖沼の水生植物 第8講 淡水圏② 湖沼の動植物プランクトン 第9講 淡水圏③ 水生昆虫分類 第10講 淡水圏④ 生物学的水質判定法 第11講 海洋① 海洋生物調査 第12講 海洋② 音響機器 第13講 海洋③ 魚類形態 第14講 海洋④ 魚類観察 第15講 海洋⑤ 干潟ベントス調査 定期試験 簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。					
テキスト・教材（参考文献）	なし 参考文献 柴田英昭「生態学フィールド調査法シリーズ1 森林集水域の物質循環調査法」共立出版（2015）2000円 小池伸介ほか「生態学フィールド調査法シリーズ9 大型陸上哺乳類の調査法」共立出版（2017）2600円					
事前・事後学習	授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。					
成績評価方法	小レポート30%、試験70% 小レポートは毎回添削後、本人へ返却します。					
授業内の課題・提出方法	講義終了時に提出。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	添削後本人へ返却し、講義内で解説を行う。					
アクティブラーニング	実験・実習、グループワーク、フィールドワーク、レポート					
実務経験のある教員						
担当者から一言	重要語句の暗記ではなく、多角的・柔軟的な科学的視点を持つという意識を持って取り組んでほしい。簡易な実習を実施予定。					

授業科目名	伊勢湾海洋実習		科目コード	381602	授業コード	426102
担当教員	千葉 賢		科目ナンバリング	EIET6001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる 専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる					
授業のねらい	四日市大学の単独航海として三重大大学の勢水丸をお借りして、2泊3日で伊勢湾や周辺の海域に出て、水質・底質・生物調査などを行う。そのような実習と事前事後授業を通じて、伊勢湾の環境問題についての知識を増やし、伊勢湾の環境保全の大切さを理解できるようにする。海洋調査法の基本を体験し、その後のゼミ活動や他授業で役立てられるようにする。船内で規律ある団体生活を体験し、班分けで活動することで、協調性などの社会人基礎力も養成する。					
到達目標	伊勢湾の環境問題を理解できるようになる。海洋調査とデータ整理の基本技術を知る。観測内容を報告書にまとめる力を身に着ける。					
授業計画	第1講 ガイダンス、伊勢湾の地形・流動・水質の特徴（学内教室・事前授業） 第2講 伊勢湾の地形・流動・水質の特徴（学内教室・事前授業） 第3講 実習オリエンテーション（実習開会式含む）（勢水丸船内・実習1日目） 第4講 海洋調査実習（勢水丸船内・実習1日目） 第5講 海洋調査実習（船内実習1日目） 第6講 海洋調査実習（船内実習1日目） 第7講 観測データ分析（船内実習1日目） 第8講 海洋調査実習（勢水丸船内・実習2日目） 第9講 海洋調査実習（船内実習2日目） 第10講 海洋調査実習（船内実習2日目） 第11講 海洋調査実習（船内実習2日目） 第12講 海洋調査実習（船内清掃など）（船内実習3日目） 第13講 海洋調査実習（実習終了式含む）（船内実習3日目） 第14講 実習報告書の書き方（学内教室・事後授業） 第15講 実習報告書の書き方（学内教室・事後授業）					
テキスト・教材（参考文献）	なし。資料を配布する。					
事前・事後学習	事前授業資料を授業に先立ち配布するので予習すること（180分）。事前授業では反転授業の形式を採用して、学生に予習したことを発表させるので、予習は必須である。					
成績評価方法	実習への取り組み姿勢（70%）と実習報告書（30%）により評価する。実習に参加しない者、実習報告書を提出しない者には単位を与えない。事前事後授業についても、特別の事情がある場合を除いて、出席を必須とする。					
授業内の課題・提出方法	勢水丸で観測したデータをエクセル等でまとめて、それをワード文書に貼り付けて報告書を作成する。提出はメール添付を予定している。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	報告書は最後の授業後に提出させるので、そのフィードバックは特に考えていないが、希望する者には採点した報告書を開示する。実習時のフィードバックは現場で行う。					
アクティブラーニング	事前授業は反転授業（学生が調べたことを発表し、互いに学ぶ）形式で行う。 勢水丸での実習は、班分けして調査、食事の準備と片付け、清掃等を行う。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	水産資源が減少し、コウナゴの禁漁が続くなど、伊勢湾の環境に異変が起きています。海の環境問題を知りたい人、海洋調査の手法を学びたい人は履修してください。					

授業科目名	環境基礎実験			科目コード	381603	授業コード	424303
担当教員	牧田 直子			科目ナンバリング	EJET6002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている						
授業のねらい	基本的な実験器具の使用法を習得し、簡単な化学実験やフィールドワーク、顕微鏡観察等の生物学実習を体験することで実験操作に慣れることを目標とする。また、実験結果の記録の取り方や、データのまとめ方等も学習する。 授業を通して、実験室の使い方のルールを理解し、共同で実習を行う上で大切なコミュニケーション能力や協調性や環境に対する意識が向上することをねらいとする。 実験系科目の基礎となる科目なので、すべての実験系科目を履修する前に、また、実験系の演習科目（セミナー）を希望する学生は、ぜひ履修して欲しい。						
到達目標	(1) 実験室の使い方のルールを理解する (2) 実験器具を適切に取り扱える（使い方、洗い方、片付け方） (3) 実験結果を正しく記録する習慣を身に付ける						
授業計画	第1講 ガイダンスと実験室の使い方 第2講 ガラス器具の洗い方とフィールドワーク準備 第3講 タンポポ採集とプレパラートの作製 第4講 顕微鏡の使い方と観察 第5講 質量と体積の量り方 第6講 測定結果の取り扱いと密度 第7講 溶液の作り方と濃度 第8講 ビレットの使い方と定性分析 第9講 廃油からセッケンを作る 第10講 溶液の希釈とマイクロピペッターの使い方 第11講 分光光度計の使い方 第12講 定量分析 第13講 酸化還元滴定 第14講 COD測定 第15講 実験操作の復習、まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	教科書： 自作の実習プリントを配布する。毎回すべてのプリントを持って来ること。 実習プリントは①実験テキスト、②実験ノート、③実習の記録の3種類を用意している。						
事前・事後学習	(1) 予習として実験テキストをよく読み、プリントに書き込む。マーカーで線を引く等の工夫をして、実験に必要な器具、試薬等や手順を把握しておく（60分）。 (2) 実験結果を実験ノート（プリント）にまとめ、計算しておく（60分）。完成した実験ノートは提出する。 (3) 実習の記録に、実習で学んだことや要点を記入し、授業の復習をする（60分）。						
成績評価方法	実習：30%、実験ノート：15%、実習の記録：15%、定期試験：40% 「実習」は各回の実験結果を実験ノート（プリント）のデータ欄で確認し、評価する。 「実験ノート」は実習内容（結果）の記録、「実習の記録」は実習プリントへの書き込み課題等で評価する。						
授業内の課題・提出方法	(1) 予習：実験テキストと実験ノートへの書き込み課題、予習プリントは授業開始時に確認する。 (2) 実験ノート（プリント）：実験結果を記入して、実習終了の報告時（授業時間内）に提出する。また、授業終了後にデータ整理を行い、次回以降の授業で提出する。 (3) 実習の記録：実習終了後に記入し、授業内容の振り返りを行う。次回の授業開始時に提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	(1) 予習：実験テキストと実験ノートへの書き込みは授業中に答え合わせをする。予習プリントは採点し、解答例を添えて返却する。 (2) 実験ノート（プリント）：実習終了の報告時は、実験結果の部分をその場で確認し、不備があれば指摘して再提出させる。データ整理が必要なものは、実習点をつけた後、授業時間内に返却する。データ整理が完了しているものは、添削して次週以降の授業で返却する。 (3) 実習の記録：毎回、授業時間内に教員が確認し、コメントを記入して返却する。						
アクティブラーニング	実験・実習、フィールドワーク、グループワーク、課題・宿題						
実務経験のある教員							
担当者から一言	実習では危険な化学薬品も使うので、緊張感を持って取り組み、安全を意識すること。白衣着用を勧めます。						

授業科目名	環境実験・調査a		科目コード	381604	授業コード	424701
担当教員	廣住 豊一		科目ナンバリング	EIET6004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる					
授業のねらい	この授業では、河川・湖沼・海洋などの陸域・海域に広がる水圏環境、森林・農地・都市などを支える基盤となる地圏環境に関する基礎的な調査・測定の方法を学ぶ。					
到達目標	調査・実験を実施する上での安全管理の考え方、基本的な調査器具・実験器具の取り扱いや、試薬の調整方法について身につける。調査・実験の結果をまとめ、正しく報告することができる。					
授業計画	第1講 ガイダンス 安全指導・レポート書き方・実験器具の使い方（廣住） 第2講 水圏環境① 物理指標 水温・pH（大八木） 第3講 水圏環境② 物理指標 浮遊懸濁物質（大八木） 第4講 水圏環境③ 生物指標 BOD（大八木） 第5講 水圏環境④ 化学指標 窒素（大八木） 第6講 水圏環境⑤ 化学指標 リン（大八木） 第7講 水圏環境⑥ 化学指標 COD（大八木） 第8講 水圏環境⑦ 分析演習 塩水と砂糖水の水質比較（大八木） 第9回 地圏環境① 野外での土壌調査（廣住） 第10回 地圏環境② 土壌のpHとEC（廣住） 第11回 地圏環境③ 三相分布（廣住） 第12回 地圏環境④ 有機物量（廣住） 第13回 地圏環境⑤ 窒素（廣住） 第14回 地圏環境⑥ リン（廣住） 第15回 地圏環境⑦ カリウム（廣住）					
テキスト・教材（参考文献）	なし。各講の講義内容に関連した資料を配布することがある。					
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を予習する(90分)。実験内容をよく見直し、それぞれの実験で配布した資料で復習する(90分)。「環境化学」・「環境化学実験」を履修していることが望ましい。					
成績評価方法	それぞれの実験における実施態度・習熟度、分析結果をまとめたレポートなどをもとに総合的に評価する(100%)。					
授業内の課題・提出方法	各実験ごとに実験レポートを作成する。提出方法は担当教員ごとに指示する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポートは添削し、返却する。					
アクティブラーニング	実験・実習、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、レポート					
実務経験のある教員						
担当者から一言	実験室での分析ではささいな油断や不注意がけがや事故につながります。細心の注意をもって調査・実験に臨んでください。白衣を必ず着用してください					

授業科目名	環境実験・調査b		科目コード	381605	授業コード	424104
担当教員	大八木 麻希		科目ナンバリング	EIET6005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる 専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる					
授業のねらい	私たちが生活するうえでの身の回りの環境について、科学的現象として実験をふまえて、正しい知識を身に付ける。					
到達目標	調査・実験を実施する上での安全管理の考え方、基本的な調査器具・実験器具の取り扱いや、試薬の調整方法について身につける。調査・実験の結果をまとめ、正しく報告することができる。					
授業計画	第1回 ガイダンス、実験の心構え・準備 第2回 生活環境① 洗浄実験 合成洗剤の働き（大八木） 第3回 生活環境② ミネラルウォーターの硬度測定（大八木） 第4回 生活環境③ 硬水と軟水の抽出率の違い（大八木） 第5回 生活環境④ 溶液の密度測定（大八木） 第6回 生活環境⑤ 清涼飲料水の糖度・酸度測定（大八木） 第7回 生活環境⑥ 食品部位によるDNA抽出量の違い（大八木） 第8回 生活環境⑦ プラスチック類の分類（大八木） 第9講 都市環境① 気温と湿度（廣住） 第10講 都市環境② 雨量と酸性雨（廣住） 第11講 都市環境③ 風（廣住） 第12講 都市環境④ 花粉・粉じん・PM2.5（廣住） 第13講 都市環境⑤ 照度（廣住） 第14講 都市環境⑥ 騒音（廣住） 第15講 都市環境⑦ 不快指数と暑さ指数（廣住）					
テキスト・教材（参考文献）	なし。各講の講義内容に関連した資料を配布することがある。					
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を予習する(90分)。実験内容をよく見直し、それぞれの実験で配布した資料で復習する(90分)。「環境化学」・「環境化学実験」を履修していることが望ましい。					
成績評価方法	それぞれの実験における実施態度・習熟度、分析結果をまとめたレポートなどをもとに総合的に評価する(100%)。					
授業内の課題・提出方法	各実験ごとに実験レポートを作成する。提出方法は担当教員ごとに指示する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポートは添削し、返却する。					
アクティブラーニング	実験・実習、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、レポート					
実務経験のある教員						
担当者から一言	実験室での分析ではささいな油断や不注意がけがや事故につながります。細心の注意をもって調査・実験に臨んでください。白衣を必ず着用してください。					

授業科目名	環境実験・調査c			科目コード	381606	授業コード	425502
担当教員	牧田 直子			科目ナンバリング	EJET6006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている						
授業のねらい	フィールドワークによる現地調査や分子生物学実験を通して、環境への意識を高め、得られた結果に基づいて環境問題について議論することを目的とする。 関連科目は「環境基礎実験」、「環境実験・調査a」、「環境実験・調査b」、「自然調査法」など。						
到達目標	(1) DNAの扱い方を理解する (2) 基本的な実験操作を身に付ける						
授業計画	第1講 ガイダンスと滅菌方法 第2講 DNAとは何か？－タマネギからのDNA抽出 第3講 DNAの扱い方、マイクロピペッターの使い方 第4講 溶液調製と実験の基本操作 第5講 タンポポの葉からのDNAの抽出 第6講 タンポポDNAの増幅（PCR） 第7講 DNA電気泳動の準備と練習 第8講 タンポポDNAの電気泳動と解析 第9講 DNA解析を用いたタンポポの分類 第10講 ミニレポートの作成 第11講 遺伝子解析の準備と学習 第12講 DNAの抽出と予備試験 第13講 ターゲットDNAの増幅（PCR） 第14講 DNAの電気泳動と解析 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	教科書： 自作の実習プリントを配布する。毎回すべてのプリントを持って来ること。 実習プリントは①実験テキスト、②実験ノート、③実習の記録の3種類を用意している。						
事前・事後学習	(1) 予習として実験テキストをよく読み、プリントに書き込む。マーカーで線を引く等の工夫をして、実験に必要な器具、試薬等や手順を把握しておく（60分）。 (2) 実験結果を実験ノート（プリント）にまとめ、計算しておく（60分）。完成した実験ノートは提出する。 (3) 実習の記録に、実習で学んだことや要点を記入し、授業の復習をする（60分）。						
成績評価方法	実習：30%、実験ノート：15%、実習の記録：15%、定期試験：40% 「実習」は各回の実験結果を実験ノート（プリント）のデータ欄で確認し、評価する。 「実験ノート」は実習内容（結果）の記録、「実習の記録」は実習プリントへの書き込み課題等で評価する。						
授業内の課題・提出方法	(1) 予習：実験テキストと実験ノートへの書き込み課題、予習プリントは授業開始時に確認する。 (2) 実験ノート（プリント）：実験結果を記入して、実習終了の報告時（授業時間内）に提出する。また、授業終了後にデータ整理を行い、次回以降の授業で提出する。 (3) 実習の記録：実習終了後に記入し、授業内容の振り返りを行う。次回の授業開始時に提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	(1) 予習：実験テキストと実験ノートへの書き込みは授業中に答え合わせをする。予習プリントは採点し、解答例を添えて返却する。 (2) 実験ノート（プリント）：実習終了の報告時は、実験結果の部分をその場で確認し、不備があれば指摘して再提出させる。データ整理が必要なものは、実習点をつけた後、授業時間内に返却する。データ整理が完了しているものは、添削して次週以降の授業で返却する。 (3) 実習の記録：毎回、授業時間内に教員が確認し、コメントを記入して返却する。						
アクティブラーニング	実験・実習、フィールドワーク、グループワーク、課題・宿題						
実務経験のある教員							
担当者から一言	白衣着用を勧めます。ゴム手袋をよく着用するので、アレルギーがある場合は申し出てください。						

授業科目名	情報科学	科目コード	381701	授業コード	421503
担当教員	片山 清和	科目ナンバリング	EIMR2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	専攻必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる				
授業のねらい	現代において、情報の様々な処理のほとんどすべてはコンピュータで行われています。そのため効率的に情報処理を行うためには、情報の適切な表現方法や、コンピュータシステムの構成や実行の仕組みを理解する必要があります。また、近年ではネットワークで接続された複数のコンピュータを使って処理が行われているため、コンピュータネットワークの理解だけでなく、情報のセキュリティを確保するために情報セキュリティも理解していることが重要です。 この講義では、コンピュータを用いて情報を処理するのに必要な知識を身につけることを目的とします				
到達目標	①ハードウェアとソフトウェアの関係を説明できる ②コンピュータ内における情報の表現方法を説明できる ③アルゴリズムとプログラミングの関係を説明できる ④ネットワークの基本的な仕組みを説明できる				
授業計画	第1講 ガイダンス、情報とは 第2講 情報処理とコンピュータ（1） 第3講 情報処理とコンピュータ（2） 第4講 情報処理とコンピュータ（3） 第5講 コンピュータシステムの構成（1） 第6講 コンピュータシステムの構成（2） 第7講 コンピュータシステムの構成（3） 第8講 アルゴリズムとプログラミング（1） 第9講 アルゴリズムとプログラミング（2） 第10講 アルゴリズムとプログラミング（3） 第11講 アルゴリズムとプログラミング（4） 第12講 コンピュータネットワーク（1） 第13講 コンピュータネットワーク（2） 第14講 情報セキュリティ（1） 第15講 情報セキュリティ（2） 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	<テキスト> なし（必要に応じて配布します） <参考文献> 野本弘平 「情報科学入門」 朝倉書店 ￥3,080（税込） 小館香椎子、岡部洋一他 「教養のコンピュータサイエンス 情報科学入門 第3版」 丸善出版 ￥3,300（税込）				
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習しておくこと（30分）。 講義後には、学習した内容を復習し、課題を行うこと（150分）。 「情報科学概論」を履修していることが望ましい。また、あわせて「ソフトウェア概論」「ハードウェア概論」を履修することが望ましい。 本講義の内容をふまえ、情報処理について発展した内容を「情報理論Ⅰ」で学習します。 また、コンピュータでの処理について「プログラミング実習基礎」で実習を行います。				
成績評価方法	<評価> 小レポート30%、小テスト30%、定期試験40%				
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業で小レポートをMoodleに提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> 小レポートはMoodleを介して適宜コメントをします。				
アクティブラーニング	ミニッツペーパー、小テスト				
実務経験のある教員					
担当者から一言	コンピュータでの処理はとてもシンプルです。基本を理解すると非常に効率的に処理を行うことができるようになりますので、復習をしっかりと理解してください。 また、出席状況が悪い場合には減点します。				

授業科目名	音と光の科学		科目コード	381702	授業コード	422204
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	EIMR2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 専攻必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている					
授業のねらい	私たちが見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動について学びます。 感覚と脳は、生物が環境の様子をうかがい、環境に働きかける仕組みが進化するなかで育まれてきました。 (1) 感覚と脳の仕組みと機能の概要を学びます。 (2) 音の物理、聴覚の生理・心理の基礎を学びます。 (3) 光の物理、視覚の生理・心理の基礎を学びます。					
到達目標	(1) 見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動の根源にある脳について、基礎的な知識を得る。 (2) 音と聴覚に関わる学問・技術の基盤となる知識を得る。。 (3) 光と視覚に関わる学問・技術の基盤となる知識を得る。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 脳 感覚と脳 第3講 脳 脳の構造と機能 第4講 音・光 物理 音とは？ 第5講 音・光 物理 光とは？ 第6講 音・光 物理 伝播・反射・吸収 第7講 音・光 物理 屈折・回折・干渉ほか 第8講 音 生理 聴覚のしくみ① 第9講 音 生理 聴覚のしくみ② 第10講 音 心理 音の三要素 第11講 光 生理 眼球の構造要素 第12講 光 生理 視細胞／視神経 第13講 光 心理 視力 第14講 光 心理 色覚 第15講 まとめ 音と光 定期試験 (内容・順序を必要に応じて変更することがあります)					
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません。 講義中にプリントを配付します。 〈参考文献〉 山内昭雄・鮎川武二「感覚の地図帳」講談社（2001年） 池谷裕二監修「脳と心のしくみ」新星出版社（2016年） 仁科エミ・河合徳枝「音楽・情報・脳」（2013年）					
事前・事後学習	授業中に演習問題を出し、次回の最初に答え合わせをします。授業内容を復習する（90分）とともに、配布した資料を熟読し、不明点を自分で調べて理解を深めて下さい（90分）。 後期の「メディア表現の科学」（「脳・音・光の科学II」）で継続した内容の授業を行います。					
成績評価方法	次の配分で総合評価します。 受講態度、学習意欲、授業中の演習問題等（45%） 定期試験（55%）					
授業内の課題・提出方法	授業内に確認テストを課し、教室で提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中の演習問題等について、事後（次回など）に解説を行います。					
アクティブラーニング	参考となる音楽・映像の視聴を行うことがあります。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	学際的・総合的な内容になります。復習をしながら授業を進めますが、続けて休むとついて行くのが大変になります。					

授業科目名	地域社会とメディア情報		科目コード	381703	授業コード	423805
担当教員	黒田 淳哉、柳瀬 元志		科目ナンバリング	EIMR2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている					
授業のねらい	メディアや情報関連で地域をフィールドに活躍、発信をおこなっている方々からの声を聴きながら、地域におけるメディアや情報関連の職業についてを理解を深め、自らが地域で活躍する為の発見に繋げてもらう講義です。					
到達目標	・地域で活躍しているメディア情報関連の職業を知る。 ・学びを地域に関連した研究活動や、作品制作活動、将来のビジョンに繋げる。					
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 ラジオ 第3講 グラフィックデザイン 第4講 舞台 第5講 TVディレクター 第6講 ケーブルテレビ 第7講 カメラマン 第8講 広告 第9講 イベントホール 第10講 新聞 第11講 シティープロモーション 第12講 情報と職業1 第13講 情報と職業2 第14講 情報と職業3 第15講 まとめ ※講義順は変更の可能性があります。					
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）					
事前・事後学習	予習 次週の講義に関してインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料を見返し理解を深めること（90分）。					
成績評価方法	定期試験を行いません。受講態度と各回の講義で提出するレポートで評価し、合算します。なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、遅刻も減点となります。					
授業内の課題・提出方法	各授業内でミニッツペーパーやレポートを提出。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニッツペーパーの質問等は次回以降の講義で適宜コメントします。					
アクティブラーニング	ミニッツペーパー、レポート、ディスカッション					
実務経験のある教員	20年以上メディア業界で経験を積んだ専門家が、この講義の司会進行を務めます。さらに、地域のメディア情報領域で活躍されている講師をゲストに招いて講義を進めます。					
担当者から一言	必要な作業以外でのスマートフォンの使用を禁止します。講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。					

授業科目名	ソフトウェア概論		科目コード	381801	授業コード	424304
担当教員	池田 幹男		科目ナンバリング	EIMI4001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている					
授業のねらい	コンピュータソフトウェアの役割について学びます。ソフトウェアについて理解するにはその動作原理であるアルゴリズムを理解する必要があります。実際にソフトウェア作成するためにはプログラミング言語について理解する必要があります。また、ソフトウェアの基盤を担っている基本ソフトウェア（オペレーティングシステム）についても理解していることが望ましいです。この授業ではアルゴリズム、基本ソフトウェアの基礎について理解することを目指します。					
到達目標	ソフトウェアの動作原理を理解する。基本ソフトウェアであるOSの基本について理解する。ITパスポートのテクノロジー分野のソフトウェアに関する項目を理解する。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 ソフトウェアは何ができるか 第3講 応用ソフトウェアと基本ソフトウェアとデバイスドライバ 第4講 応用ソフトウェアの実行 第5講 プログラミング言語 第6講 コンパイラとインタプリタ 第7講 アルゴリズム 第8講 アルゴリズムとフローチャート（1） 第9講 アルゴリズムとフローチャート（2） 第10講 アルゴリズムとフローチャート（3） 第11講 基本ソフトウェアとは 第12講 基本ソフトウェアの働き（ファイルシステム） 第13講 基本ソフトウェアの働き（マルチタスク） 第14講 デバイスドライバ 第15講 まとめ 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	指定しない。教材はMoodleを通じて呈示します。					
事前・事後学習	教育支援システム(Moodle)に呈示されている資料や参考サイトを見て予習(90分)し、インターネットを通じて関連項目を調査して復習(90分)します。					
成績評価方法	Moodleでの課題と小テストなど40%、定期試験60%で評価します。					
授業内の課題・提出方法	Moodleを通じて、課題を提出します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通じて評価等をフィードバックします。					
アクティブラーニング	ミニッツペーパー					
実務経験のある教員						
担当者から一言	「情報科学概論」「ハードウェア概論」をあわせて履修することを勧めます。					

授業科目名	ハードウェア概論		科目コード	381802	授業コード	422702
担当教員	片山 清和		科目ナンバリング	EIMI4002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境化学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている。					
授業のねらい	コンピュータシステムはハードウェアとソフトウェアから成り立っています。効率の良いプログラムを開発したり、ソフトウェアを効率的に使うためにはハードウェアの知識が不可欠です。この講義ではコンピュータシステムのハードウェア部分について仕組みを解説します。また、情報系の国家資格であるITパスポート取得を念頭に置いて講義を行います。					
到達目標	①コンピュータシステムの仕組みを説明できる ②入力装置の機器と仕組みを説明できる ③出力装置の機器と仕組みを説明できる ④記憶装置の機器と仕組みを説明できる ⑤インターフェースの種類と特徴を説明できる ⑥インターネットの機器を説明できる					
授業計画	第1講 ガイダンス、コンピュータの五大装置 第2講 入力装置（ポインティングデバイス） 第3講 入力装置（キーボード、スキャナ、バーコードリーダー） 第4講 出力装置（ディスプレイ） 第5講 出力装置（プリンタ） 第6講 小テスト、中央処理装置 第7講 GPU 第8講 記憶装置（メインメモリ） 第9講 小テスト、補助記憶装置（磁気ディスク） 第10講 補助記憶装置（RAID、SSD、フラッシュメモリ） 第11講 補助記憶装置（光ディスク、光磁気ディスク、磁気テープ） 第12講 小テスト、インタフェース（パラレルインタフェース） 第13講 インタフェース（シリアルインタフェース） 第14講 小テスト、ネットワーク（イーサネット、ルータ、ハブ） 第15講 まとめ 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	<テキスト> なし（必要に応じて配布します） <参考文献> 春日健、舘泉雄治 「計算機システム（改訂版）」 コロナ社 ￥3,080（税込）					
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習しておくこと。（30分） 講義時には、学習した内容を復習しておくこと。（150分） 「情報科学概論」「ソフトウェア概論」を履修していることが望ましい。					
成績評価方法	<評価> 小テスト40%、課題20%、定期試験40%					
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業で確認テストを提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> 小テストを実施した翌週の授業で内容の解説を行います。					
アクティブラーニング	小テスト、ミニッツペーパー					
実務経験のある教員						
担当者から一言	ハードウェアは基本を理解できると、仕組みがとても簡単にわかります。しっかり復習を行って理解してください。 出席状況が悪い場合には減点します。					

授業科目名	情報理論 I		科目コード	381803	授業コード	421305
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	EIMI4003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている					
授業のねらい	情報理論は携帯電話、デジタルTV放送、光ディスク、インターネットなどにおいて、データ伝送、暗号化、デジタル署名などの基礎理論であり、情報化社会における必須理論である。また、情報系国家資格である基本情報技術者試験のテクノロジー系において重要分野でもある。 本講義では情報理論の中でも、データ構造とアルゴリズム、離散数学、マルチメディア技術について主に学ぶ。					
到達目標	データ構造、アルゴリズム、離散数学マルチメディア処理の基礎的な知識を習得する。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 プログラミング基礎 フローチャート 第3講 プログラミング基礎 データ構造 第4講 プログラミング基礎 アルゴリズム（1） 第5講 プログラミング基礎 アルゴリズム（2） 第6講 メディア処理基礎 メディアの種類 第7講 メディア処理基礎 データ表現（1） 文字・音声・静止画・動画 第8講 メディア処理基礎 データ表現（2） データ圧縮 第9講 メディア処理基礎 アナログとデジタル 標準化と量子化 第10講 数学的基盤 基数（1） 基数とは何か／基数変換 第11講 数学的基盤 基数（2） 補数・小数 第12講 数学的基盤 基数（3） 演算と精度 第13講 数学的基盤 論理演算 第14講 数学的基盤 グラフ理論 第15講 まとめ 定期試験 （内容・順序を変更することがあります）					
テキスト・教材（参考文献）	「令和06年 イメージ&クレバー方式でよくわかる かやのき先生の基本情報技術者教室」 栢木 厚、技術評論社、本体1680円 （この科目に続く「情報理論II」と共通してテキストとして用います） 必要に応じて資料を配布します。					
事前・事後学習	テキスト等を用いて次回授業の予習をしてください（90分）。毎回の授業の後でテキストやノートを読み返し、問題を解いて理解を深めてください（90分）。					
成績評価方法	毎回の授業で課す確認テスト及び演習課題60%、定期試験40%で総合評価します。					
授業内の課題・提出方法	授業内で実習課題や復習課題を課し、原則として教室で提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中の課題等について、事後（次回など）に解説を行います。					
アクティブラーニング	演習を行います。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	メディア情報専門科目「情報科学」を受講していることが望ましい。 この科目の発展的な内容を「情報理論II」で学ぶことができる。					

授業科目名	情報理論Ⅱ		科目コード	381804	授業コード	424803
担当教員	片山 清和		科目ナンバリング	EIMI4004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている					
授業のねらい	情報理論は携帯電話、デジタルTV放送、光ディスク、インターネットなどにおいて、データ伝送、暗号化、デジタル署名などの基礎理論であり、情報化社会における必須理論となっています。また、情報系国家資格である基本情報技術者試験のテクノロジー系において重要分野でもあります。 本講義では情報理論の中でも、形式言語、オートマトン、計算量、符号方式、システムの信頼性評価について主に学びます。					
到達目標	①正規表現・逆ポーランド表記ができる ②状態遷移表の読み書きができる ③パリティ計算、ハミング符号生成ができる ④システム稼働率などの計算ができる					
授業計画	第1講 ガイダンス、復習（暗号方式） 第2講 復習（認証、攻撃） 第3講 復習（情報量、計算量） 第4講 情報システムの構成 第5講 情報システムの評価（1） 第6講 情報システムの評価（2） 第7講 形式言語（1） 第8講 形式言語（2） 第9講 オートマトン（1） 第10講 オートマトン（2） 第11講 コンパイル理論 第12講 アルゴリズムと計算量 第13講 伝送理論（1） 第14講 伝送理論（2） 第15講 まとめ 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	<テキスト> 栢木厚 「令和06年 イメージ&クレバー方式でよくわかる かやのき先生の基本情報技術者教室」 技術評論社 ￥1,848（税込）					
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習しておくこと（30分）。 講義後には、学習した内容を復習し、課題を行うこと（150分）。 「情報科学概論」を履修していることが望ましい。また、あわせて「ソフトウェア概論」「ハードウェア概論」「情報理論Ⅰ」を履修することが望ましい。					
成績評価方法	<評価> 小レポート30%、小テスト30%、定期試験40%					
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業で小レポートを提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> 小レポート・小テストは翌週に解説・コメントします。					
アクティブラーニング	ミニッツペーパー、小テスト					
実務経験のある教員						
担当者から一言	情報理論はプログラミングをする上で必須の知識で、知っているだけでなく実際に使えることが必要となります。一見難しそうに見えますが、基本が分かると案外簡単なものです。また、基本情報技術者試験において可否を決定する内容でもあります。復習を中心にしっかりと学習してください。 また、出席状況が悪い場合には減点します。					

授業科目名	メディア概観		科目コード	381901	授業コード	425204
担当教員	黒田 淳哉		科目ナンバリング	EIMM4001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる					
授業のねらい	テレビやラジオ、新聞といった従来のメディアは、インターネットの普及後、SNSなどのインターネットメディアが誕生することで多様化してきました。さらには、人工知能（AI）やVR技術をはじめとするテクノロジーの急速な進化によって人々の情報伝達やコミュニケーションも進化・変化を続けています。本講義は、文字の発明から現在のメディア社会に至るまで、メディアの歴史を学ぶと同時に、これからのメディアと私たちの未来を展望します。					
到達目標	私達は何を望んで今のメディア環境があるのか？また、メディアの進化によって私達の生活や社会はどう変わったか？など、メディアと私達の関りについて歴史から紐解き理解すると共に、変化を続けるメディア環境を生きる私達の今や、未来について考察できるようになることが目標。変遷のあらましを把握することが目的ではなく、過去や現状を理解しつつ、未来に向けて考えを掘り下げるのが本講義の最も重要なポイントです。					
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 文字 第3講 印刷 第4講 ラジオ 第5講 写真 第6講 映画 第7講 プロパガンダ 第8講 テレビ 第9講 モバイルデバイス 第10講 コンテンツメディア 第11講 デジタルコンテンツ 第12講 メディアと芸能 第13講 現在のメディア社会 第14講 メディアと人々のつながり 第15講 情報社会とインターネット 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）					
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提示します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）。					
成績評価方法	小テスト及び課題（40%）、定期試験（60%） なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、遅刻も減点となります。					
授業内の課題・提出方法	授業の理解度を把握するために、毎回、授業の最後に小テストか小レポートを実施します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート、小テストの解説は翌週の授業で適宜コメントします。					
アクティブラーニング	小レポート、小テスト、ディスカッション					
実務経験のある教員						
担当者から一言	必要な情報収集以外で授業中にスマートフォンを使用することを原則禁止します。講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。					

授業科目名	メディア情報と文化		科目コード	381902	授業コード	422604
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	EIMM4002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる					
授業のねらい	私たちにあって最古であり、かつ根本をなすメディアは、自身の身体である。目で見、耳で聴き、手で触り、空気を感じた情報から心・表情・言葉・コミュニケーションが生まれ、文化が育った。人間固有の文化である祈り・祭りから様々な表現が分化して、歌・音楽・舞踊・美術・文芸などの芸術として発展して、多様なメディアとその上に載る感性情報の展開を導いた。 本授業では、人類社会の基層にある文化について学び、メディア情報と文化との関連性を理解するとともに、人間にとってメディアとは何なのかを考える。					
到達目標	メディア情報の歴史、人間文化の歴史の中で自分の立つ位置、現代のメディア情報の世界の中で自分の立つ位置について考えを深める。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 人間と文化 人間と動物の違い 第3講 人間と文化 人類はどのように世界にひろがったのか 第4講 人間と文化 文化をつくる脳の働き 第5講 人間と文化 原初の生活と文化 第6講 人間と文化 文化の進化 第7講 人間と文化 文化の多様性 第8講 文化の諸相 文明の生態史観 第9講 文化の諸相 文化の伝播と発展 第10講 文化の諸相 文化の衝突 第11講 文化の諸相 文化相対主義 第12講 文化の諸相 神と祭り 第13講 メディア情報と文化 祝祭から生まれたメディア情報 第14講 メディア情報と文化 伝統の智慧／技術が造る現代の祭り 第15講 まとめ 定期試験 （内容・順序を必要に応じて変更することがあります）					
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません。 必要に応じて資料を配付します。また、講義中に参考とする音楽・映像の視聴を行います。					
事前・事後学習	毎回の講義で提示した事例・理論を振り返り（90分）、鵜呑みにすることなく自分でも調べ直して、理解を深めるとともによく考えて下さい（90分）。					
成績評価方法	次の配分で総合評価します。 受講態度、学習意欲、小レポート等（40%） 定期試験（60%）					
授業内の課題・提出方法	小レポートを課すことがあり、教室で提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。					
アクティブラーニング	授業中に意見交換を行います。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	この講義では知識の獲得よりも、自分で感じ、考えることを特に重視します。					

授業科目名	映像概論	科目コード	381903	授業コード	424202
担当教員	柳瀬 元志	科目ナンバリング	EIMM4003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。				
授業のねらい	映像の歴史や現在地、そして新たな方向性など、映像の大枠をつかむことを軸に様々な角度から映像を追求していきます。座学はもちろん、各界で活躍するクリエイター（脚本家・ドキュメンタリストなど）を招いて講義を行い、演習や映像制作、プレゼンテーションなどを通じて映像のリアルを学びます。				
到達目標	①映像に関する基礎知識や最新情報を身につけ、日常生活でも常に映像に反応できるアンテナが張れるようになる。 ②授業を通じて一通りの映像制作のノウハウを学び、知識とスキル向上させる				
授業計画	第1講 ガイダンス ～映像概論のススメ方～ 第2講 映像の歴史 ～世界で評価される日本の映画を鑑賞～ 第3講 映像の歴史 ～世界で評価される日本の映画の感想～ 第4講 映像作品ができるまで ～企画・制作・編集・OA～ 第5講 映像技術 ～前川先生による講義・映像を実現するテクノロジー～ 第6講 企画書・企画会議とは 第7講 現場取材・インタビューのノウハウ 第8講 台本・脚本の作り方 第9講 作品鑑賞①（サイレント映画） 第10講 作品鑑賞②（1980年代のテレビ番組） 第11講 ローカルメディアの使命と役割 第12講 新聞はオワコンか ～賛否両論ディベート大会～ 第13講 ドキュメンタリー論 第14講 カメラ体験（撮影のノウハウ） 第15講 映像ビブリアバトル ※授業の進捗状況により、内容の変更や入れ替えがあります				
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて、テキストや資料を配布				
事前・事後学習	ジャンルを問わず、毎日映像に触れる時間を持つ。見ることをすなわち学習です。さらに読書にも親しむこと。文字情報を脳内で映像に変換する練習を積んでください。とにかく、よく見てよく読む。これが映像制作の事前・事後学習です。				
成績評価方法	授業取り組む姿勢：30%（出席率や授業態度など） 課題への取り組み：30%（内容のクオリティー、締め切り順守） 定期試験もしくは試験に代わるレポート：40% 必要に応じてフィードバックします。				
授業内の課題・提出方法	必要に応じて課題を出します。 提出方法は教員に直接手渡し、授業課の提出用レターケース、MOODLEのなかで最も効率よく提出できる方法を課題ごとに選択します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要に応じてフィードバックします。 授業内で合評することもあります。				
アクティブラーニング	プレゼンテーション・グループワーク・ディスカッション・ディベート・フィールドワークなど、概論として座学の中に人前で発表する時間も設けます				
実務経験のある教員	テレビ番組のディレクターとして35年の経験。現在も名古屋の民放で現役としてスポーツ中心に取材をしている。現場で培ったノウハウを中心に授業を行います。				
担当者から一言	現役ディレクターとして、映像の面白さ奥深さを伝えていきます。また希望者にはテレビ局の見学ツアーも行っています。 生放送直前の緊張感あるスタジオや、プロ集団による放送テクニック、皆さんと同じくらいの年齢のスタッフが働く現場など、リアルに体験する場を設けます。				

授業科目名	音響照明概論		科目コード	381904	授業コード	424702
担当教員	黒田 淳哉		科目ナンバリング	EIMM4004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる					
授業のねらい	音響と照明に関する、それぞれの基礎知識を「オンデマンド授業」で講義します。光と音の性質を知ることから始まり、演出方法や理論、メカニズムやシステムに関する内容を扱います。音響・照明を用いたメディア表現を目指す学生にとってこの講義は基礎となるものであり、それぞれの入門として位置づけられます。2年前期開講の「音響照明技術」とあわせて履修することを推奨します。※「音響照明技術」より前に履修することが望ましいです。					
到達目標	光と音の性質や理論に関する基礎知識や、機材の構造や原理が理解できるようになること。さらには、音響や照明の専門用語や単位、計算方法について理解できるようになること。					
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 照明1「光源」 第3講 照明2「光の単位」 第4講 音響1「音とは」 第5講 音響2「マイクとスピーカー」 第6講 照明3「色彩と照明」 第7講 照明4「色温度と演色性」 第8講 音響3「電気的基础」 第9講 音響4「音を制御する機器」 第10講 照明5「照明配光と陰影効果」 第11講 照明6「3点照明」 第12講 音響5「音のデジタル処理」 第13講 音響6「PA（コンサート・舞台音響）」 第14講 照明7「照明制御システム」 第15講 音響7「録音（コンテンツ制作）」 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	なし。必要に応じてMoodleで資料をシェアします。					
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提示します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）。					
成績評価方法	小レポート及び課題（40%）、定期試験（60%）により評価します。					
授業内の課題・提出方法	授業の理解度を把握するために、毎回の授業時に小テストか小レポートをMoodleで実施します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート、小テストの解説はMoodleやオンデマンド動画内で適宜コメントします。					
アクティブラーニング	小レポート、小テスト					
実務経験のある教員	音響と照明の実務において20年以上の経験を積んできた専門家による講義です。その豊富な経験と知識をもとに、音響と照明に関する基礎知識や理論をわかりやすく指導します。					
担当者から一言	課題の提出状況が評価に大きく影響します。動画を計画的に視聴し、課題に取り組んでください。					

授業科目名	メディア表現の科学			科目コード	381905	授業コード	421806
担当教員	前川 督雄			科目ナンバリング	EIMM4005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる						
授業のねらい	私たちが見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動について学びます。特に、表現・演出につながる特徴に注目します。 感覚と脳は、生物が環境の様子をうかがい、環境に働きかける仕組みが進化するなかで育まれてきました。 (1) 感覚・認識に限界があることを学びます。また、脳の諸機能について学び、心の動き・文化の役割について理解を深めます。 (2) 音の様々な心理的効果とその応用例について学びます。 (3) 目に映る光と影から世界を把握する仕組みを学び、ものが見えるとはどういうことなのかを考えます。						
到達目標	(1) 見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動の根源にある脳について、基礎的な知識を得る。 (2) 音と聴覚に関わる学問・技術の基盤となる知識を得る。 (3) 光と視覚に関わる学問・技術の基盤となる知識を得る。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 脳 生き物と環境 第3講 脳 意識と無意識 第4講 脳 快感 第5講 脳 記憶と文化 第6講 脳 表現と祝祭 第7講 脳 感性の源 第8講 音 心理 なぜ人間の耳は左右についているのか？ 第9講 音 心理 音の心理的効果と応用 第10講 音 心理 音楽と心理 第11講 光 心理 輪郭が見えるとは／錯視 第12講 光 心理 図と地／不思議絵 第13講 光 心理 奥行きの知覚と立体視 第14講 音・光 心理 その他関連分野 第15講 音・光 定期試験 (内容・順序を変更することがあります)						
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません。 講義中にプリントを配付します。 〈参考文献〉 山内昭雄・鮎川武二「感覚の地図帳」講談社（2001年） 池谷裕二監修「脳と心のしくみ」新星出版社（2016年） 仁科工三・河合徳枝「音楽・情報・脳」（2013年）						
事前・事後学習	前期の「音と光の科学」（「脳・音・光の科学I」）を先行して履修していることが望ましい。 授業中に示す次回のキーワードを事前に調べて予習して下さい（90分）。 授業内容を復習するとともに、配布した資料を熟読し、不明点を自分で調べて理解を深めて下さい（90分）。						
成績評価方法	次の配分で総合評価します。 受講態度、学習意欲、授業中の演習問題等（45%） 定期試験（55%）						
授業内の課題・提出方法	授業内に復習課題を課し、教室で提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中の演習問題等について、事後（次回など）に解説を行います。						
アクティブラーニング	体験型の演習や参考となる音楽・映像の視聴を行うことがあります。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	学際的・総合的な内容になります。復習をしながら授業を進めますが、続けて休むとついて行くのが大変になります。						

授業科目名	プログラミング実習基礎		科目コード	382001	授業コード	421807
担当教員	片山 清和		科目ナンバリング	EIMT6001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている					
授業のねらい	ほぼすべてのアプリケーション・プログラムは、プログラミング言語で記述されています。プログラミング言語の中でも、JavascriptはWebページで使われていて、ページに動きを付けたり、入力フォームのチェックをしたりすることなどに使われています。 この講義では、フローチャートで示されたアルゴリズムをJavaScriptで実現することで、アルゴリズムの理解とプログラミングの基礎とデバッグの基礎を学びます。					
到達目標	①フローチャートで記述されたアルゴリズムを理解できる ②フローチャートで記述されたアルゴリズムをJavaScriptでプログラミングできる ③JavaScriptをデバッグできる					
授業計画	第1講 ガイダンス、プログラミングとは 第2講 JavaScriptの入力と実行 第3講 データ型と変数・定数、演算子 第4講 入力と出力 第5講 フローチャート（1） 第6講 デバッグ 第7講 ifによる条件分岐 第8講 フローチャート（2） 第9講 switchによる分岐 第10講 フローチャート（3） 第11講 forによる繰り返し 第12講 whileによる繰り返し 第13講 フローチャート（4） 第14講 フローチャート（5） 第15講 まとめ 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	<テキスト> なし（必要に応じて配布します） <参考文献> 狩野 祐東 「確かな力が身につく JavaScript「超」入門 第2版」 SBクリエイティブ ¥2,728（税込）					
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習すること（60分） 講義後には、演習問題を行うこと（120分） 本講義の内容をふまえ、発展した内容を「プログラミング実習応用1」で学習します。					
成績評価方法	<評価> 課題40%、定期試験60%					
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回授業で課題演習をMoodleで提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> 提出された課題に対してMoodleでコメントします。					
アクティブラーニング	課題、実習					
実務経験のある教員						
担当者から一言	プログラミングでは積み重ねが重要ですので、欠席しないようにしてください。 また、出席状況が悪い場合には減点します。					

授業科目名	プログラミング実習応用 1		科目コード	382002	授業コード	422106
担当教員	足立 明信		科目ナンバリング	EIMT6002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている					
授業のねらい	プログラミングにはさまざまな手法や言語があるが、その中でも幅広く使用されている言語のPythonを例にプログラミングの基本を学ぶ。本来、プログラミングとは情報技術の中の一つの手段であるため、プログラミングを行うことにより達成した目的があるものである。どういった目的に対してプログラミングという手段が有効であるかを理解し、目的を達成する技術としてプログラミングを学ぶ。					
到達目標	プログラミングとはどういうものかを理解し、基本的なプログラミングができるようになること。					
授業計画	第1講 ガイダンス～プログラミング言語Pythonでできる事～実習環境について 第2講 変数宣言・画面出力・変数の型・数値計算について 第3講 データ構造(リスト・タプル・辞書)について 第4講 制御フロー1(コメント・if文・比較演算子・論理演算子) 第5講 制御フロー2(for/while/continue/break) 第6講 関数(関数定義・引数・戻り値・デフォルト引数) 第7講 クラス・オブジェクト1(オブジェクト思考の概念について) 第8講 クラス・オブジェクト2(クラス定義・クラス変数・コンストラクタ・スコープについて) 第9講 組み込み関数1(print/input/formatなど) 第10講 組み込み関数2(型変換/数値計算など) 第11講 ライブラリの利用1(パッケージ/モジュールの概念について) 第12講 ライブラリの利用2(ファイル操作など) 第13講 ライブラリの利用2(エクセルの操作など) 第14講 ライブラリの利用2(データベースの操作など) 第15講 まとめ～プログラミング技術を使った課題の解決方法について ※受講生の理解度や授業の進捗によって、講義範囲は増減する可能性があります。					
テキスト・教材(参考文献)	松浦健一郎 著、司ゆき 著「Python[完全]入門」SBクリエイティブ(2021)					
事前・事後学習	講義内だけでなく、講義時間以外でも課題や予習・復習を行うこと。 「プログラム実習基礎」を受講済みであることが望ましい。 実習環境はWebブラウザを使用してプログラミング及びその実行を行う事ができる、Google社のColaboratoryというサービスを利用します。 各自、初回の講義の前に、Googleアカウントを作成の上ログイン情報を忘れずにメモしておくこと。 「プログラム実習基礎」を受講済みであることが望ましい。					
成績評価方法	「提出物」(40%)、「定期試験」(60%)					
授業内の課題・提出方法	講義内に課題を示し、教育支援システム(Moodle)に提出する形とする。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は翌週の講義内で行うものとする。 教員から個別のフィードバックは行わないので、解説を聞いても不明な点は講義内で質問をすること。					
アクティブラーニング	実習					
実務経験のある教員	現役で民間企業にてAIを用いた画像検査のパッケージソフトの開発を行っている。 ECサイトやWebアプリケーション、スマホアプリケーション、車載ナビゲーションシステムなど開発に携わった経験あり。					
担当者から一言	プログラミング未経験者は、プログラミングと聞くと難しそうに感じるかもしれませんが、プログラミングは難しくありません。 理系も文系も関係なく、誰でもプログラミングはできますので、先入観のみで避けて通らない事を願います。 ※実習教室のコンピューターの数に限りがありますので、受講希望者多数の場合は第一回の講義で抽選を行い受講者を絞る可能性があります。					

授業科目名	プログラミング実習応用 2		科目コード	382003	授業コード	424703
担当教員	池田 幹男		科目ナンバリング	EIMT6003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている					
授業のねらい	「プログラミング実習応用 1」で学習した基本的なPythonプログラミングをもとにして、より発展したPythonプログラミングを学習する。また、Python には有用な様々な外部ライブラリが用意されているので、それらの使用法の基礎を学ぶ。					
到達目標	要件から応用Pythonプログラムを作成できるようになる。					
授業計画	第1講 ガイダンス Pythonプログラミング復習 1 第2講 Python プログラミング復習 2 第3講 Python IDE（統合開発環境）の紹介 第4講 標準ライブラリ 第5講 ファイル入出力 第6講 pandas ライブラリ 第7講 numpy ライブラリ 第8講 matplotlib を使用したデータ可視化 第9講 OpenCV を使用した画像処理 第10講 Tkinter を使用した GUI プログラミング 第11講 マルチスレッドプログラミング 第12講 その他のライブラリ 第13講 自由課題プログラミング 1 第14講 自由課題プログラミング 2 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	松浦 健一郎 (著), 司 ゆき (著)「Python [完全] 入門」SB Creative, ￥3, 190 「プログラミング実習応用 1」で使用したテキストを引き続き使用します。また、他の教材は Moodle で提示します。					
事前・事後学習	Pythonのプログラム例は、インターネットに多く存在します。授業中に作成したプログラムやインターネットで得られたプログラムを動作させてみたり、改良してみたりしてください。（週180分）					
成績評価方法	提出した実習プログラムで100% で評価し、定期試験は実施しません。					
授業内の課題・提出方法	Moodleを利用して作成した課題プログラムを提出します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通して、提出課題等にフィードバックします。					
アクティブラーニング	プログラミング実習					
実務経験のある教員						
担当者から一言	「プログラミング実習応用 1」を履修しないと、この授業をを取ることはできません。自主的にプログラムを作成する意欲が必要です。					

授業科目名	グラフィックツール1		科目コード	382101	授業コード	425403
担当教員	西尾 秀樹		科目ナンバリング	EIMP6001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている					
授業のねらい	Web/DTPなど様々なメディアでビジュアル作成に利用されるAdobe illusratorを使ったグラフィックアプリケーションの入門コースです。 授業は講義と実践（課題）を繰り返し、アプリケーションの基礎技術と各メディアの特徴や各メディアに適したデータ作成方法も理解を深めます。 デジタル環境では、Webを中心とし資料作りや掲示物などもadobe系アプリケーションを使用することによってクオリティを上げることができます。メディアコミュニケーション力アップを目的としたスキル習得していきます。					
到達目標	将来業務でアプリケーションを使用しようと思った時にスムーズにスタートできる程度の基本スキルを身につけ、且つビジュアルコミュニケーション能力アップにも努める。					
授業計画	1.ガイダンス 2.基本操作（何ができるのか解説）・描画の基本（図形ツール・レイヤー・カラーパレット など） 3.色の基本（CMYK/RGB・面と線・グラデーションなど）・選択ツールの使い方 4.自由曲線1（ベジェ曲線の基本） 5.自由曲線2（描画したパスを編集） 6.文字の入力・アウトライン（ロゴタイプ作成） 7.その他ツール（効果・フィルター・整列・パスファインダなど） 8.自由曲線3（下絵をトレースして着色） 9.Webデータと印刷用データについて 10.画像の配置とレイアウト（Photoshopとの連動） 11.デザインデータ作成時の機能活用について 12.デザイン・レイアウトの実践（サンプルに基づいてデータ作成） 13.オリジナル作品作成1 14.オリジナル作品作成2（13-14でじっくり多機能を駆使した作品を作成） 15.合評会 ※今年度は前期金曜2限・3限・4限、後期月曜3限（合計4クラス）に開講します。2年生以上の人が前期に履修する場合はできるだけ前期金曜4限を選択してください。					
テキスト・教材（参考文献）	実習内容に応じて、教員からデータを配布します。					
事前・事後学習	デザインやレイアウトのヒントや参考は、広告物やWebサイトなど世の中に溢れています。 意識して眼にするだけでも自分自身の引き出しへの蓄積は変わってきますので、良いと思ったもののストックや自分ならどうするかを考えて接してください。具体的な事前準備が必要な場合は指示します。					
成績評価方法	授業内提出課題の3-12番まで50%、13-14番の合評会用データ50%					
授業内の課題・提出方法	授業終了時に、クラウドの指定ディレクトリにアップロード					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の講評によってフィードバックします。					
アクティブラーニング	実習を行います。					
実務経験のある教員	実習するアプリを用いた実務経験があります。					
担当者から一言	思考をグラフィック的に具現化できると表現も広がりますし、将来、クリエイティブ専門の業種ではなくても、広告・告知物・プレゼンテーション資料作りなど多岐にわたり活用できるスキルですので、多くの学生が身につけてもらえればと思います。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。					

授業科目名	グラフィックツール2		科目コード	382102	授業コード	425603
担当教員	西尾 秀樹		科目ナンバリング	EIMP6002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている					
授業のねらい	Web/DTPなど様々なメディアでビジュアル作成に利用されるAdobe Photoshopを使ったグラフィック（画像処理）アプリケーションの入門コースです。 授業は講義と実践（課題）を繰り返し、アプリケーションの基礎技術と各メディアの特徴や各メディアに適したデータ作成方法も理解を深めます。 デジタル環境では、Webを中心とし資料作りや掲示物などもadobe系アプリケーションを使用することによってクオリティを上げることができます。メディアコミュニケーション力アップを目的としたスキル習得していきます。					
到達目標	将来業務でアプリケーションを使用しようと思った時にスムーズにスタートできる程度の基本スキルを身につけ、且つビジュアルコミュニケーション能力アップにも努める。					
授業計画	1.ガイダンス 2.基本操作（何ができるのか解説）・解像度について（Web/DTPデータの違い・カラーモードなど） 3.色調整・サイズ調整 4.画像修正（削除ツール・生成塗りつぶし・スタンプツール など） 5.選択範囲作成1（画像の切り抜き） 6.選択範囲作成2（背景変更・合成 など） 7.画像修正・コラージュ・変形・拡大縮小 8.ペイント・色変換 9.文字入力・加工／フィルター・その他ツール 10.デザインの実践1（バナーデザインなど） 11.デザインの実践2（illustratorとの連動） 12.デザインの実践3（サンプルに基づいてデータ作成） 13.オリジナル作品作成1（自身のスマートフォンで撮影した画像を使用） 14.オリジナル作品作成2（13-14でじっくり多機能を駆使した作品を作成） 15.合評会					
テキスト・教材（参考文献）	実習内容に応じて、教員から画像データを配布します。					
事前・事後学習	綺麗な画像や加工された画像は、広告物やWebサイトなど世の中に溢れています。 「これ面白い画像だな」とか「どうやって作ったんだろう」という気付きが作品の幅を広げますので、眼にした画像から何かを感じる習慣を意識してみてください。具体的な事前準備が必要な場合は指示します。					
成績評価方法	授業内提出課題の4-12番まで50%、13-14番の合評会用データ50%					
授業内の課題・提出方法	授業終了時に、クラウドの指定ディレクトリにアップロード					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の講評によってフィードバックします。					
アクティブラーニング	実習を行います。					
実務経験のある教員	実習するアプリを用いた実務経験があります。					
担当者から一言	Webの活用には画像は重要な要素です。画像の加工・修正ができるだけでも使用できる画像は格段に増えます。将来、クリエイティブ専門の業種ではなくても、Webサイト更新・広告・告知物・プレゼンテーション資料作りなど多岐にわたり活用できるスキルですので、多くの学生が身につけてもらえればと思います。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。					

授業科目名	Webデザイン	科目コード	382103	授業コード	421607
担当教員	堀内 敬弘	科目ナンバリング	EIMP6009		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている				
授業のねらい	この授業ではWebデザインaで学習したデザインツールのスキルを活かしてより実際の現場に近いWebデザイン業務を疑似体験しながらデザインまでのプロセスをチーム（コロナウィルスの感染状況や受講人数により個人で行う場合もございます。）で学びます。				
到達目標	この授業では、学生諸君がWebデザインに関する基本的な用語や構造、知識、手法を身につけ、簡易的なWebサイトデザインができるようになる事を到達目標としています。				
授業計画	Macを用いた演習を行います。 第1講 ガイダンス 最新Webデザインのトレンド / お気に入りのWEBサイト集め 第2講 チーム決めと架空クライアントによる要望の発表とコンセプトメイキング 第3講 ワイヤフレーム制作① 第4講 ワイヤフレーム制作② 第5講 デザイン制作① 第6講 デザイン制作② 第7講 デザイン制作③ 第8講 デザイン制作④ 第9講 デザイン制作⑤ 第10講 デザイン制作⑥ 第11講 デザイン制作⑦ 第12講 デザイン制作⑧ 第13講 デザイン制作⑨ 第14講 プレゼンテーション準備 第15講 プレゼンテーション/投票・評価/まとめ				
テキスト・教材（参考文献）	特になし				
事前・事後学習	・毎講義ごとに行った操作方法やショートカットキーなどをその場でメモしていただき、復習しておくこと ・インターネットを用いて、WEBデザイン参考サイトなど制作に必要な資料のリサーチ、ストック				
成績評価方法	成績は次のような配分により評価します。 ・チーム制作時における協調性や積極的な態度：30% ・全授業終了後に提出する課題の提出状況、プレゼン力、及びクオリティ・理解度：80% ・定期試験：定期試験はありません				
授業内の課題・提出方法	提出物：講義を通して作成する基礎演習データおよび応用演習データ 提出方法：講義時にデータにて提出				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	成績登録にてフィードバック				
アクティブラーニング	Macを用いた演習				
実務経験のある教員	デザイン会社代表				
担当者から一言	Webデザインaを受講済みの学生のみ履修できます。 Webデザインの授業の集大成でもあります。Webデザインaで学習したデザインスキルを活かしてチームで1つのWebページのデザインキャンプを作り上げる大変さと楽しさを体験しましょう。				

授業科目名	ビデオツール	科目コード	382106	授業コード	424103
担当教員	田中 麻衣	科目ナンバリング	EIMP6006		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている				
授業のねらい	この授業はAdobe Premiere Proを使用し、動画編集技術を学ぶ授業です。				
到達目標	Premiere Proを触ったことがない、編集ソフトを触ったことがない、初心者が最終的には映像作品を作り上げることを目標としています。				
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：Premiere Pro 「初期設定」 第3回：Premiere Pro 「初期設定のおさらい&基本操作1」 第4回：Premiere Pro 「基本操作2」 第5回：Premiere Pro 「基本操作3」 第6回：Premiere Pro 「応用編1」 第7回：実習1 第8回：実習1 第9回：実習2（企画&撮影） 第10回：実習2（編集） 第11回：実習2（編集） 第12回：最終課題制作（企画） 第13回：最終課題制作（撮影） 第14回：最終課題制作（編集） 第15回：最終課題制作（編集）				
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じてプリントを配布します。				
事前・事後学習	たくさんの映像作品にふれてもらいたいのので、映像作品（映画、CM、ドラマなど）を1日に1作品見ることを準備学習とします。準備学習のレポートを課題として、提出してもらおう機会も設けていきたいと思います。				
成績評価方法	授業の都度に作品を制作してもらいます。各作品の出来栄と授業の出席率、授業への取り組み態度などを総合的に評価し、成績をつけていきたいと思います。				
授業内の課題・提出方法	授業内の課題提出は授業内で、提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバックは、提出してもらい、直接本人と話しをしながら、提出物へのフィードバックとします。また、教師からだけでなく、同じ授業を受けている仲間からのフィードバックをする場合もあります。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言					

授業科目名	音響照明技術	科目コード	382107	授業コード	426101
担当教員	黒田 淳哉	科目ナンバリング	EIMP6007		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる				
授業のねらい	音響と照明に関する基礎技術を「集中講義」で身につけます。機材の取り扱いから始まり、プロの制作現場に必要な技術を実践的に学びます。ライブコンサートにおける音響や照明技術を学びたい学生にとっては必須の講義であり、後学期に開講の「音響照明概論」と併せて受講することをお勧めします。 ※ 本講義は「音響照明概論」の後に履修することが望ましい。				
到達目標	・音響と照明の機材を適切に取り扱うことができる。 ・ライブコンサートに必要な技術を身につける。 ・コンサートの完成に向けて、仲間と協力しながら建設的な取り組みができる。				
授業計画	<1日目 7月20日(土) 予定> 第1講 照明1「機材の説明」 第2講 照明2「仕込み図面の読み方～セッティング」 第3講 照明3「セッティング～フォーカス」 第4講 照明4「フォーカス～プログラミング」 第5講 照明5「プログラミング」 <2日目 7月21日(日) 予定> 第6講 音響1「音響仕込み図の読み方」 第7講 音響2「出力系(スピーカー等)のセッティング」 第8講 音響3「入力系(マイク等)のセッティング」 第9講 音響4「ミキサーの設定」 第10講 音響5「スピーカーの音質調整」 <3日目 8月3日(土) 予定> 第11講 調整1 第12講 調整2 第13講 調整3 リハーサル 第14講 本番 第15講 まとめ				
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）				
事前・事後学習	予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分） 復習 配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）				
成績評価方法	ルーブリックによって評価を行います。評価基準は、第1講のガイダンスにて配布します。なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、無断欠席者には減点等のペナルティーを課すことがあります。				
授業内の課題・提出方法	毎回の講義でミニツッパーパーを提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題等のフィードバックは講義時に適宜コメントします。				
アクティブラーニング	ディスカッション、グループワーク、実習				
実務経験のある教員	音響と照明の実務において20年以上の経験を積んできた専門家による講義です。その豊富な経験と知識をもとに、音響と照明に関する基礎技術をわかりやすく指導します。				
担当者から一言	・履修定員を設けるため、受講希望人数が多い場合は抽選を行います。 ・本講義は3日間の「集中講義」であるため、遅刻や欠席が、評価に大きく影響します。 ・怪我を防ぐために、室内用のシューズと作業用の手袋を用意してください。				

授業科目名	電子音楽ツール		科目コード	382108	授業コード	422603
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	EIMP6008		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	向上心を持ち自らの知識や能力・可能性を常に伸ばしていこうとする姿勢					
授業のねらい	本講義では、Macをつかった音楽制作についてgarageBandや、LogicProXといったアプリケーションを使って第一歩から学びます。					
到達目標	コンピュータを使った音楽制作の基礎知識と、作品制作における技術を身に着ける。					
授業計画	・講義ではMac(GarageBand, Logic Pro X)を用いた実習を行います。 (※はMac実習) 1.ガイダンス・基礎知識 2.コンピュータをつかった音楽制作とは 3.音楽の基礎 4.ループ音源を組み合わせる1※ 5.ループ音源を組み合わせる2※ 6.楽譜を音にする1※ 7.楽譜を音にする2※ 8.エフェクトとは 9.MixDownとは※ 10.生音の加工1※ 11.生音の加工2※ 12.効果音の世界1※ 13.効果音の世界2※ 14.音作品製作1※ 15.音作品制作2※ 定期試験 ※※授業計画は受講者の理解・技術習得に合わせて内容・順序を変更することがあります。					
テキスト・教材（参考文献）	データ保存用にUSBメモリーや外付けSSD(16GB USB3.0規格以上推奨)を必ず用意してください。 必要な資料は適時配布します。					
事前・事後学習	実習ではMacを使用します。Windowsとは操作が異なるので、Mac教室(5201)で実際に使用して予習を行ってください。授業中にできなかった課題をすることで、早く慣れる事ができるでしょう(90分) 音楽をしっかり聴きこみ、どういう音で構成されているのかというのを気にしておく事。 分析しながら曲を聴きこむ(90分)					
成績評価方法	受講態度30%(課題に取り組む姿勢・受講の態度) 作品提出30% レポート・定期試験40%					
授業内の課題・提出方法	学内サーバーの指定フォルダに提出 授業外では、Moodleやメールを利用。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講評が必要なものは、当日・翌週に講評。 質問などのフィードバックは適時行う。					
アクティブラーニング	Mac実習					
実務経験のある教員	ダンス音源制作・パフォーマンスグループ動画音源制作編集等の業務に従事経験有					
担当者から一言	音楽制作は難しいイメージがありますが、第一歩から音楽制作を学びます。 共に音楽を学びましょう。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。					

授業科目名	感性と創造		科目コード	382110	授業コード	425605
担当教員	黒田 淳哉		科目ナンバリング	EIMP6003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる					
授業のねらい	文化が生まれるところには、はじめに「遊び」があります。その遊びが社会的に評価され、継続することにより文化として定着していきます。音楽の文化や、現在のSNS文化も元を正せば、ちょっとした工夫や遊びの延長線上に花開いたものです。本講義では、遊びの感覚でメディア作品制作を体験することから始め、最終的には作品制作を通して自分自身の感性と向き合い、個々の創造力を育むことを目的としています。					
到達目標	・メディアの作品制作に必要な各ステップを経験する。 ・作品の完成に向け建設的な取り組みができる。 これらを到達目標としながら、自分の中にある隠れた一面や才能の発見を目指します。					
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要～写真1 第2講 写真2 第3講 発表～ディスカッション 第4講 絵コンテ（企画・構成） 第5講 絵コンテ（制作） 第6講 絵コンテ（制作） 第7講 発表～ディスカッション 第8講 発表～ディスカッション 第9講 ストップモーションムービー（企画・構成） 第10講 ストップモーションムービー（撮影） 第11講 ストップモーションムービー（編集） 第12講 発表～ディスカッション 第13講 発表～ディスカッション 第14講 作品鑑賞～分析 第15講 作品鑑賞～分析					
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）					
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提示します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを見返すなど復習しておくこと（90分）。					
成績評価方法	ルーブリックによって評価を行います。評価基準は、第1講のガイダンスにて配布します。なお、4回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。また、遅刻も減点となります。					
授業内の課題・提出方法	講義でいくつか作品をグループに分かれて制作します。それぞれの作品を完成させることが課題です。また、完成した作品は、講義内で発表してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出した作品は、講義内の発表時に講評を行います。					
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、実習、ペアワーク					
実務経験のある教員						
担当者から一言	毎回の講義で習得する知識や技術を積み上げて進めていきますので、講義は休まないで下さい。また、本講義は、スマートフォンを利用する機会が多々ありますが、必要な作業以外での使用を禁止します。講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。					

授業科目名	作品制作	科目コード	382111	授業コード	424105
担当教員	柳瀬 元志	科目ナンバリング	EIMP6004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる				
授業のねらい	プロが撮影や取材現場で使用するカメラを使ったロケや、グループを作って企画・録音・編集を自分たちの手で行うラジオCM。 また静止画と文章を組み合わせるストーリーを構成する授業などを行います。 特に制作した作品を発表する「プレゼンテーション」の機会を多く設け、「つくる」だけでなくメディアに必要な「伝える」ことの大切さを体験して身につけることを狙いとします。				
到達目標	プロの方法論による作品制作の演習を通じて、モノづくりの楽しさ、むつかしさを体験するとともに、専門課程につながる知識や技術の習得、自己表現のスキルアップを目指します。				
授業計画	第1講：ガイダンス ～クリエイティビティとは何か～ 第2講：ポートレート① 自分自身 第3講：ポートレート② なりきり 第4講：ポートレート③ プレゼンテーション 第5講：フォトエッセイ① 制作 第6講：フォトエッセイ② 制作 第7講：フォトエッセイ③ プレゼンテーション 第8講：撮影実習 カメラの基本操作① 第9講：撮影実習 カメラの基本操作② 第10講：シナハン・ロケハン 第12講：脚本制作 第13講：撮影① 第14講：撮影② 第15講：プレビュー&まとめ ※作品の進捗状況により、内容の変更・入れ替えがあります。				
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて、テキスト及び参考文献や資料を配布します。				
事前・事後学習	制作だけでなく、授業以外にも自ら継続的に創作活動を行う意識を持ってください。 日々様々なメディアを利用して、話題となっているイベントや展覧会、映画、CM、舞台、テレビ番組、小説、配信番組、ライブコンサートなど、スキルアップにつながる行動をどん欲に行う習慣を身につけてください。				
成績評価方法	授業・課題への取り組む姿勢 30% 課題制作への意欲・参加度 30% 作品内容・完成度 20% 試験に代わる課題、もしくはレポート 20%				
授業内の課題・提出方法	教員に直接手渡し。もしくはメール、教学課提出BOXなど、適切な方法を指示します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	採点し必要に応じて返却します。				
アクティブラーニング	映像作品の制作に関する基礎基本的な静止画の撮影、文章表現、機材を用いての撮影体験やシミュレーションを行います。				
実務経験のある教員	中京テレビをはじめ、在名各テレビ局で番組制作の経験あり。現在も現役として企画から完パケまでを手掛けている。				
担当者から一言	普段から多種多様な作品に触れたり、美術鑑賞や観劇など自分自身の「見る目」を養ってください。グループで行う作業が数多くあります。「遅刻」「欠席」をしないよう責任と自覚をもって取り組んでください。				